

■ ■ 卒後臨床研修評価機構
■ ■ 認定病院

Japan Council for Evaluation of Postgraduate
Clinical Training

JCEP

医師臨床研修のご案内

2023年度 臨床研修医募集

最前線で磨く
医の心と技

地方独立行政法人 奈良県立病院機構

奈良県西和医療センター

NARA PREFECTURE SEIWA MEDICAL CENTER



動画説明をご覧ください。

奈良県西和医療センター 初期臨床研修プログラム



👉 病院の詳細ページはこちら

2021年10月11日 奈良県西和医療センターオンライン説明会



👉 病院の詳細ページはこちら

※ 民間医局「レジナビWeb」のホームページからもご覧いただけます。

理事長あいさつ	4
総長あいさつ	5
院長あいさつ	6
卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定	7
病院概要	8
奈良県西和臨床研修病院群	9
理念と基本方針	10
研修理念とプログラムの特徴	11
奈良県西和医療センター臨床研修の実際	12
臨床研修プログラム	13
科目について	14
各診療科の特色	
総合内科、感染症内科、腫瘍内科	15
腎臓内科、循環器内科	16
消化器・糖尿病内科	17
中央内視鏡部、呼吸器内科、脳神経内科	18
小児科	19
外科・消化器外科	20
脊椎脊髄外科、整形外科・人工関節センター、脳神経外科	21
心臓血管外科、ICU/CCU、皮膚科	22
形成外科、泌尿器科、産婦人科	23
眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科	24
放射線科、麻酔科	25
集学的循環器病治療センター	26
連携病院での研修	27
学会施設認定および厚生労働省による特殊治療施設認定	33
学術教育活動	
大和川メディカルアカデミー、西和医療センター医学雑誌	34
医学生と研修医のための日本内科学会ことはじめ	35
教育体制	
研修医のためのモーニングカンファレンス	36
内科統合カンファレンス	37
臨床病理検討会（CPC）	38
研修医セミナー	39
院外講師による特別講座	42
Bolstad 先生による Clinical English Program	56
シミュレーショントレーニング	58
院外研修	67
院内取り組みについて	
災害医療	68
災害訓練	69
COVID-19 診療（研修医の関わり）	70
COVID-19 ワクチン接種会場への研修医派遣	71
研修医の日常	
当直業務、奈良県立病院機構忘年会	72
臨床研修修了祝賀会	73
医師臨床研修修了証授与式、臨床研修医同窓会	
研修医の集い in 奈良、直近 5 年間の研修修了後の進路	74
先輩の声	75
研修設備、待遇	97
募集要項	98
病院見学のご案内、Web 説明会のご案内	99
学生見学申込書	100

地方独立行政法人 奈良県立病院機構の理事長を務めています上田 裕一です。「医師としての第一歩となる初期臨床研修をどの施設で始めようか？」と思案中の医学部生の皆さんに、奈良県西和医療センターを紹介させていただきます。本法人は理念に『医の心と技を最高レベルに磨き、県民の健康を生涯にわたって支え続けます。』を掲げています。この理念を達成する人材となる医療専門職の採用には「君が奈良の未来だ！」とホームページに謳っており、奈良の未来の医療を支える初期臨床研修医の皆さんには、臨床現場で「医の心と技を磨き」、優れた医療を実践できるように研修を指導いたします。

さて、奈良県西和医療センターは、長い歴史のある奈良県立三室病院から、平成 26 年 4 月に地方独立行政法人 奈良県立病院機構の下に改組されました。法人化についての説明は省きますが、名称が変わっただけではなく種々の新たな取り組みを実行しています。西和医療センターは、地域に密着したプライマリーケアから、集学的循環器病治療センター・消化器がん低侵襲治療センター・人工関節センターなどの高度な医療まで幅広く診療を展開しています。これらのセンターは、診療科の枠を超えて各専門医とメディカルスタッフが緊密に連携できるように体制を強化したものです。つまり、初診や救急からこうした高度医療まで、各場面で臨床研修ができる機会を提供しています。

また、法人内には『医療専門職教育研修センター』が併設されていますが、県内の医療専門職（医師、看護師、薬剤師、各種技師などの国家資格を持つ医療者）に加え、事務系も含めた医療に従事する多職種に対して、卒後から生涯教育まで教育研修を展開します。中でも、医師法で規定された初期臨床研修は、冒頭にも記載しましたように「医師としての第一歩」ですから、極めて重要な修練と位置付けています。おそらく皆さんは、知識や技術の修得機会はどうかに注目されていることと思いますが、私は、診療規範や医師としての診療態度を身につける貴重な時期であると考えています。それには、指導医と研修医の関係に留まらず、多職種とのチーム医療が充実した臨床現場で体得することが重要です。研修医の皆さんには、個人のテクニカル スキルの向上に加えて、医療現場のチームに必要なノンテクニカルスキルを身につけ、まさに、当法人の理念である「最高レベルの医の心と技を磨く」ことが達成できるように、修練・診療環境を整えて参ります。なお、法人化に伴い初期研修医の処遇についても見直しており、改善しております。

奈良県西和医療センターは皆さんの期待に応えることのできる臨床研修施設とであると確信しています。奈良の地で、意欲あふれる皆さんとともに充実した医療を患者さんに提供できることを願っています。



理事長 上田裕一

奈良県西和医療センター総長の齋藤能彦です。私は、本年の3月31日まで奈良県立医科大学に勤めておりました。西和医療センターは、まだ新米です。しかし、病院に勤め始めて、肌で感じるがあります。それは、西和医療センターの理念に「患者さんを家族のように愛する、良い医療をより多くの患者さんへ」とありますように、病院に入った時に感じる、スタッフ全員が患者さんを大事にしている雰囲気です。このような病院で、医師としての第一歩を歩み始めることは、きっと皆様の医師としての人生に、計り知れない良い効果があると思います。上田裕一理事長も、奈良県立病院機構の理念を述べておられますが、医師は、「医の心と技を最高レベルに磨く」必要があります。この両方とも同等に重要です。皆様が医師を志した頃、そして、おそらく、医師として働き始める時には、患者さんのために働きたい、病める人に寄り添いたい、と自然に思っていたはずですが、それこそまさに医の心です。ところが、医師になり慣れてくると、また、ぞんざいな医師の中で働いていると、その医の心を忘れる人が時々おられるのです。しかし、医師1年目に、「患者さんを家族のように愛する」医の心の文化の中に身を置けば、それは、知らず知らずのうちに体に染み付き、何年経っても忘れないようになるのです。三つ子の魂百まで、とはよく言ったものです。

もう一つ大事なのは医の技を最高レベルに磨くことです。医の技を最高レベルに到達させることは一朝一夕には不可能です。しかし、西和医療センターでは、最高レベルの医の技を持っている先輩医師がたくさん在籍しております。彼らから、医の技を真近に見て、体験してください。

人が人間として成長していく上で、読書は大変重要なものです。読書には多読と精読があるように、医師として成長する為にも、多くの症例に接することと、症例を深く科学することの両方が必須です。若い時に触れたことのない疾病は、上手に対処することが困難なものです。若い時は、貪欲に多くの症例に触れることが重要です。しかし、ただ、多くの症例に触れるだけでは、医師としての科学的な素養を醸成することは困難です。時には、症例を深く掘り下げることが必要です。その分野の最新知識を勉強し、目の前の症例に還元すること、そしてそれを、学会で発表し文字として残すことが重要です。このような精読を、全ての症例で実践することは時間的に不可能ですが、時には大事なことです。この様に、多読と精読の両方を実践しやすい環境としては、私は病床数が300-400床前後の病院が最適かと思います。病院も大きすぎるとセクショナリズムも強くなりすぎ多読が難しくなり、病床数が少なすぎると精読が難しくなります。

西和医療センターは、医師としてのスタートを切る最適の研修病院であると、信じております。私も皆様が、充実したより良い医師としての人生のスタートを切れるように誠心誠意尽力いたします。一緒に医療に携わる喜びを共有いたしましょう。



総長 齋藤能彦

「教育は西和医療センターの礎」(必ず読んでください)

奈良県西和医療センターでは、最高レベルの医師臨床研修を目指して、プログラム作成をして参りました。そのレベルは、ここで研修し大学病院などの様々な専門医プログラムに羽ばたいて行った卒業生たちの実力を見ていただければ、理解していただけると思います。

奈良県西和医療センターは、基幹型臨床研修病院ですが、同時に地域に密着した、重症急性期医療を担う地域医療支援病院でもあります。奈良県西部に暮らす県民 30 万人の命と健康を守っています。最後の砦といわれる大学病院とは異なる、最前線の医療機関ですので、診断がついていない、しかも重篤な患者さんの最初の診療を担うことが使命です。そのためプライマリ・ケア、救急医療、総合診療を 2 年間の重要な研修テーマとしたうえで、専門的な診療科での研修を展開するようにしています。ローテートは、1 年目で必修診療科をまわりますが、まずは内科での研修から開始します。内科での研修を通じて、プライマリ・ケアでの実践を行い、医師としてのプロフェッショナルリズムを学び、自らの姿勢を確立していってまいります。そして救急科、麻酔科、小児科、外科などの必修診療科での研修を通じて、あらゆるジャンルに精通する知識と技術を培ってゆきます。2 年目の研修では将来を見つめて、より専門的な外科系診療科のがんの手術や様々な鏡視下手術、脳神経外科手術、心臓血管外科手術だけでなく、内科の消化器内視鏡手術や循環器のカテーテル手術のチームに入って学んでもらいます。救急医療においては、研修医 1 人あたりのファーストタッチ件数は 500-600 例にもなるため、実践での豊富な経験に裏打ちされた知識と技術が身につきます。このような最前線での医療を担うために、研修医には様々な教育の場を提供しています。この冊子を読んでいただくと、その内容の豊富さに気づいてもらえると思います。最新の正しい知識と、最前線での実践経験とを統合して、医師としての技術「医の技」を学んでもらえたらと思います。研修医として過ごす 2 年間は、後の医師人生における「医の心」を形成する最も重要な時期です。先輩の真摯な診療態度や患者さんに対する思いやりのあるコミュニケーションを間近で見ることによって、医師としてのプロフェッショナルリズムを醸成してもらえると信じています。2020 年から 2022 年は COVID-19 に翻弄されています。世界が困難に直面している中、奈良県西和医療センターも COVID-19 の診療を通じて、県民の命を守るため病院の職員一丸となって取り組んでいます。このような最前線に立つ市中の一般病院での医療活動を若い研修医時代に経験しておくことは、どのような専門医コースに進むにせよ、必ず医師としてのしっかりした土台になります。皆さんの成長があつてこそ病院も成長し、地域になくってはならない愛される医療機関になってゆけると考えて、教育に取り組んでいます。皆さんと共に学べる日を待ち望んでいます。



病院長 土肥直文
(臨床研修統括責任者)

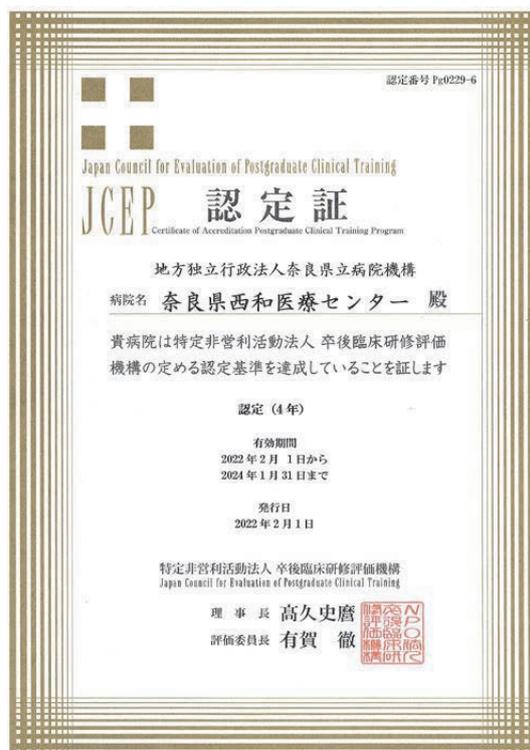


卒後臨床研修評価機構（JCEP） 認定を受けました

卒後臨床研修評価機構（JCEP）による臨床研修内容の審査を受けました。

基幹型臨床研修病院は、第三者機関による臨床研修の内容、実態についての評価を受けることが推奨されています。当院の臨床研修プログラムおよびその実態について、2017年12月12日にNPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）のサーベイヤーの先生方の調査をしていただきました。事前の書類審査および、サーベイ当日にも臨床研修に関わる記録の詳細をチェックしていただき、病院内での実際の研修を病棟や救急外来で調査（実際に電子カルテの前で受け持ち患者さんに対する関わり方をプレゼンテーションする）していただきました。まる1日の調査を終えて、最後の講評で、サーベイヤー（全国的に有名な医療機関の指導医の先生方）から「自分が研修医ならこの病院で研修したいと思う研修内容になっていて、実際の研修医も活発で生き生きしていました」という感想をいただきました。準備は大変でしたが、審査をうけて初めて分かることもあるので、今後も研修内容がもっともっと良くなるように、改善する努力を続けていきます。当日のサーベイヤーの審査の結果を、JCEP事務局でさらに審査して頂き、4年認定を頂くことができました。

2021年12月に再認定の調査を受け、当センターの臨床研修プログラムはより良く改善するための課題をもらいつつも高く評価していただき、再認定されました。



病院概要

1 診療実績（令和3年度）

入院患者数

延入院患者数	63,048名
新規入院患者数	5,682名（15.6名/日）
平均在院日数	11.1日
病床稼働率	85.10%
緊急入院患者数	2,876名
外来患者数	146,892名（604名/日）
救急車搬入件数	2,282件
時間外患者数	3,871名
心肺停止状態搬送患者数	47件
病理解剖	2例
臨床病理検討会（CPC）	5例（7月,10月）

集学的循環器病治療センター

心臓カテーテル検査	490件（診断は144件）
冠動脈カテーテル治療	207件
カテーテルアブレーション	113件
末梢血管の血管内治療	98件
ペースメーカー、植込み型	
除細動器手術	72件
心臓血管外科手術件数	192件
脳卒中手術件数	163件

総手術件数

外科手術件数	400件
腹腔鏡下手術	256件
単孔式	44件
脳神経外科	253件

2 診療体制

標榜診療科

内科、腎臓内科、循環器内科、消化器内科、消化器・糖尿病内科、呼吸器内科、脳神経内科、感染症内科、小児科、外科・消化器外科、脊椎脊髄外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科・形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科、呼吸器外科、病理診断科、腫瘍内科、心療内科、糖尿病・内分泌内科

病床数 300床（ICU 4床・CCU 4床）

診療科別医師数（ ）内は非常勤または兼務

診療科	員数	眼科	2
腎臓内科	4	産婦人科	2
循環器内科	13	リハビリテーション科	1
消化器内科	7	耳鼻咽喉科	2
脳神経内科	(2)	泌尿器科	3
呼吸器内科	2	皮膚科・形成外科	3
感染症内科	(2)	放射線科	4
外科・消化器外科	6	麻酔科	(1)
脳神経外科	2	中央臨床検査部	1
整形外科	4	初期臨床研修医（一年次）	8
心臓血管外科	2	初期臨床研修医（二年次）	8
呼吸器外科	(1)	救急科	0
小児科	4	合計	84



奈良県西和臨床研修病院群



奈良県総合医療センター



奈良県西和医療センター



奈良県立医科大学附属病院



ハートランドしぎさん
(信貴山病院)



国保中央病院



南奈良総合医療センター



郡山保健所
(行政)



奈良県総合リハビリテーションセンター



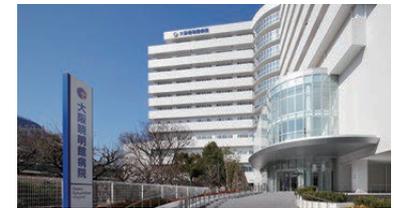
神奈川県三浦市立病院
(連携病院)



上野病院



やわらぎクリニック



大阪曙明館病院



奈良県立病院機構理念

“医の心と技”を最高レベルに磨き、
県民の健康を生涯にわたって支え続けます

奈良県西和医療センター理念

- ・患者さんを家族のように愛する
- ・いい医療をより多くの患者さんへ

奈良県西和医療センター基本方針

1. 西和地域における重症急性期を担う基幹病院を目指し、公立病院としての役割を果たします。
2. 患者さんおよび地域社会に満足いただける病院を目指します。
3. 将来の医療を担う「心と技」を兼ね備えた医療人を育成します。
4. 職員が働きがいを感じ、満足できる病院を目指します。

研修理念

- 1 人としての医師の人格を涵養し、生涯にわたり自己研鑽する医師を養成する。
- 2 日常診療に必要な幅広い基本的診療能力(態度・技術・知識)を習得し、チーム医療ができる医師を養成する。
- 3 公的医療機関の一員として、いかなる時も地域社会に貢献する責任感を有する医師を養成する。

プログラムの特徴

1. 医師だけではなく、院内のすべてのスタッフがみんなで臨床研修医を育てる環境を整えている。
2. 内科系・外科系を問わず圧倒的な救急診療を経験する。
3. 少数精鋭主義（各学年 10 名のため、同じ診療科に 2～3 名までのローテート）のため、研修医ひとりあたりの経験が豊富である。
4. 集学的循環器病治療センターを有しており、循環器系疾患や脳神経疾患などの高度医療（手術や血管内治療）が充実している。
5. 中央内視鏡部門が強化されており、内視鏡を用いた高度な治療を含む消化器疾患の症例数が多い。整形外科、脳神経外科、外科・消化器外科、心臓血管外科では、高度で多彩な研修をしており、外科医を目指す研修医にとっても優れた環境です。
6. 指導医だけでなく、院内・院外のエキスパートによるレクチャーやケースカンファレンス、Clinical English Training など 2 年間を通じた全体学習に力を入れている。
7. 地域医療研修として、奈良県内のへき地医療、緩和医療、保健所での行政などを経験できるほか、神奈川県地域医療研修も選択できる。
8. 2 年目のプログラムは 3 年目に選択する専門医コース等の進路に合わせた様々なプランの作成が可能で、奈良医大附属病院や奈良県総合医療センターから選択できる。



奈良県西和医療センター—臨床研修の実際

1) 臨床研修の目標

奈良県西和医療センターの研修では、臨床の実践のなかで、患者さんに提供する医療への責任感と思いやりの心を育てることを大切にし、医療者としてのプロフェッショナルリズムを生涯にわたり研鑽する医師を育てることを目標としています。

2) 診療科での研修

当センターでは、common diseases や救急診療などの地域に密着した基本診療から先端医療まで幅広い研修を用意しています。初期研修1年目では6ヶ月間以上の内科研修に加え、麻酔科を含めた救急医療研修、さらに一般外科や小児科、産婦人科、地域医療といった必修診療科を研修します。研修1年目では、医療現場で患者さんの力になるための『技術と心構え（臨床医のスピリット）』を形成する期間であると同時に、いち社会人として成長する期間でもあります。診療科研修では上級医からの医療業務・医療技術の指導だけでなく、看護師や技師・薬剤師、医療事務の方などすべてのスタッフから修得すべき『臨床医のスピリット』を学びます。

当センターの研修は、医師として幅広い経験を積んでいただくために総合内科・総合診療を中心とした研修を目標としており、症候から診断に至るまでの論理的な思考過程をたどる臨床推論能力をつけることを重要視しています。内科初診外来での診療研修だけでなく、年間2500～3000台の救急車搬送（二次救急）による救急患者さんやwalk-inの救急患者さんの初期対応を担当し（研修医ひとりあたり500～600症例、2017～2019年実績に基づくデータ）、上級医の指導を受けます。当直では、内科系、外科系、小児科当直の指導医のもと、救急外来に来院されるすべての患者さんの診療に当たります。圧倒的な数の重症救急疾患を経験することで、重症例の初療や、病棟での急変時にも適切に対応できる技量をつけることができます。麻酔科での研修においては、麻酔の研修とともに（研修医1人あたり）50～100例の気管挿管を含めた麻酔症例を指導医立会いのもとに経験します。その経験数は圧倒的であり、研修後の救急外来での重症患者さんの対応に非常に役立ちます。

このように、初期研修1年目で重症救急患者さんの初期診療を豊富に経験することで、第一線で活躍できる医師としての技術と心構えを学び、2年目以降は救命救急センターなどの専門的研修にも自信を持って参加することができます。各診療科での研修の特色については、次ページ以降をご覧ください。

3) 全体学習で力をつける

研修医は2年間を通して、ほぼ毎日、早朝と夕方に全体学習の時間をとっています。どの診療科で研修を受けていても、夕方には研修医室に戻って勉強します。月曜日の朝は、研修医による『研修医のためのモーニングカンファレンス』からスタートします。救急やプライマリケアの診療にとっても重要なTIPSを、ファシリテーターである上級医監修のもと、研修医がプレゼンテーションします。カンファレンスには、全研修医と専攻医、6-10年目の上級医に指導医や診療部長も加わります。発表する研修医にとっては、担当するテーマについて勉強して、さらに発表するため、インプット・アウトプット能力の向上にもつながっています。

各診療科が研修医に対して行う勉強会には、消化器内科が主催する『消化器疾患スキルアップセミナー』、放射線科主催の『画像の読影トレーニング講座』、循環器内科主催の『心電図判読トレーニング講座』を定期的に開催しています。また、感染制御内科の北和也先生が主催する『感染制御内科ケースカンファレンス』では感染症疾患の基本的考え方、抗菌薬の使用法の考え方を学びます。中村孝人先生（ヶ丘医療センター呼吸器内科部長）の『総合診療カンファレンス』では、豊富な総合診療の経験から臨床推論を論理的に研修医に伝授します。さらに、Bolstad先生による『Clinical English Program』では、日常会話ではなく医学的議論・臨床テーマについて英語で議論する訓練もあります。臨床医は、英語を駆使できる能力が必要であり、このプログラムで英語のアウトプット能力が高まります。

また、外部の専門医師による勉強会も定期開催しています。年4回、当院と奈良県総合医療センターとの共催で開催している、NHK総合診療医ドクターGの元祖である洛和会京都医学教育センターの酒見英太先生による総合診療ケースカンファレンスは、症状や身体所見から診断に至る臨床推論の考え方を磨く講座です。さらに、臨床研修で著名な医師を外部講師として招聘し、研修医向けの教育講座（多くはカンファレンス方式）を開いています。そのほか、毎週の死亡症例検討会だけでなく、病理解剖症例も1年に10～15例程度あり、病理と臨床のカンファレンスであるCPCも定期的に開催されていますので、真の病因に迫ることが可能です。これらの全体学習を通して、2年間、どのような診療科を選択しても、

しっかりした臨床的思考が身につくように研修プログラムを作成しています。

4) 臨床で必要な手技のトレーニング

手技の習得は、臨床研修トレーニング室でシミュレータを使用して、気管挿管、中心静脈カテーテルの挿入、腰椎穿刺などの訓練を行い、実際指導医が臨床の現場で行う手技を繰り返し見たとうえで、指導医が助手について実際の手技をしてもらいます。安全で繊細な手技を習得するためには、指導医の手技を繰り返し観察することが最も重要なポイントです。研修医数に対してこのような手技の回数が圧倒的に多い現場ですので、臨床処置の手技は必ず習得できます。さらに、毎年7月に行う、神奈川県にあるテルモクリニカルシミュレーションセンターでは、様々な場面での診断・処置・治療の進め方やチーム医療を体験学習し、普段は経験困難な外科的気道確保（輪状甲状軟骨切開）など特殊手技の実習も行います。

5) 2年目研修プログラムの内容

2年目の研修プログラムは、1年目の研修をしながら将来を見据えて決めてゆく方式をとっています。2年目の研修先は「奈良県西和医療センター」および「奈良県総合医療センター」「奈良県総合リハビリテーションセンター」「奈良県立医科大学」「国保中央病院」のすべての診療科および「信貴山病院精神科」「奈良県郡山保健所」から、一定の期間選択することが可能です（奈良県立医科大学のすべての診療科を選択できますし、三次救急をはじめとする重症症例が多く集まる奈良県総合医療センターの集中治療科や、終末期医療や消化器疾患を広く学ぶことができる国保中央病院を選択することもできます）。また、地域医療の枠での研修先は、へき地医療を学ぶことができる南奈良総合医療センター、地域医療と総合診療教育に定評のある北和也先生のやわらぎクリニック、回復期医療を学ぶことができる奈良県総合リハビリテーションセンター、および神奈川県で地域医療プログラムに定評があり、地域巡回診療を行う三浦市立病院（三浦半島の最南端にある漁業の町）から選択可能です。

2年目のプログラムは、1年目終了時点で調整し、適宜希望に合わせて追加調整しますので、臨床研修医支援室でプログラム責任者や指導医と話し合っ、各人の将来も見据えながら決めてゆけばよいと思います。

6) 専門医を目指す3年目以降の進路について

進路希望が決まっていれば、その希望に沿うように全力でサポートします。進路が決まらない場合や迷っている場合には、どこでどのような専門研修を行うことができるか、日本全国を視野に入れて相談に応じます。各大学の医局に所属する従来の方法以外に、奈良県立病院機構に残って専攻医（専門医コース）としての採用も可能です。また初期研修に関与した各種事務手続き（専門医申請書類など）が必要となった場合も、研修終了後何年経過していても全面的に協力します。研修を修了した先輩医師には、行政機関での勤務や海外の大学院入学を目指す方もおられます。医師としてどのような将来を志すとしても初期臨床研修からスムーズに移行できるように、様々なキャリアプランの相談に応じます。

7) まとめ

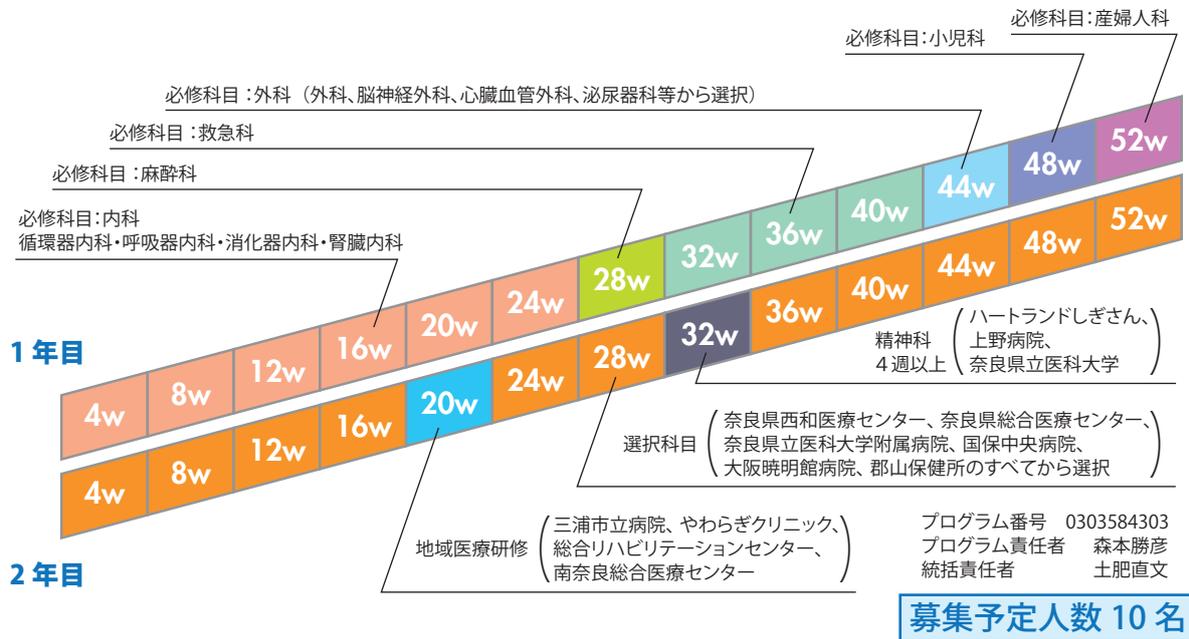
奈良県西和医療センターは、地域密着型の基幹病院（地域医療支援病院）であり、集学的循環器病治療センターや消化器がん低侵襲治療センターなどを有することからもお分かりいただけるように、プライマリケアから重症救急医療まで様々な症例を経験できる診療体制をとっています。当センターでの初期研修の特徴は、最前線の医療現場で豊富な症例数を経験し、熱い指導を受けることで『臨床医のスピリット』を培うことができる環境にあります。これを読んでいただいているみなさまが奈良県西和医療センターでの研修を希望されることを強く期待すると同時に、私たちと一緒に仕事をし、一緒に苦勞する臨床現場で共に学ぶ日々を待ち望んでいます。そして新研修医となったみなさまが、しっかりした臨床的思考のもと、思いやりの心と、人の命に対する責任感を持って目の前の患者さんのために全力をつくすことができる、本当に魅力的な医師に育つように、私たちが全力でサポートします。

臨床研修医支援室長 森本勝彦

2023 年度募集

奈良県西和医療センター臨床研修プログラム

(募集定員 10 名)



科目について

●必修科目

内 科：総合内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科から最低24週（※教急外来における基礎研修を含む。）

麻 酔：救急救命に必要な基礎技術の習得

外 科：初年度の4週間において外科的疾患の初期治療を習得する。

外科、脳神経外科、心臓血管外科、泌尿器科等の中から選択。

小 児 科：小児科に必要な基礎技術の習得

産婦人科：産婦人科に必要な基礎技術の習得

精 神 科：精神科に必要な基礎技術の習得

救 急：救急科における重症患者を中心とした救命医療の修練

奈良県総合医療センターまたは県立医科大学附属病院の救命救急センターでの研修も選択可能

地域医療：へき地医療、中小病院又は在宅医療実施診療所での外来診療を中心とした研修。

三浦市立病院地域医療科（神奈川県三浦市）、やわらぎクリニック（在宅医療実施診療所）

奈良県総合リハビリテーションセンター、南奈良総合医療センター

※地域医療研修は2年目の選択期間中に行う

研修科	研修病院選択			
全診療科	奈良県 西和医療センター	奈良県 総合医療センター	奈良県立医科大学 附属病院	南奈良 総合医療センター
精神科	ハートランドしぎさん (信貴山病院)	奈良県立 医科大学附属病院	上野病院	—
地域医療	三浦市立病院	やわらぎ クリニック	奈良県総合 リハビリテーション センター	南奈良 総合医療センター
行政	奈良県郡山保健所	—	—	—

●選択科目

奈良県西和医療センター、奈良県総合医療センター、奈良県総合リハビリテーションセンター、奈良県立医科大学附属病院、国保中央病院、南奈良総合医療センター、やわらぎクリニック の各病院および郡山保健所に設置されている診療科すべて



各診療科の特色

総合内科

2021年度から新しく開設しました。外来、入院、紹介患者様の診療を主に従事しています。相談の内容は、不明熱、倦怠感、しびれ、体重減少、呼吸困難感などが多いです。開設から、悪性腫瘍、リンパ腫、リンパ増殖性疾患、菊池病、SLE、ループス脂肪膜炎、関節リウマチ、シェーグレン症候群、二次性肺高血圧症、膠原病肺、肺結核、結核性心膜炎、感染性心内膜炎など様々な疾患を診療する機会がありました。教育に関しては、ベッドサイドでの研修を心掛けています。実際の診療を通じて姿勢、プレゼンテーション、問題解決、危機管理、チーム医療などの教育を心掛けています。背景、病歴、身体所見から初期診断仮説形成し、検査や治療のリスクベネフィットを考慮し、各患者様に応じた適切な医療を大切にしています。どの専門に進んでも大切になる基本的な診療の型、姿勢を学んで頂きたいと思っています。一緒に診療・勉強できることを楽しみにしています。



副院長
総合内科部長
感染症内科部長
腫瘍内科部長
中村孝人

感染症内科

2021年度から新しく開設しました。外来、入院患者様の感染症診療に関して、主担当科の診療を支援しております。またICT(infection control team)として血液培養陽性症例の診療支援、抗菌剤適正使用の推進も行っています。教育に関しては、感染症内科は、先ず基盤としてジェネラリストとしての臨床力が必要と考えています。より良い感染症診療を実践するために、非感染症を鑑別することが必要です。総合内科と研修を兼ねることで、自己免疫疾患、悪性腫瘍、内分泌疾患、神経疾患等を診療する機会も多くなります。実際の診療を通じて姿勢、プレゼンテーション、問題解決、危機管理、チーム医療などの教育を心掛けています。一緒に診療・勉強できることを楽しみにしています。

腫瘍内科

2021年度から新しく開設しました。胸部悪性腫瘍および原発不明がんなどの診療をしております。また外来、入院がん患者様の相談支援を随時行っております。近年、腫瘍診療は目覚ましい進歩を遂げ、従来の殺細胞性抗がん剤だけでなく、多数の分子標的剤や免疫チェックポイント阻害剤など使用可能となりました。腫瘍内科は、抗がん剤治療だけでなく、緩和治療、終末期医療に対峙する機会が多い科でもあります。基本的な腫瘍診療の型を習得するだけでなく、病いに対する配慮を忘れず、各患者様に応じた適切なチーム医療の実践を目指しています。一緒に診療・勉強できることを楽しみにしています。



腎臓内科

腎臓内科の領域は、腎炎、慢性腎臓病、急性腎障害、水・電解質異常、高血圧症、腎代替療法（血液透析・腹膜透析・アフェレーシス・腎移植）など多岐にわたります。奈良県西和医療センター腎臓内科では、これら様々な腎疾患に対して研修医の皆様が自信をもって診療できるように、指導医・上級医が全員で研修教育に力を入れ、熱く丁寧な指導を心がけています。また当科では、腎疾患のみならず膠原病などの自己免疫疾患や脳血管疾患、内分泌疾患、血液疾患なども積極的に受け入れ、総合内科としての役割も担っていますので、多彩な内科疾患を数多く経験し、内科全般で役立つ基本手技のほぼすべてを身につけることができます。

学習面においても、上級医は研修医の苦手とする病態生理などに対して文献や UpToDate® を用いたカンファレンスを適宜開催しています。また、日進月歩する世界標準の医学知識を修得するために、ACP（米国内科学会）の問題集である MKSAP による勉強会を毎日開催しており、研修医のほぼ全員が医学知識の修得のみならず医学英語への苦手意識も克服しております。さらに、臨床現場以外での研修も推奨しており、研修医の皆様には内科関連の学会に積極的に参加することで医師としての視野を広げるとともに、重要な経験は上級医の熱い指導のもと、積極的に学会発表や論文作成をしていただいています（2019年度は3名の研修医に国際学会での発表の機会を得ることができました）。

当腎臓内科はスタッフの年齢が若く、研修医の皆様と近い立場で同じ視野にいますので、研修医個々の望むフレキシブルな研修ができるとともに、食事会やレクリエーションなどを通じて精神面でも安全・安心な研修を心がけています。ぜひ、私たちと一緒に、長い医師人生の第一歩を楽しく踏み出してみませんか？心よりお待ちしております！

研修医の感想

- 毎週1回総回診があることで症例の整理と検討ができるため、1症例について深く学ぶことが出来ました。腎生検や骨髄生検、髄液検査、中心静脈カテーテル留置など侵襲的な手技に関しても指導医の下で研修医が施行できるため、様々な手技を経験することが出来た点が良かったです。
- 日中の救急外来で診た患者をそのまま担当患者として診ることができるため、治療をどうするかなどを一緒に決めることができ勉強になりました。

循環器内科

奈良県西和医療センターの循環器内科は12名の医師スタッフと研修医が一体となり、様々な診療活動をしています。その内容は、救急医療をはじめとして、心不全などの集中治療（ECMOの管理もここで学びます）、心血管インターベンション治療（PCIや血管内治療の技術を助手として学ぶ）、カテーテルアブレーション治療（不整脈の読み方考え方をしっかり学ぶ）、心臓超音波検査や心臓CT/心臓MRI/アイソトープ検査などの循環器画像診断、さらに循環器・呼吸器リハビリなど広範囲に渡ります。

そのため、奈良県内では、最も人気のある循環器専門医の修練施設となっています。毎朝8時からCCUカンファレンス&新入院カンファレンスでは、日々の新入院患者のチェックと前日の救急外来で診療した症例のチェック、火曜日と木曜日の心カテ後に開催されるカテ後カンファレンス&研修医カンファレンスでは、研修医が関与する症例プレゼンテーションと診療内容のチェックがあります。研修は、外来診療、病棟での入院患者に対する診療に加えて、心カテ、アブレーション、ペースメーカや植込み型除細動器（ICD）の手術、CTやMRIなどの画像検査があります。循環器の2ヵ月間は、忙しいですが、指導医や上級医から多くのことを学べる期間になっていると思います。1年目の研修でローテートした研修医が2年目でもう一度回りたと思ってもらえる研修内容を目指しています。将来、どのような専門医を目指そうとも、循環器領域で身につけるスピリットやスキルは臨床医としての基盤になるものですので、頑張ってください。研修医の成長のため、できるだけサポートをします。



腎臓内科部長
森本勝彦



院長
循環器内科部長
土肥直文

研修医の感想

- 循環器内科疾患のみならず、初診外来や救急外来を含めて内科的疾患を全体的に診られ、ファーストタッチの機会が多く用意されていた点が良かったです。オープン制度で担当の専攻医が決まっており、質問しやすい環境でした。
- 心エコーを一对一で教えてもらえて勉強になりました。

消化器・糖尿病内科

奈良県西和医療センター消化器・糖尿病内科は、スタッフ7名にて消化器領域全般および糖尿病の診療を行っています。

消化器領域では、上下部消化管疾患（食道、胃、十二指腸、大腸）、胆・膵臓疾患、肝臓疾患の初期治療、救急治療（吐血、下血、黄疸など）から最先端の高度医療に至るまで幅広く診療を行っています。4名の日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会・日本肝臓病学会の指導医・専門医が研修医の皆さんの指導にあたります。消化器疾患に対する診療はもちろん、上部・下部内視鏡検査や腹部超音波検査などの検査手技のみならず、内視鏡的止血術、内視鏡的ポリープ切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術、ラジオ波焼灼術などの治療手技も研修可能です。さらに、胆膵領域の内視鏡検査・治療（ERCP、EUS－FNA）も研修を行う事ができます。

糖尿病領域では、教育指導および治療を積極的に行っています。特に24時間血糖測定を用いて、より厳格な糖尿病の個別治療を行っています。糖尿病診療の基本的な診療の研修が可能です。

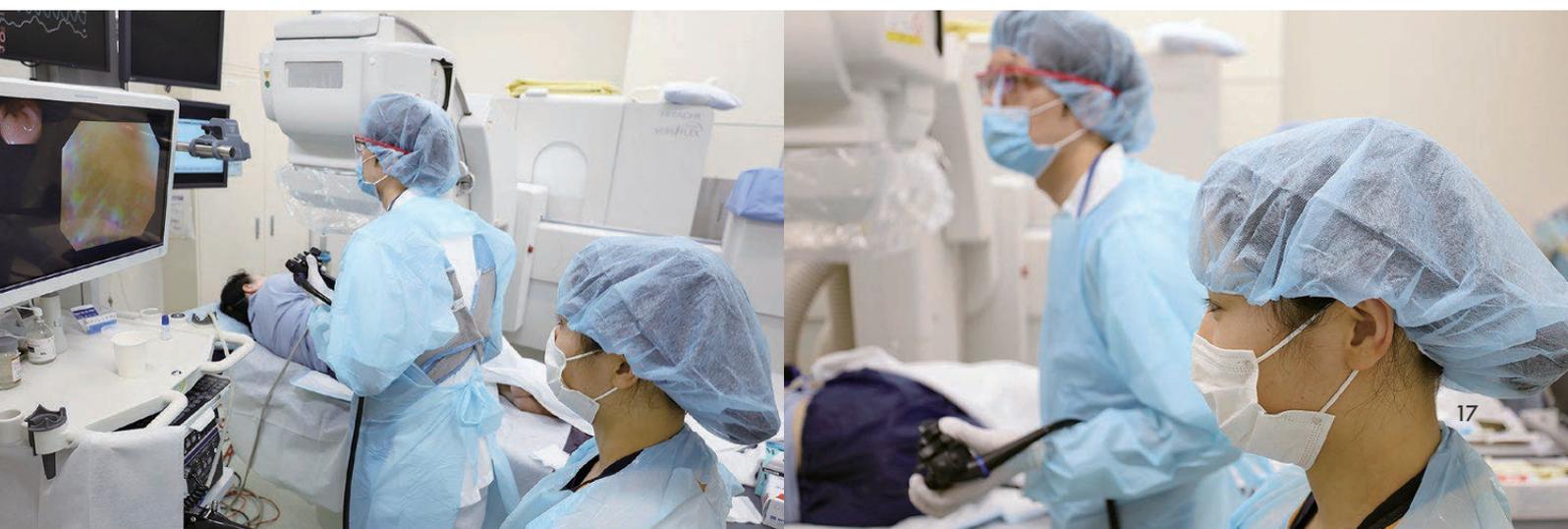
将来の進路に係わらず、今後日常診療で一番多く接する消化器疾患および糖尿病を数多く経験することはとても大切なことです。笑いには厳しいですが、優しく丁寧な指導が好評な消化器・糖尿内科医が、皆さんの西和医療センターでの研修を心待ちにいたしております。

研修医の感想

- 内視鏡検査の件数が豊富であり、介助にも積極的に参加させていただけた点が良かったです。また、実際に模型を使って内視鏡検査の練習を自由にできる環境が用意されていたところも良かったです。
- 研修医1人に1人のオープンが充てられており、基本オープンとセットで動くため、分からないことが訊きやすく良かったです。患者説明は知識の浅い研修医にもとても分かりやすいため、同席する機会がたくさんあって良かったです。



副院長
消化器・糖尿病内科部長
吉田太之



中央内視鏡部

研修医の先生の指導にあたるのは、内視鏡指導医3名・内視鏡専門医2名・専攻医5名の計10名です。上部下部のスクリーニング検査から内視鏡粘膜剥離術（ESD）・内視鏡的載石術・痔腫瘍などに対する超音波内視鏡下吸引組織細胞診など幅広い内視鏡処置を毎日行っています。また、緊急内視鏡も積極的に受け入れており、内視鏡的止血術も随時行っております。昨年度は上部消化管内視鏡約2,000件・下部消化管内視鏡約1,500件・ERCP約200件（それぞれ処置も含む）でしたが、平成28年度から検査施行医・検査室も倍増され、年々件数増加をしています。研修医のみなさんには、内視鏡診断・内視鏡処置などそれぞれのレベルにあわせて手技の習得に励んでいただいています。若いみなさんの力も借りて一緒に内視鏡診療にあたります。心よりお待ちしております。



中央内視鏡部部長・
消化器内科部長
森岡千恵

呼吸器内科

当科では平成29年7月から呼吸器内科医2名が常勤するようになり、現在常勤医3名、非常勤医2名の体制で、日々の診療・研修医指導にあっています。

呼吸器内科で対応することが多いのは何といても肺炎です。その中でも入院適応になるのは誤嚥性肺炎が多いですが、呼吸器内科としての専門性が必要となるのは間質性肺炎で、器質性肺炎、薬剤性肺炎、膠原病関連の間質性肺炎が増えています。COPDは診断、評価から始まり、患者教育、吸入指導、呼吸リハビリ、最終的には在宅酸素やNPPVの導入を行います。気管支喘息の評価のために呼気NO検査を導入、睡眠時無呼吸症候群の精密睡眠ポリグラフィーやCPAP導入も積極的に行っています。悪性腫瘍に関しては、呼吸器外科、放射線治療装置がないものの、診断可能な化学療法、緩和ケアを行います。

研修医の先生方には、数名の入院患者さんを担当してもらい、毎日上級医とカンファレンスを行いつつ、自主性をもって検査のオーダーと解釈、治療方針の決定、効果判定、退院の判断、退院後の地域連携への移行をおこない、一人一人の患者さんに対し一貫して責任を持った医療を大切にしてもらっています。呼吸器内科を目指しているわけではないという研修医の方々にも、基本的な呼吸機能検査の判定、市中肺炎の対応などとともに、医師と患者さん家族さんとのかわりに関して学んで頂きたいと思います。

令和3年7月から専攻医も加わり若い力となっています。皆さんと共に発展していきたいと思っております。

研修医の感想

●病棟管理や外来対応など、研修医が中心になって対応する場面が多く用意されているため、コメディカルスタッフとの関係性を築ける環境が良かったです。また、複数の受持ち患者の状態を把握する必要があり、マルチタスクの進行を経験できました。

脳神経内科

脳神経内科は週3回来が開かれており、治療困難な症例や悩んでいる症例のコンサルトが可能です。各々の領域の専門医による指導を受けることによってこのような領域の患者さんの治療方針を学びます。



呼吸器内科部長
杉村裕子

小児科

当院小児科は奈良県の基幹病院であり、質の良い医療をこどもに提供し、こどもと家族が安心して生活ができるように手助けをしていくことを基本としています。小児科はこどもの総合診療科であり、小児科医はこどもの病気の全体を診ることが基本です。小児一般診療から専門分野まで幅広く知っておく必要があります。地域の医療機関からの多数の紹介があり、様々な分野の症例を経験することができ、さらに小児救急2次輪番に参加しており、小児の救急初期対応を研修することが可能です。症例検討会を小児科医・看護師と一緒に定期的に行っています。多種職とのカンファレンスは様々な角度から症例を検討するので、連携を深め、スタッフのスキルアップの向上につながることを学びます。小児は主訴を上手く言うことができないことが多く、「なんかおかしい」という臨床的直観が大事になってきます。教科書では学ぶことが難しいですが、マンツーマンで指導することで、そのスキルを身に付けてもらいます。



小児科部長
吉澤弘行

研修医の感想

- 小児科特有の特技や病棟管理を積極的にさせていただきました。また、小児科当直に参加できるため、けいれんなど夜間に多く起こる疾患も経験することができました。
- 心身症の外来を多く見せて頂けて良かったです。1ヵ月で担当した患者数は少なかったですが、川崎病や喘息など、様々な症例を診ることができました。



外科・消化器外科（消化器がん低侵襲治療センター）

西和医療センター外科は週4回手術できる環境にあり、年間400例を超える消化器・一般外科領域の手術を行っています。手術の内訳としては胃癌、大腸癌、直腸癌、肝胆膵癌、乳癌などの悪性疾患、胆石、鼠径ヘルニア、内痔核、炎症性腸疾患などの良性疾患に加え、虫垂炎、腹膜炎、腸閉塞などの緊急手術があり、バラエティに富んだ手術と周術期管理を学んでいただけます。

手術には開腹手術と鏡視下手術の2種類がありますが、最近の画像処理と器具の改良はめざましく、大腸ESDや腹腔鏡下手術などの鏡視下の治療には大きな可能性があります。当科のモットーとして、消化器内科、放射線科と密に連携を取り、いかに消化器がんを低侵襲に治療できるかを日々検討し、精進を重ねています。当科では50%以上の手術症例は鏡視下手術によりますので、最新のモニター画面上あるいはビデオ編集により、手術手技を繰り返し学ぶことができます。またトレーニングルームも完備されています。外科系の諸科と連携して、地域の基幹病院としてより高度な治療を要する手術も行われています。

当科では経験豊富な4人の指導医・専門医と2人の若手専攻医により指導させていただきます。自由闊達な手術をみると外科の醍醐味とは何かがわかると信じています。（当科のHPもご参照下さい）

（石川博文）

奈良県西和医療センター外科では、年間500例前後の手術を施行しています。約6割が良性疾患手術、残り4割を悪性疾患手術が占め、癌治療と急性疾患手術を積極的に施行する病院として地域医療に貢献しています。

当科研修期間中は、悪性疾患患者（待機手術）、良性疾患患者（待機手術）、良性疾患患者（緊急手術）における術前後の患者管理について学ぶことができます。また、数多くの手術への参加と術後創部処置を経験することで、外科研修の基本である縫合結紮から外科的基本手技の習得を目指していただけます。習熟度によっては、虫垂炎や鼠径ヘルニアの手術を術者として達成していただくことも可能となりますので、是非挑戦してください。

（上野正闊）

◎令和3年 総手術件数400例（腹腔鏡手術256例）

- ・虫垂炎手術（うち腹腔鏡手術） 27件（27件）
- ・胆石/胆嚢炎手術（うち腹腔鏡手術） 78件（78件）
- ・鼠径/大腿ヘルニア手術（うち腹腔鏡手術） 72件（25件）
- ・緊急手術（外科） 82件

研修医の感想

●助手として手術に参加できる環境が良かったです。専攻医の先生が、丁寧に糸結びや縫合の種々を教えてください、また術後管理についても講義していただき、手術中だけでなく、座学としてもフォローしていただけるのは貴重だと思いました。

●カメラ持ちや縫合などさせてもらえることが多く、チームの一員として診療に参加しているという感じがあったのが良かったです。



副院長
石川博文



外科・消化器外科部長
上野正闊



脊椎脊髄外科

脊椎脊髄外科は、神経障害を伴う脊椎外傷や脊椎変性疾患を主な対象としています。

しびれや麻痺などの神経症状とレントゲンやMRIなどの画像所見、さらに神経根ブロックや電気生理学的検査を組み合わせながら、理論的根拠に基づいて障害高位部位を診断していきます。診断がいたら、まずは保存療法から開始し、症状の改善が乏しい場合には手術を行います。治療がうまくいけば、歩けなかった患者さんが杖をつけて退院されたり、スプーンしか持てなかった患者さんが箸で食事ができたり、劇的な改善を見ることがあります。診断の面白さと治療のやりがいを実感できる分野ですので、ぜひ実際に体験して頂きたいと思います。



副院長
脊椎脊髄外科部長
竹嶋俊近

整形外科・人工関節センター

整形外科は骨・軟骨・筋・靭帯・神経などから構成される運動器の疾患や外傷を対象とし、治療を行う専門分野です。当院整形外科でも慢性疾患から外傷まで幅広く診察を行っています。平成29年4月より人工関節センターを開設しており、当院の研修では人工関節のスペシャリストが診断、手術適応の判断、術前計画や手術のピットフォール等を実際の手術症例に沿って丁寧に指導いたします。また手の外科や足の外科、関節リウマチについても専門的治療を経験することが出来ます。指導医指導のもと多数の症例で執刀してもらうことが可能です。教科書では学べない経験を積み是非西和医療センターにいらしてください。



整形外科部長
寺西朋裕

脳神経外科

脳神経外科では、超急性期の脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍、脊椎・脊髄疾患、機能外科（顔面けいれん、三叉神経痛）に対する外科治療や検査（脳血管撮影、脊髄造影）、並びに中枢神経領域の局在診断、神経放射線診断といった専門医養成プログラムに参加するのみならず、プライマリケアに必要な脳神経外科的知識と対処法（気管切開、中枢ルート確保、気管内挿管等）を習得する研修ができます。2名の指導医のもと脳神経外科手術（緊急手術を含む）や病棟処置に積極的に取り組み、常に患者さんの目線に立った周術期管理を徹底的に習得してもらいます。また、研究会や学会にも積極的に参加して最先端の脳神経外科治療に接してもらい、中枢神経領域疾患の診方、治療を身につけることを目標とします。

下記に到達目標の経験手術例を挙げておきます。ぜひ脳神経外科で研修しましょう！

1年目 神経局在診断、神経放射線診断の習得

病棟処置（手術創部消毒、抜糸、各種ルート確保、脊髄ドレナージ）

穿頭術（慢性硬膜下血腫、脳室ドレナージ術）の執刀医、助手

開頭術の助手

救急外来での初期対応、各種検査の助手

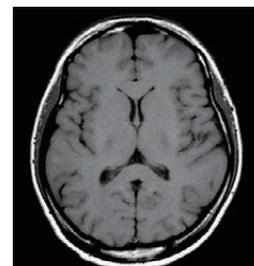
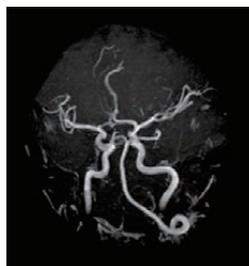
2年目 開頭術（頭部外傷疾患）の執刀医、脳内出血血腫吸引術の執刀医

各種顕微鏡手術の助手

脳血管撮影の検査担当

研修医の感想

●症例も豊富で、経験した手技も本当に多かったです。出血や梗塞の初期対応も多く経験させていただき、勉強になりました。個人的には一番大変でしたが、ぜひローテートしてもらいたい科の1つです。



心臓血管外科

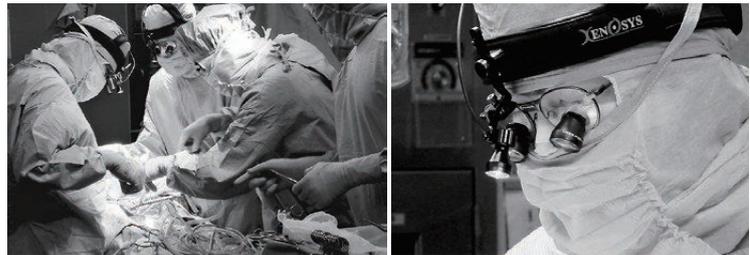
心臓血管外科は、急性期医療の中でも、循環器診療の最前線であり、かつ最後の砦の役割をも果たしています。急性大動脈解離や急性下肢動脈塞栓症など救急の最前線の緊急手術でも活躍し、内科的に治療困難な予後不良の症例の冠動脈バイパス術や弁置換術など周到な計画のもと待機的に行う手術でもその実力を発揮しています。実際の心臓外科の手術は他の領域の手術とはシステムが異なるため、研修医にとっては、非常に勉強になると思います。私たちの手術では、研修医に心臓外科チームの一員として手術に参加してもらいます。術後の循環管理・呼吸管理も一緒にしますので、集中治療における緻密な考え方も身につけることができます。将来、内科系や他の外科系を目指す研修医にこそ、この世界を見てほしいと思うのです。



心臓血管外科部長
田村大和

研修医の感想

● 将来を決定した2ヵ月でした。人工心肺を用いた手術は、心臓血管外科だけなので、ぜひ一度見てもらいたいと思います。また、ICU管理もしっかり見て学ぶことができますので、とても勉強になりました。何より、田村先生の患者さんへの対応・接し方・熱意に本当に感動しました。



ICU/CCU

当センターはICU 4床、CCU 4床を有しています。ICUでは、心大血管手術後、脳神経外科手術後の循環・呼吸管理を行っています。CCUでは、心不全、急性冠症候群の集中治療管理を行っています。2020年度のICU/CCU入床件数は1,639件でした。集中治療の経験も一緒にいただければと思います。



集中治療部長
阿部毅寿

皮膚科

すべての皮膚疾患に対応し、地域に根ざした診療をしています。少人数ならではのマンツーマン指導のもと、common diseaseから稀な疾患まで幅広く経験できます。外傷の処置や縫合・小外科のほか、形成外科との連携で全身麻酔下の外科的手術も学ぶことができます。フットケア外来などの専門外来での診療も経験していただけます。

研修医の感想

● 予診や外来手術など研修医の参加できる場面が多く、皮膚科疾患について経験しながら学ぶことができました。頻度の高い疾患も多く経験できるため、普段の病棟管理での処方など、応用できる場面が多い研修となりました。

● 初診の担当をさせて頂き、多くの症例を経験できました。形成外科も含め、手技が多く、面白い経験ができました。



皮膚科医員
中島杏奈

形成外科

形成外科では体表面の良性、悪性腫瘍、熱傷や顔面骨骨折などの外傷、体表の先天奇形など小児から高齢者までの幅広い疾患を扱います。

外来での小手術から他科との合同で行う再建手術など様々な外科手術を経験できます。

また外傷や褥瘡などの様々な傷に対する創傷治療も行っていますので、他科診療においても役立つ知識を身につけることが可能です。



形成外科医長
真柴久美

泌尿器科

排尿障害は地域医療、専門医療を問わずすべてに共通した問題です。初期研修で排尿障害を理解することは、どのような専門領域に進む場合でも必ず役立ちます。

泌尿器科は、小児から高齢者までの疾患を扱う上、保存的治療、手術治療、抗癌剤による化学療法、緩和医療などその治療の範囲も広いのです。

外科的治療としては、開腹手術、体腔鏡下手術、経尿道的手術、インターベンション手術などあらゆる方法での治療が経験できます。

研修医の感想

●内科・外科と多彩であり、大変興味を持つことができました。5月の段階でオペレーターをさせていただき、また、長時間の大手術にも参加できて良かったです。もっと研修医が回ってこれるようにしたいです。



泌尿器科部長
大山信雄

産婦人科

産婦人科は、女性のライフサイクル全般を扱う診療科です。産科と婦人科は対象患者が異なるために、別個の分野と思われがちです。しかし実際の臨床においては、双方は密接に関連しており、いずれの分野についても学ばなければなりません。

産科実習では、Low risk 妊婦の妊婦健診、産後健診を通して、正常妊娠の管理だけでなく、内科合併症の管理、妊娠・授乳と薬など、他科診療においても重要な知識を身につけることを目標としています。経膈分娩、帝王切開術、および High risk 妊婦の研修は、当科が医療連携を行っている奈良県総合医療センターをはじめとした高次施設で行います。

婦人科実習では、腫瘍、内分泌異常、更年期障害などの common disease について、外来診療や手術を通して専門的知識の修得をめざします。先生方にとって有意義な産婦人科研修を実現いたします。

研修医の感想

●西和では婦人科、総合では産科を中心に学ぶことができました。異なる病院で同時に研修できるため、急性期疾患から慢性期疾患まで幅広い疾患をカバーできるので良かったです。



産婦人科部長
春田祥治

眼科

眼科は、全身疾患、脳神経疾患などに関連する内科的診療の一面と外科として手術後に明らかな効果がみられる面を持ち合わせる、やりがいのある診療科です。

早期から外来診療技能、手術手技の習得が可能です。眼科医師2名と視能訓練士2名でアットホームな雰囲気なか、ほとんどすべての眼科疾患を経験することが可能です。

研修医の感想

●手術に参加させてもらい、手術の説明も分かりやすくしていただけて良かったです。



眼科部長
丸岡真治

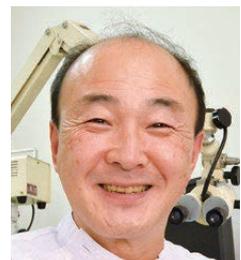
耳鼻咽喉科

毎日の外来診療で耳鼻咽喉科領域全般のあらゆる症例の経験ができます。多種類の精密検査機器が設置されているため難聴やめまい疾患の原因精査に関しても学ぶことができます。

手術治療では、耳疾患、鼻疾患、咽喉頭疾患、頸部腫瘍疾患など幅広い経験ができ、指導医のもと、術者としての経験も積んでもらいます。

研修医の感想

●外来見学の際、耳鏡やファイバーなどの所見も一緒に診させて頂けたところが良かったです。また、甲状腺腫瘍のフォローも行っている為、穿刺手技やエコーの見学ができました。各症例に関して詳しく説明いただけるため、耳鼻科疾患について深く学ぶことができました。



耳鼻咽喉科部長
金田宏和

リハビリテーション科

リハビリテーション医学とはさまざまな病態、疾患、外傷などにより生じた機能障害を回復し、残存した障害を克服しながら、人々の「活動を育む」医学分野です。

リハビリテーションには、大きく、急性期リハビリテーション、回復期リハビリテーション、生活期リハビリテーションがあり、当科は急性期リハビリテーションを担います。急性期医療を行う様々な診療科をサポートする診療科ですので独自の病床を持ちませんが、早期からのリハビリテーションにより廃用症候群を予防し、機能回復の促進により入院期間を短縮し、患者さんがより早期により高い機能で社会復帰できるよう医療を行います。

リハビリテーション科自体は一般社団法人日本専門医機構が定める19の基本領域の1つであり、2018年度から新専門医制度に移行しています。リハビリテーション科専門医は「活動」に視点を置いて治療する専門家として重要な役割を果たしています。今後は、ロボットやBMI (Brain Machine Interface) などが導入され、最も進化する診療科の1つであると考えています。



リハビリテーション科部長
岡山悟志

当科は2020年8月1日に新設され、日本リハビリテーション医学会の専門医教育施設として未だ認定されていませんが、リハビリテーション科専門医の研修を希望する先生がいらっしゃいましたら、奈良県立医科大学リハビリテーション科と協力し専門医研修を全面的にサポートさせていただきます。

放射線科

放射線科医の仕事の三本柱は、画像診断、IVR（画像下治療）、放射線治療ですが、当科では、これらのうちの画像診断（核医学を含む）とIVRを学ぶことができます。経験豊富な放射線診断専門医3名が指導にあたります。放射線関連機器は、一般撮影装置3台、マンモグラフィー1台、X線TV装置2台、CT3台（80列、320列、64列）、MRI1台（3T）、血管造影装置4台、RI装置1台と充実しています。これらの装置を駆使して、幅広い年齢層における急性疾患から慢性疾患まで豊富な症例を日常的に診断しています。当科で研修することにより、当院のほぼすべての診療科領域に関する広範な画像診断についての知識を習得することが可能です。また、経験豊富なIVR専門医の指導により、様々なIVR治療を経験することができます。外科・内科・泌尿器科との定期的な合同カンファレンスのほかに、読影室には、毎日気軽に各診療科の先生方が症例の相談にこられており、ひとりひとりの患者さんについて臨床所見と画像所見とを総合的に検討する機会が日常的に得られています。さらに、放射線科研修期間中には、オンラインでの奈良医大放射線科・関連施設合同の勉強会や、画像診断関連のセミナーなどへの参加を推奨し、画像診断・治療についての幅広い知識に触れるよう促しています。



放射線科部長
武輪 恵

研修医の感想

- 事前のヒアリングから、各々の要望に合わせて読影内容をコーディネートしていただけるため、自分の必要な読影を中心に周辺の関連疾患まで理解を深めることができました。また、放射線技師の下で、実際に画像を撮影したり、MRIの磁場を体験したりと、画像が出来上がるまでに関しても研修できたところが良かったです。
- 同じ疾患の画像をたくさん見ることができて、いろんなパターンを学ぶことができました。また、常に質問できる状況なので、分からないことをその場で解決できる点も良かったです。

麻酔科

手術麻酔を中心に全身管理を広く学ぶことができ、一般外科から脳神経外科、心臓血管外科、産婦人科をふくめた多様な麻酔管理を経験することができます。

気道確保、気管挿管、人工呼吸管理、静脈ルート確保、観血的動脈ライン確保、中心静脈ルート確保、脊髄くも膜下麻酔穿刺などの手技を学ぶことができます。

麻酔薬・循環作動薬の使用法、輸液・体液バランスの維持、酸塩基平衡などについて学び、ペインクリニックや緩和医療についても学識を広げてもらいます。



麻酔科部長
加藤晴登

研修医の感想

- 1回目のローテートでは挿管、2回目のローテートでは術中管理と、研修内容で重点を置く手技を分けて頂けるため、短期間で集中的に手技の精度を磨くことができる環境でした。また、マンツーマンで丁寧な指導も受けられるため、手技の上達速度も速かったように思います。
- 手技に重点を置いたプログラムであり、経験できる件数も多く、手技が身につけやすかったと思います。良くないところは良くないとはっきり指摘してもらえる点も良かったです。



集学的循環器病治療センター



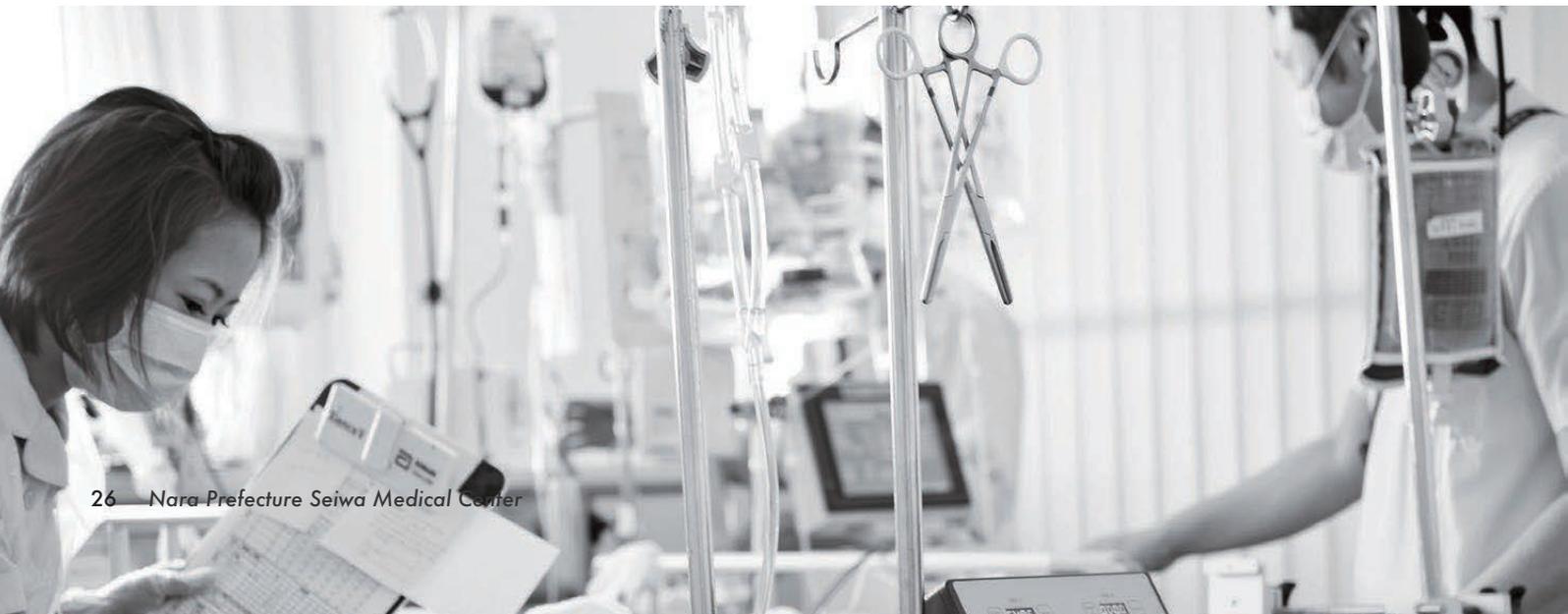
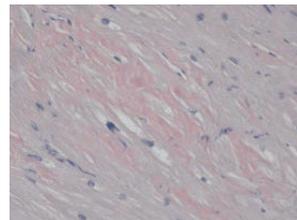
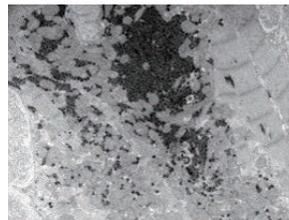
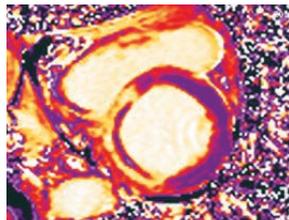
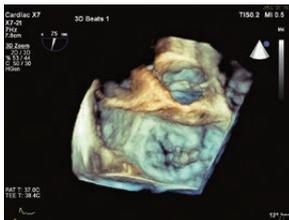
当センターでは全身の循環器疾患を各診療科の枠を超えて治療、研究することが目的です。

中心となるのは循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、放射線科、麻酔科ですが、循環器疾患の周辺病変や関連疾患も治療しますので、実際には病院全体での活動となります。

また、患者さんの治療に際し、医師のみでなく、看護師、薬剤師、臨床工学技士、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、管理栄養士・メディカルソーシャルワーカーをはじめとする関係する医療スタッフが、患者さんの情報を共有し、緻密な連携のもと、高度な集学的治療を組織横断的に行い、よりよい医療を提供いたします。

研究面では基礎的、臨床的なものに一体的に取り組み、その成果を、国内、世界へ向け発信してまいります。

奈良県西和医療センター集学的循環器病治療センターは、世界のトップレベルの質の高い、いい治療を、地域の皆様、更に奈良県内、県外などの多くの皆様方へ提供に努めています。



上野病院での研修を終えて

臨床研修医 高橋広太（2021年度採用）

上野病院精神科で4週間研修をさせていただきました。指導医の先生方、医療スタッフの方々、患者さん、それぞれからたくさんのことを学び、研修は非常に実りの多いものになりました。

日々の研修は外来診療やマンツーマンでのレクチャーを中心に精神医学を学ばせていただきました。どの先生方も知識豊かかつ勉強熱心で私はただただ感心するばかりでした。うつや認知症に見えても器質的疾患を見逃してはいけないこと、統合失調症での妄想で患者さん自身が本当に怖い思いをしていること、私が知らなかったことは山ほどありました。そんな私に温かく丁寧に一から教えてくださいました。レクチャーはたくさんの精神科の先生から各回一つのテーマについて知識を得ることができます。質問も自由にでき、知識をつけるだけでなく、精神科という分野の広さや深さを感じることができました。

また、精神科ならではの活動から学んだこともあります。精神科では単に病気をよくするだけでなく社会復帰も非常に重要な課題になります。職場や家庭での環境調整、周りの人とのコミュニケーションを大切にしているグループ活動、病気とよりよく付き合っていくための認知行動療法、心身ともに元気にしていく日々の運動、これらは主治医1人だけではできません。ソーシャルワーカーさんや作業療法士さんなどたくさんの人が関わって患者さんの社会復帰をサポートしています。実際にリワーク活動やMCI(軽度認知障害)デイケアなどに参加させていただき、利用者さんとの関わり方やプログラムの作り方などを学びました。

MCI デイケアでは頭や体を使いますが、私も利用者さんと一緒に課題に取り組みせてもらい、とても楽しい経験となりました。

研修期間、担当患者さんを持たせていただきましたが、それぞれの疾患背景だけでなく社会背景も考えながら接し方を学ぶことができました。実際にじっくりと話すことでその人の楽しいと思えること、困っていることなどが見えてきました。また一緒に趣味の話をしたり、最近のニュースの話をしたり他愛ない話もしました。これらは特に治療には関係ありませんが、笑顔で話をする患者さんを見て医師と患者という関係以前に人と人という関係も大切にしたいという最初に医師を志したときのような思いを改めて抱きました。

最後に伊賀の魅力についてお話ししたいと思います。伊賀は三重県のなかで奈良寄りにあります。ここでは田舎の落ち着いた雰囲気を感じることができます。伊賀の名物は伊賀牛と忍者です。伊賀牛は格別に美味しいです。忍者が描かれた電車やバスは見つけるだけで楽しい気分になれます。たまたま街中に忍者が隠れているので、伊賀に来られた際は是非忍者を探してみてください。

最後になりましたが、短い研修の中で多くの人の温かい思いに触れることができました。先生方、スタッフの方々、患者さん、関わりを持ったみなさんに感謝しています。この思いを大切にこれからも頑張っていきたいと思えます。

これをもって研修の振り返りとさせていただきます。最後まで読んでいただきありがとうございました。



国保中央病院での研修を終えて

臨床研修医 辻本虹歩（2021 年度採用）

私は、1年目の11月に国保中央病院で研修をさせていただきました。

国保中央病院は、西和医療センターよりも小児科専門医の人数が多く、午前の一般外来では初診の患者さんの診察枠が設けられています。そのため、発熱、腹痛、下痢、皮疹など小児でよく見られる症候への対応を数多く見学することができました。さらに、外来患者の採血やルートキープは主に研修医が行うため、毎日多くの手技を経験することができました。直当では指導医の監督下で患者さんへのファーストタッチや病状説明なども多く経験させていただきました。

また、アレルギーを専門としている先生が2人いらっしゃるため、食物アレルギーに対する入院での負荷試験、気管支喘息やアトピー性皮膚炎に対する慢性管理などもしっかりと学ぶことができました。神経や内分泌の専門外来も行われており、てんかんや低身長、思春期早発症などの内分泌分野の外来見学も行うことができました。

西和医療センターと異なる点として、院内でできる検査の項

目が少なく、病院内の診療科も少ないことが特徴だと感じました。手術適応のある患児や侵襲の大きい処置が必要な患児は他院にすぐに転院となったり、そもそも救急要請を受け入れられないということが何度かありました。

そのような場合に、どこまでの処置を院内で行うか、どのタイミングで専門的な治療介入ができる機関に送るのかという判断が重要となります。診療科が充実していない病院での対応について学ぶことも非常に重要であると感じました。私は将来の選択肢として小児科を考えているため、将来につながる貴重な経験をたくさんさせてもらえたと感じています。研修を受け入れてくださった先生方、事務の方々、本当にありがとうございました。



三浦市立病院での研修について

臨床研修医 辻本虹歩（2021 年度採用）

私は、1年目の12月に三浦市立病院で研修をさせていただきました。

三浦市立病院は漁港から歩いて20分程度の場所に存在し、奈良県とは全く違った環境にある病院です。研修医は主に消化器外科で研修をします。研修医は虫垂炎切除術や鼠径ヘルニアの根治術の執刀、CVポートの挿入などの手技をさせてもらえますが、私は運悪くそれを行うタイミングがなかったため、手術の介助や術後管理を主に行っていました。手術がない日には救急外来で患者さんの対応をしたり、訪問診療に同行したり、癌患者さんへのICに同席したりと、様々な経験をすることができました。また、慢性期の患者さんの入院も多いため、退院調整のために何度もご家族と話し合いをしたり、訪問診療、訪問看護の制度利用について他職種でのカンファレンスで相談したりと、地域医療ならではの医師の役割も学ぶことができました。

全く知らない土地で研修することに対する不安は強かったですが、先生方も事務の方々も街の方々もとても親切で安心して研修することができました。ご飯が美味しいお店のことや、おすすめの観光場所などを教えていただき、休日は色々なお店に

行って美味しい海鮮を食べたり、横浜や江ノ島に観光に行ったり、公私共に非常に充実した1ヶ月を送ることができました。

三浦市立病院での1ヶ月間は私の医師人生にとって非常に重要な1ヶ月間になったと感じています。このような貴重な経験をする機会を与えてくださって、本当にありがとうございました。



三浦市立病院での地域医療研修

横浜から京急電車で横須賀を越えて南に走ると、車窓から太平洋が見えてきます。神奈川県三浦市立病院は、三浦半島の先端にあるマグロ漁業が盛んな港町にある病院です。三浦市立病院と奈良県西和医療センターは姉妹病院の関係にあり、研修医だけでなく、看護師も相互に短期研修を行っています。三浦市は神奈川県のなかでは、周囲が海に囲まれたいわゆるへき地に相当する場所にあるため、三浦市立病院が唯一の市民が頼りにする総合医療機関になっています。高齢化が進む漁業の町ですので、地域医療が特に重要になっています。三浦市立病院の地域医療科は、地域の巡回診療や、その巡回診療のなかで急性期医療が必要になった患者さんの入院診療まで広く仕事をされています。研修医は、この病院の地域医療研修で一歩先の地域医療を経験することで、奈良県での地域医療にその経験を必ず活かすことができると思います。また、三浦市立病院は、外科医でとても親しみやすい小澤幸弘院長がいらっしゃいます。小澤先生のおかげで、研修医も楽しく充実した研修生活が送れています。

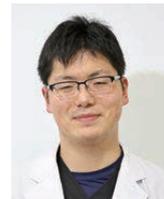


三浦市立病院での地域医療研修を終えての感想 臨床研修医 畠 健悟（2020年度採用）

三浦市立病院では主に消化器外科として研修させていただきました。同科としての研修はもちろん、消化器内科的疾患・悪性腫瘍末期の慢性期医療など幅広く学ぶことができました。消化器外科としては鼠径ヘルニアの Mesh plug 法手術の執刀や CV ポート挿入術をさせていただけることが印象でした。その他にも整形外科の手術・処置の手伝いや、在宅診療に同行させていただいたり、当直では内科・外科問わずファーストタッチをさせていただいたりと地域医療ならではの経験を得ることができました。

また、慣れない環境で戸惑う私でしたが他診療科の先生方にも話しかけていただき、おすすめの店などを教えていただいたりし

ました。休日は近くの市場で珍しく美味しいマグロをはじめとした海鮮を食べたり、近くの島を散歩して海などの自然を満喫することができとても楽しい1ヶ月でした。また、いつか観光目的でも訪れたいと思います。



COVID-19 で緊急事態宣言がなされ、現場に緊張感や混乱もあり大変な時期ではあったと思いますが、研修を受け入れていただき三浦市立病院の職員の皆様方に感謝の気持ちでいっぱいです。誠にありがとうございました。この経験を活かして日々精進していきたいと思っています。



三浦市立病院全景



三浦市から見える富士山



漁村での作業



三浦市はマグロの町として有名

ハートランドしぎさん(精神科)での研修

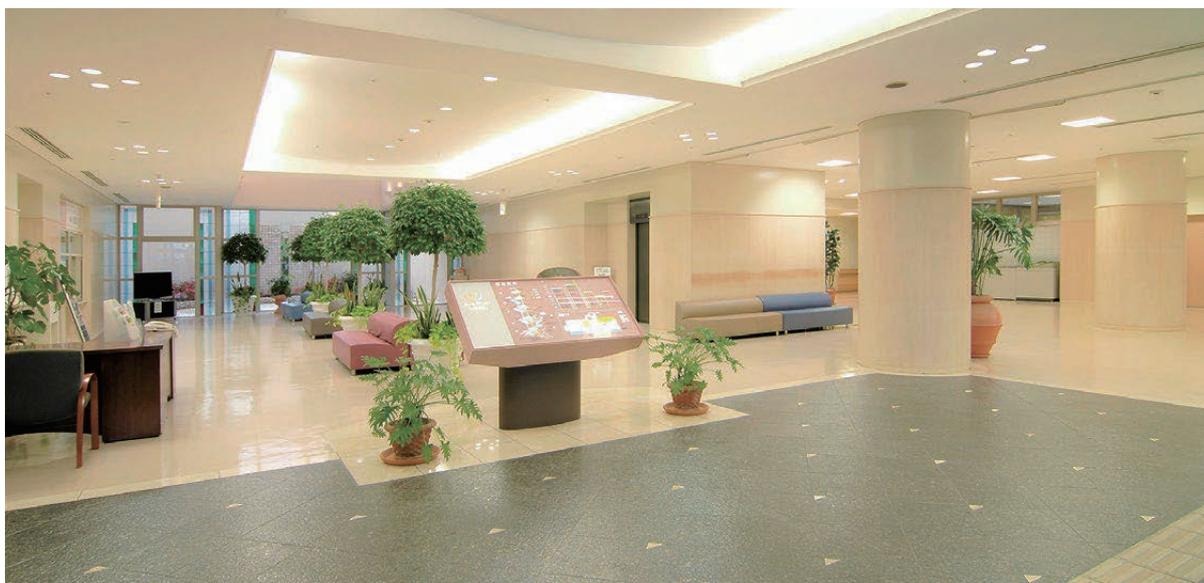
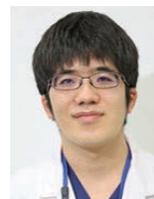
ハートランドしぎさんでの研修を終えて 臨床研修医 山下 真稔 (2020 年度採用)

私は、約1ヶ月間ハートランドしぎさんで精神科研修させていただきました。患者さんに対しての接し方や精神疾患に対する考え方等、多くの事を学ぶことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。私が今回の研修で学んだことを何点か記したいと思います。

まずは1人で予診をとることから始まりました。時間をかけて自分なりに予診をとり、その後に実際の診察を見学させていただきました。見学後は指導医からのフィードバックがあり、疑問点についても丁寧にお答えいただきました。それらのやり取りの中で「患者さんに対してどのような言葉遣いがいいのか」「精神疾患患者に対して何を心掛けて対応しているのか」「どのような情報が重要であるのか」等、色々な発見がありました。私にとっては、精神疾患患者のみならず全ての患者への接し方を学ぶ良い機会となりました。

受け持ち担当した入院患者さんは外来見学した人も多く、入院前後での変化を観察することができました。また、任意入院のみならず、医療保護入院や措置入院等、様々な入院形態に立ち会いました。精神保健福祉法に基づいた入院を初めて目の当たりにしたことは強く印象に残っています。

また、様々なレクチャーを受けたり、リハビリの様子を観察したり、研修会にも参加するなど、多くの事を学ばせていただきました。何よりも私がどのような質問をしても全職種の方々がいつも優しく接していただきました事を、この場をお借りして御礼申し上げます。精神科研修で学んだ事を糧にこれからも精一杯頑張ります。短い間でありましたが、本当にありがとうございました。



やわらぎクリニックでの地域医療研修

やわらぎクリニックでの地域医療研修を終えて 臨床研修医 渡邊 正士 (2020 年度採用)

初期研修 2 年目の渡邊と申します。初期臨床研修では 1 ヶ月間の地域医療研修が必修で、西和医療センターでは、三浦市立病院 (神奈川県) や国保中央病院 (奈良県) ややわらぎクリニック (奈良県) で研修できます。また、西和医療センターの研修プログラムは研修医の要望に添ってくださり融通が利くので、地域医療や総合診療科に興味のある方は 1 か所に加えて 2 か所以上で地域医療研修ができます。私は 2020 年 8 月の 4 週間、奈良県三郷町のやわらぎクリニックに行きましたのでその話をさせていただきます。

やわらぎクリニックは、特定の臓器・症状・年齢・性別などにとらわれることなく、あらゆる患者さんの健康問題に総合診療科として対応されています。また、必要に応じて後方医療・介護医療と連携し、安全で良質な医療・福祉を提供されています。単に患者さんの病いを診るだけでなく患者さんと対話を重ねながら、多職種でアイデアを出しながら患者さんの価値観にあった医療・福祉を追及されています。

研修内容としては、通院されている方の外来を担当したり、指導医の先生と一緒に往診に行ったり居宅介護支援事業所の方々と介護老人保健施設や特別養護老人ホームに行きあまり普段みない実際の現場を見学し話を伺うことができます。外来研修では、見

学だけでなく主に自分で問診や身体診察をして病態を推測して薬を処方したり、時には他の地域の中核病院に紹介することもありました。その際、困ったことや悩ましいことがあれば指導医の北和也先生と一緒に考えてくださり優しくフィードバックして下さります。また普段西和医療センターでは入院から退院までのアセスメントやプランを考えることはありますが、退院後のことや介護のことはあまり考えたことはありませんでした。しかし、居宅介護支援事業所の方々に実際に現場に連れていっていただき患者さんやご家族のニーズに合わせた施設やリハビリのプランなどを考える際の注意点や介護認定に必要な主治医意見書の書き方のポイントをケアマネさんから教えていただきました。ここで書ききれないほどのことを学びました。普段考えない観点が非常に多く 1 か月間あっというまに過ぎ充実した日々を過ごすことができました。



上野病院 (精神科) での研修

上野病院での研修を終えて 臨床研修医 畠 健悟 (2020 年度採用)

1 年目の夏に 1 ヶ月間上野病院の精神科で研修させていただきました。研修医としてスタートを切ったばかりで外病院へ行くことに最初は多少の戸惑いはありましたが、指導医や看護師さんをはじめ職員の皆様はととてもやさしく、雰囲気良かったためすぐに馴染むことができました。外来陪席や病棟の患者の診察、指導医の先生方によるレクチャー、うつ病患者のリワークプログラムなどの各種精神療法の体験を通して、精神科医師の仕事や精神科疾患について理解を深めることができました。また、消化器内科志望の私に合わせて、せん妄・アルコール離脱せん妄の講義をしてくださり、アルコール依存症患者の初診の陪席などを経験させていただきました。研修中に疑問に思ったことはもちろん、内科で研修していた時の睡眠薬や不穏時の処方の疑問なども快く指導して下さり今後の研修にも生かしていきたいと考えています。

高齢化及びストレス社会が加速しつつある昨今において、精神科とそれ以外の科のボーダーラインは希薄になりつつあります。認知症患者のがん治療など、精神科に入局しなくても精神病患者を診る機会は少なからず訪れると思います。患者を適切に精神科に紹介するために、あるいは精神科と共観で患者を診察・治療していくために非常に有意義な 1 か月になったと思います。



奈良県総合リハビリテーションセンターでの 地域医療研修

奈良県総合リハビリテーションセンターでの研修を終えて 臨床研修医 中川龍太郎(2019年度採用)

私は2年目の秋に1ヶ月間、地域研修の枠として奈良県総合リハビリテーションセンターで研修させていただきました。元々、西和医療センターで研修している際に、脳卒中や神経変性疾患を患った患者様が急性期の治療を終えた後、“回復期リハビリテーション病院に転院”という転帰をとっていたのを見て、その後どのように回復していくのかを見たいというのが動機でした。

そのような希望に対して、指導医の先生方は柔軟に対応してください、主に脳神経内科や循環器内科の先生にご指導いただきました。研修内容としては、患者様の診察、リハビリテーション(PT、OT、ST)の見学が主でした。

新規入院の患者様に対しては指導医の先生について、一通りの神経診察をさせていただきます。脳神経内科の先生にご指導いただけるので、2年目で何となくで固まりがちな神経診察を見直すことができ、非常に勉強になりました。リハビリテーションに関しては、そもそもこれまで長時間しっかりと見学させてもらうことは無かったため、新鮮なものでした。急性期病院と違い、患者様の一泊のみのリハビリ量は約4倍確保されているので、例えば歩行時に膝折れを起こしていた方が2-3週間でもかなり安定して歩けるようになる等、効果が如実に表れているところを目の当たりにしました。

他には外来検査(心エコー、下肢静脈、頸動脈のエコーなど)

もご指導いただきました。西和医療センターでは、これらをマンツーマンで御指導いただくことは無いので非常にありがたい経験でした。さらに、何となくでしか認識できていなかった高次脳機能障害について、脳神経内科、精神科の先生方から詳しくご説明いただくことで、また外来・病棟で患者様を診察させていただくことで、明らかに理解が深まったと感じています。

総括ですが、脳卒中患者の転帰を実際に見ておくことは、脳神経系に進むなら絶対必要でしょうし、内科系に進むにしても重要ではないかと感じました。そのうえで同病院機構にある奈良県総合リハビリテーションセンターでの研修は非常に有意義な期間になると考えます。

(補足ですが、同院では整形外科の手術、術後のリハビリテーションも行っておられます。私は上記の理由から脳神経疾患の患者様ばかりを診させていただきましたが、希望に応じて柔軟に対応いただけると思います。)

以上、研修内容報告とさせていただきます。最後に、ご指導賜りました、脳神経内科の森下先生、杉江先生、内科の山野先生、佐々木先生、精神科の松浦先生、石岡先生、院長の川手先生、その他、温かくご指導いただきましたリハビリテーションの先生方、スタッフの方々に御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



学会施設認定および 厚生労働省による特殊治療施設認定

日本内科学会認定制度教育施設

日本腎臓学会研修施設

日本透析医学会認定施設

日本循環器学会認定循環器専門研修施設

日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設

日本不整脈学会不整脈専門医研修施設

日本消化器病学会専門医制度認定施設

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本肝臓学会専門医制度認定施設

日本小児科学会小児科専門医制度専門医研修施設

日本小児科神経学会研修関連施設

日本外科学会認定医制度修練施設

日本消化器外科学会専門医修練施設

日本癌治療認定医機構認定医研修施設

大腸癌研究会参加施設

日本大腸肛門病学会認定施設

日本脳神経外科学会専門医認定訓練施設

日本脳神経外科学会専門医研修プログラム施設

日本脳卒中学会認定研修教育病院

日本整形外科学会認定専門医制度研修施設

三学会構成心臓血管外科専門医指定基幹施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設

日本循環器学会認定研修施設

日本脈管学会研修指定施設

胸部ステントグラフト実施施設

腹部ステントグラフト実施施設

下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設

日本泌尿器科学会専門医拠点教育施設

日本眼科学会研修指定施設

日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医制度研修施設

日本麻酔科学会麻酔科認定指導病院

日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関

日本 IVR 学会専門医修練施設

日本救急医学会救急科専門医指定施設

経皮的中心筋焼灼術認定施設

ロータープレーター（高速回転式冠動脈粥腫切除術）認定施設

閉塞性肥大型心筋症の中心筋焼灼術（PTSMA）認定施設

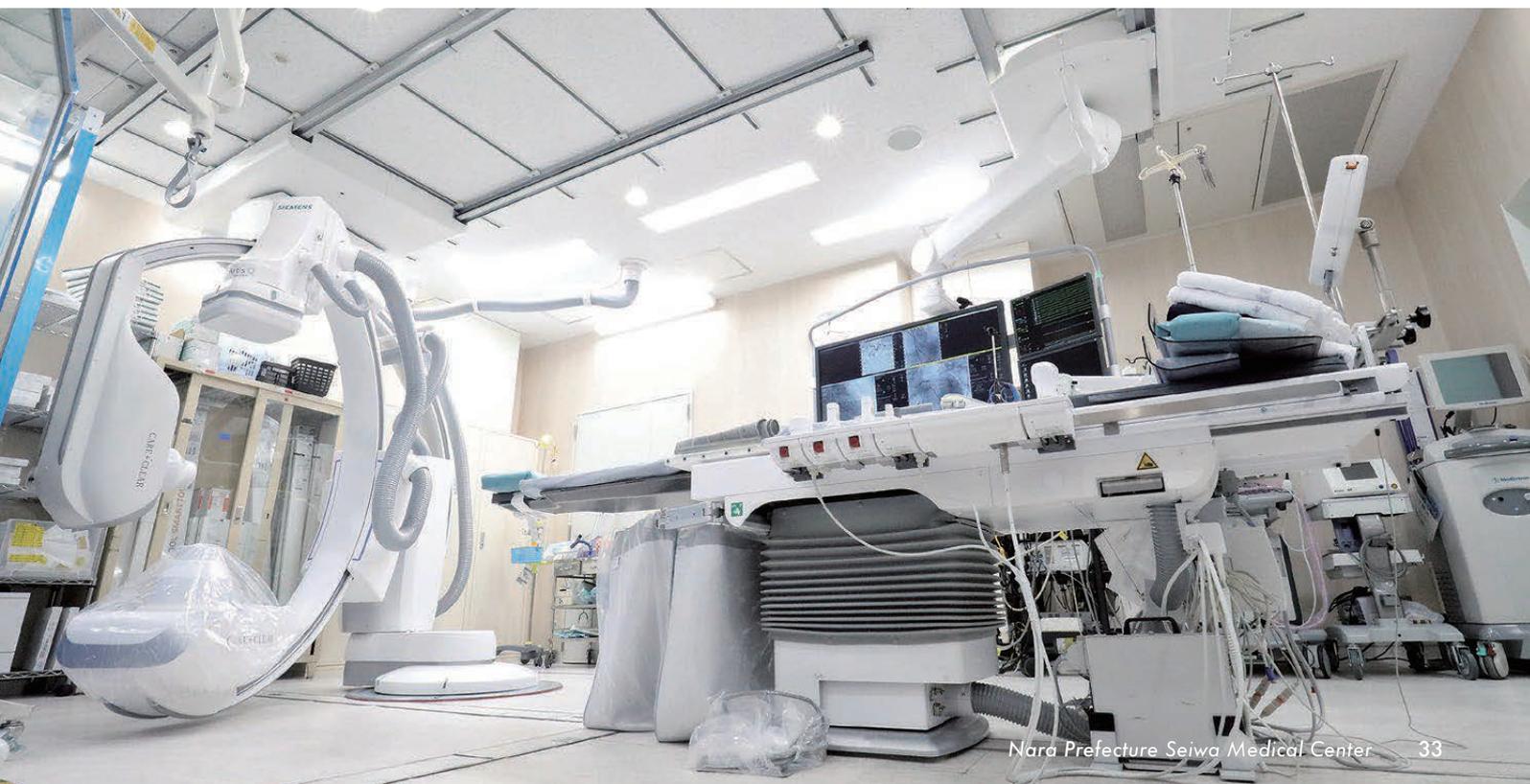
エキシマレーザ冠動脈治療認定施設

ペースメーカ移植認定施設

植込み型除細動器（ICD）移植認定施設

ペーシングによる心不全治療両心室同期ペースメーカ（CRT-D）移植認定施設

カテーテル心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）認定施設



学術教育活動

大和川メディカルアカデミー

1年に1回、地域の医療機関の先生方と一緒に学術集会です。研修医はここでの発表は必須です。症例報告の準備では、まとめ方や発表の仕方、質疑応答での姿勢など指導医から丁寧に指導してもらい、実際の発表を行います。一般の学会発表も多く経験してもらいますが、まずは、このアカデミーでの発表を経験してください。



西和医療センター医学雑誌

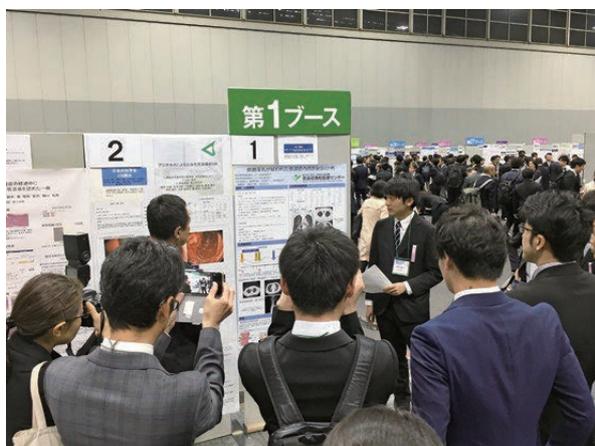
西和医療センター医学雑誌は年1回発行する学術雑誌です。研修医は毎年1編以上の論文投稿が義務付けられています。初期研修の2年間で必ず2編の論文を仕上げるのです。主に学会の地方会や大和川メディカルアカデミーで発表した症例報告ですが、論文の書き方のイロハから指導医や上級医から指導を受けることができ、大変勉強になります。医師になっておそらく初めての論文になりますので、貴重な経験です。初期研修中に一般の雑誌にもどんどん投稿できるような論文作成能力を育てます。



医学生と研修医のための日本内科学会ことはじめ

(令和2年度、令和3年度はWeb開催)

毎年4月に開催される日本内科学会総会。そのなかに研修医のためのセッションがあります。この研修医セッションには、西和医療センターの研修医は必ず発表者として参加しています。全国学会ですので、1年間の経験のなかで、よく考え抜いた症例報告あるいは研究報告を発表します。この学会を一つの目標として1年間で磨いたプレゼンテーション力を、発表当日には発揮します。



教育体制

研修医のためのモーニングカンファレンス

臨床で初期診療をしてゆくうえで大切なことを、毎週月曜日の朝、研修医による研修医のためのカンファレンスの中で学んでいます。研修医が症例提示し、指導医と議論し、その症例から学ばべきポイントを研修医がスライドにまとめて、みんなで勉強する会です。毎週、とても勉強になる内容であるため、月曜日は早起きしてでも全員が集まっています。



令和3年度 テーマ

日時	テーマ
4月19日	カルテの書き方
4月26日	バイタルサイン
5月17日	ショック
5月24日	Professionalism 1
5月31日	発熱
6月7日	腹痛
6月14日	消化管出血
6月21日	泌尿器科救急
6月28日	頭痛
7月5日	胸痛
7月19日	腎機能障害
7月26日	脱水症・熱中症
8月2日	動悸・不整脈
8月16日	外科救急
8月23日	肝胆膵の救急
8月30日	呼吸不全
9月6日	失神・痙攣
9月13日	意識障害

日時	テーマ
9月27日	Professionalism 2
10月4日	糖尿病救急
10月11日	アレルギー
10月18日	電解質異常
10月25日	脳神経外科救急
12月6日	妊婦の診察での注意点
12月13日	呼吸機能検査
12月20日	関節痛、腰痛
12月27日	Professionalism3
1月17日	耳鼻科救急
1月24日	膠原病を疑ったら
1月31日	透析患者の救急
2月7日	下痢・便秘
2月14日	気管支喘息
2月21日	眼科救急
2月28日	痺れ・麻痺
3月7日	婦人科救急

内科統合カンファレンス（J-OSLER カンファレンス）

毎月2回、水曜日の朝7時30分に院内の内科医（循環器、消化器、腎臓、呼吸器などすべての内科医）が全員一堂に会して行っているカンファレンス。研修医も全員参加していますので総勢40名近いカンファレンスになっています。奈良県西和医療センターでは、救急疾患や総合診療領域の疾患も内科医全員で協力して診療しています。そのために、たとえば腎臓内科の専攻医が循環器疾患を受け持ったり、消化器内科のスタッフ医師がリウマチ・膠原病領域の症例を受け持つようなこと、すなわち専門に縛られない診療が当たりまえになっています。これは、内科専門医プログラムのなかで、幅広い領域の症例を主たる主治医として受け持つことが要求されることとマッチしており、そういう意味で西和医療センターは内科専門医プログラムでの専門医研修がしやすい環境になっています。しかし、専門分野でない症例では、各専門診療科の指導医・上級医からの指導だけでは解決しないことや気がつきにくいことがあることも事実です。このように、悩んだ症例や診断がつかない症例などをこのカンファレンスに持ち寄って、たくさんの領域の先生の前で症例提示し、不明なことを解決する絶好の機会になっています。また、内科専門医プログラムで提出（J-OSLERシステム）しなければならない受け持ち症例のなかでも考察の多い症例を、このカンファレンスで提示することで、広くアドバイスを受けられるというメリットもあり、重要な内科の集まりになっています。このカンファレンスの司会をしているのが、臨床研修医支援室長の森本勝彦部長です。研修医の受け持つ症例も、広範囲の領域になるため、このカンファレンスは研修医にとっても重要です。研修医はこの議論を聞いて、内科医の思考過程を学んでいってほしいと考えています。



臨床病理検討会（CPC）

西和医療センターでは、臨床で救命困難であった症例で、ご遺族の同意をいただけた場合に病理解剖を行うことがあります。多い年は年間16例にも上りましたが、COVID-19の感染拡大年の2020年度は2例までさがりました。しかし、医学の発展のためにご献体いただきましたご意志に敬意と感謝の気持ちをこめて、すべての臨床医がなぜ助けられなかったのかの答えを勉強する機会としてCPCを設けています。2021年度は7月に3例、2022年度は7月と10月に計5例の症例の臨床経過と病理解剖の結果（顕微鏡的所見を含む）を突合して議論しました。臨床医の勉強としてなくてはならないCPCです。



研修医セミナー（1-2年次研修医全員が集合して学習）

総合診療ケースカンファレンス ドクターG

実践的な総合診療の診断学。NHKの番組「総合診療医ドクターG」に出演された元祖ドクターGでもある洛和会京都医学教育センター長 酒見英太先生によるケースカンファレンス。当センターの実際の症例の中から診断に苦慮した症例について、診断に至る思考プロセスを詳しく解説。総合診療指導のプロフェッショナルによる他では経験できないカンファレンス。（年4回総合医療センターとの相互開催）



開催日	講演タイトル
令和元年 5月24日(金)	症例発表担当科：消化器内科、呼吸器内科
令和元年 8月16日(金)	・発熱と口内炎で救急外来を受診した76歳女性 ・診断に苦慮した不明熱の一例
令和元年 11月15日(金)	症例発表担当科：循環器内科、腎臓内科
令和2年 2月21日(金)	・右季肋部痛を主訴に受診した女性 ・繰り返す発熱と咳嗽を主訴に紹介された一例
令和3年度	コロナにより延期
令和4年 4月22日(金)	・不明熱 ・肉芽腫性乳腺炎を併発している中年女性の3回目のコロナワクチン接種後に発症した両側急性下腿結節性硬班の一例

心臓電気生理のプロフェッショナルによる心電図判読講座（木曜日）

西和医療センターは知る人ぞ知る不整脈のプロ集団。そのなかでもカテーテルアブレーションを専門とする若手医師による心電図の読み方講座。学生時代に知っておくべき心電図の復習から始まり、より判読に難しい心電図へ、レベルアップしながら、すべての研修医が（不整脈専門医レベルまでとはいかないまでも）総合内科専門医や循環器専門医レベルまで心電図を判読できるようにトレーニングを積むコースです。毎週、心電図を読むことで、背景の疾患を考えながら、より精密に心電図を読む習慣が身に付きます。



消化器疾患スキルアップセミナー（全 10 回）

2016 年 4 月より消化器内科が 6 名体制にグレードアップしました。現在では、研修医のためのセミナーを月に一回開催しています。消化器内科のプロが教える実践的な内容ですので楽しみにしてください。

過去に扱った内容は以下の通り

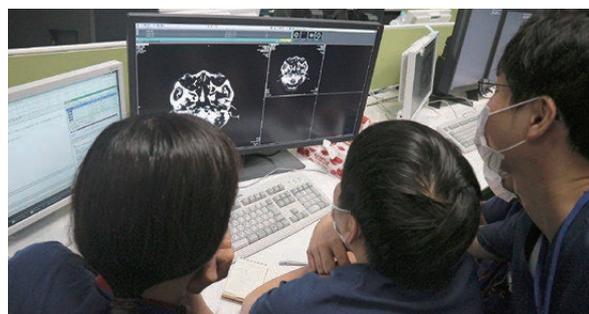
- ① 明日から使える腹部エコー実践術 ② あなたも明日から肝臓専門医 ③ よく見る大腸疾患（1）④ 上部消化管出血の初期対処法
- ⑤ 上部消化管内視鏡の依頼と所見の見方 ⑥ 消化器内科病棟処置（腹腔穿刺・ENBO 管理）⑦ ウイルス肝炎の現状と最新治療情報
- ⑧ よく見る大腸疾患（2）⑨ 閉塞性黄疸と急性胆管炎の対処法 ⑩ 膵疾患（急性膵炎）

開催日	講演タイトル
令和3年 5月13日(木)	明日から使える腹部エコー実践術
令和3年 6月10日(木)	あなたも明日から肝臓専門医
令和3年 7月 8日(木)	よく見る大腸疾患①
令和3年 9月 9日(木)	上部消化管出血の初期対処法
令和3年10月14日(木)	上部消化管内視鏡の依頼と所見の見方

開催日	講演タイトル
令和3年11月11日(木)	消化器内科病棟処置（腹腔穿刺・ENBO管理）
令和3年12月 9日(木)	ウイルス肝炎の現状と最新治療情報
令和4年 1月13日(木)	よく見る大腸疾患②
令和4年 2月10日(木)	閉塞性黄疸と急性胆管炎の対処法
令和4年 3月10日(木)	膵疾患（急性膵炎）

放射線科読影講座（全 15 回）

単純 X 線像や CT・MRI 画像の読影を深く理解するために、放射線科指導医が読影法の考え方を詳しく教えています。毎日毎晩たくさん救急患者を受け入れているなかで、これは大切という画像から学習してください。きっと実力がつくと思います。



日程	講師	テーマ
5月11日(火) 5月25日(火)	山田先生 武輪部長	肝区域について 消化管穿孔
6月 8日(火) 6月22日(火)	前田先生 大倉先生	CTを意識した読影 腹部単純CTを見直そう
7月 6日(火) 7月20日(火)	武輪部長 山田先生	急性虫垂炎 画像検査依頼文の書き方
9月21日(火)	大倉先生	血尿の画像診断

日程	講師	テーマ
10月 5日(火) 10月19日(火)	武輪部長 前田先生	腸閉塞 粒状影の画像診断
11月 2日(火) 11月16日(火) 11月30日(火)	大倉先生 前田先生 大倉先生	
12月14日(火)	武輪部長	
1月18日(火)	専攻医	

総合診療カンファレンス（毎週金曜日）

研修医に大人気の中村塾。総合診療のプロフェッショナル、中村孝人先生によるプライマリケアのために必要な知識と考え方、推論の進め方など研修医が最も知りたいツボをすべて伝授するコース。

	日 時	内 容
第1回	令和3年4月8日(木)	RIME
第2回	令和3年4月16日(金)	肺炎と身体所見のとり方のコツ
第3回	令和3年4月23日(金)	ショック
第4回	令和3年4月30日(金)	Covid-19 case study
第5回	令和3年5月6日(木)	気胸、痛みのアセスメント
第6回	令和3年5月14日(金)	Case Conference
第7回	令和3年5月21日(金)	Case Conference
第8回	令和3年5月28日(金)	CPA
第9回	令和3年6月4日(金)	体重減少
第10回	令和3年6月11日(金)	Case presentaion
第11回	令和3年6月18日(金)	薬剤性肺炎・case study
第12回	令和3年6月25日(金)	Case Conference
第13回	令和3年7月2日(金)	Case Conference
第14回	令和3年7月16日(金)	Case Conference
第15回	令和3年7月30日(金)	胸部XP読影
第16回	令和3年8月13日(金)	救急外来での対応



	日 時	内 容
第17回	令和3年8月20日(金)	視診と問診
第18回	令和3年8月27日(金)	感染症診療の原則
第19回	令和3年9月3日(金)	血液ガスの読み方
第20回	令和3年9月10日(金)	血液ガスの読み方2
第21回	令和3年9月17日(金)	PGY1-2

基本的臨床能力評価試験（年1回）

日本医療教育プログラム推進機構（JAMEP）が主催する研修医としての臨床能力を評価する試験です。全国250施設以上の医療機関で採用されている試験を1年次と2年次の2回受験してもらいます。自分自身の臨床能力を客観的な評価によって再認識し、その後の研修生活に生かしてもらえることを期待しています。



臨床検査技術カリキュラム（全3回）

臨床検査の中で特に診療に不可欠な技術として、血液像、細菌グラム染色、輸血関連（血液型、輸血適合試験）検査を臨床検査技師による研修を行い、実践に即した手技、形態観察術を伝授します。

開催日	研修内容
令和3年6月3日(木)	グラム染色と検鏡のしかた
令和3年6月24日(木)	
令和3年6月29日(火)	
令和3年9月29日(水)	血液塗抹標本の作製・染色と見方
令和3年10月13日(水)	
令和3年10月27日(水)	
令和3年11月5日(金)	血液型と交差適合試験
令和3年11月12日(金)	
令和3年11月26日(金)	



院外講師による特別講座

開催日	内容	講師
平成 29 年 2 月 22 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 職員全体勉強会 (choosing wisely)	松本謙太郎先生 (大阪医療センター総合診療科)
平成 29 年 3 月 17 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「認知症ってそういうことだったのか!」 職員全体勉強会 「せん妄ってそういう事だったのか」	関口健二先生 (信州大学医学部附属病院総合診療科特任教授)
平成 29 年 4 月 7 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「呼吸器問診と鑑別診断」 「間質性肺炎の取り扱い」 職員全体勉強会「肺結核のお話」	長尾大志先生 (滋賀医科大学呼吸器内科講師)
平成 29 年 5 月 22 日	乳腺の診察の仕方：乳腺外科への招待	高島勉先生 (大阪市立大学大学院腫瘍外科講師)
平成 29 年 5 月 26 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「高齢者の身体診察について」 職員全体勉強会「バイタルサインの重要性」	上田剛士先生 (洛和会丸太町病院救急・総合診療科副部長)
平成 29 年 6 月 23 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「みるトレ感染症～感染症の Visual Diagnosis～」 職員全体勉強会 「抗菌薬！どんなときに使っていますか？～耐性菌を増やさないために私たちができること～」	忽那賢志先生 (国立国際医療研究センター国際感染症センター)
平成 29 年 9 月 7 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「がん治療・緩和ケアにおけるこころのケアとは」	四宮敏章先生 (奈良県立医科大学附属病院緩和ケアセンター長)
平成 29 年 10 月 5 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「意識障害のアプローチ」 職員全体勉強会「急変時対応について」	坂本壮先生 (順天堂大学医学部附属練馬病院救急・集中治療科)
平成 29 年 10 月 27 日	ジュニアレジデント勉強会 「EFAST とショックの超音波」	松本敬先生 (中頭病院集中治療科)
平成 29 年 11 月 9 日	ジュニア、シニアレジデント勉強会 職員全体勉強会「非専門家のための HIV 感染症との関わり方」	塚田訓久先生 (国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター医療情報室長)
平成 30 年 1 月 22 日	乳がんの診断と治療の実際 乳がん専門医が語る乳がんとは？	高島勉先生 (大阪市立大学大学院腫瘍外科講師)
平成 30 年 2 月 21 日	ジュニア、シニアレジデント勉強会「不定愁訴に強くなる」 職員全体勉強会「不定愁訴と言わないで！」	片岡仁美先生 (岡山大学病院総合内科)
平成 30 年 4 月 17 日	全職員勉強会 「全ての医療者のための ACP (Advance Care Planing) と臨床倫理について」	西村正大先生 (奈良市立都祁診療所管理者、市立奈良病院臨床研修センター副センター長)
平成 30 年 5 月 10 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「博士の愛した聴性打診～必要なものは聴診器だけ～」 全職員勉強会 「呼吸器の身体診察～聴診器を必要としない身体診察編～」	伊東直哉先生 (静岡がんセンター感染症内科)
平成 30 年 6 月 28 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会「身体診察小テスト」	川島篤志先生 (市立福知山市民病院総合内科)
平成 30 年 7 月 24 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会「地域を見る「眼」を持とう！：地域診断から CBPR まで」 職員全体勉強会「医療における対話（ダイアログ）の可能性」	孫大輔先生 (東京大学大学院医学系研究科医学教育国際研究センター)
平成 30 年 9 月 13 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会「ロジックを進めるリウマチ・膠原病診療」	萩野昇先生 (帝京大学ちば総合医療センター第三内科学講座(血液・リウマチ)講師)
平成 30 年 10 月 17 日	ジュニアレジデント勉強会「周挿管期の心構え」 医師・看護師向け勉強会「挿管後のトラブルシューティング」	松本敬先生 (中頭病院集中治療科)
平成 30 年 10 月 18 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会「不明熱を不明にしないための講義」 職員全体勉強会「インフルエンザの診断と治療」	山本舜悟先生 (京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター 臨床研究・研修部 特定助教)
平成 30 年 11 月 14 日	楽しく学ぶ集中治療ワークショップ	笹野幹雄先生 (中頭病院集中治療科)
平成 30 年 11 月 29 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「こども苦手を克服！こどものみかたの基本原則」 職員全体勉強会 「小児科外来における経口抗菌薬適正使用～未来のこどもたちに抗菌薬を残す～」	笠井正志先生 (兵庫県立こども病院感染症科部長)

開催日	内容	講師
平成31年2月20日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 ①「STDのプライマリケア」②「発熱・皮疹／紫斑」	大場雄一郎先生 (大阪急性期・総合医療センター総合内科)
平成31年3月13日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「胸腔ドレーンハンズオンと四方山話」	百武威先生 (高清水高井病院呼吸器内科)
平成31年4月11日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「フィジカルの実技とベッドサイド回診」 職員全体勉強会 「地域医療が楽しくてたまらない！」	平島修先生 (名瀬徳洲会病院)
令和元年5月14日	職員全体勉強会「感染症診療の原則」	青木真先生 (感染症コンサルタント)
令和元年8月29日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「輸液について～輸液の基本的な理解の仕方と実際の症例の考え方～」 職員全体勉強会 「SpPin な身体所見」	須藤博先生 (大船中央病院院長)
令和元年9月27日	ベッドサイド回診 ジュニア・シニアレジデント勉強会 「フィジカル診断ケースシリーズ」 職員全体勉強会 「バイタルサインでここまでわかる」	徳田安春先生 (群星沖縄臨床研修センター長)
令和元年10月3日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「診断エラー」 職員全体勉強会 「ポリファーマシー」	矢吹拓先生 (栃木医療センター)
令和2年1月30日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「多職種連携って必要？」 職員全体勉強会 「雲南市での経験とエビデンスを通して考える多職種連携」	太田龍一先生 (雲南市立病院地域ケア科部長)

総合診療医 徳田安春先生の臨床推論 & 身体所見スペシャル@西和医療センター

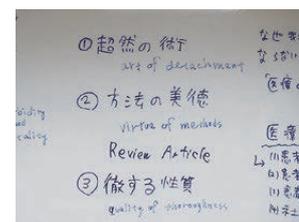
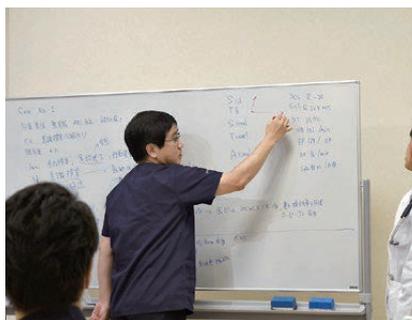
数々のテレビ番組で皆さんご存じの通り、総合診療領域の教育では全国的に有名な徳田安春先生によるケースカンファレンスおよび身体所見教育の病棟回診を実施しました。

当院の研修医からの2例のケースプレゼンテーションと徳田先生流の臨床推論についてのディスカッションおよびポイントでの身体所見のとり方など、豊富な経験を踏まえて教えていただきました。続いて実際に病棟で身体所見を徳田安春先生が研修医に伝授。最後には、医師としてなにをすべきか? 「医学」というタイトルでご講演をいただきました。

研修医にとって、身体所見は深いのだということが理解できたことでしょう。また、研修医には臨床推論における考え方の筋道をしっかり身につけてほしいと思います。



中央が徳田安春先生



松本謙太郎先生（マツケン先生）の総合診療カンファレンス @西和医療センター

国立病院機構大阪医療センター総合診療科のマツケン先生こと松本謙太郎先生による総合診療カンファレンス。深い臨床推論と身体所見の重要性についてカンファレンスを通じて解説していただきました。研修医達も刺激を受けたようです。



乳腺の診かた：乳腺外科への招待 @ 西和医療センター (大阪市立大学附属病院外科講師 乳腺専門医 高島 勉先生)

乳腺の診かた、触診の仕方を知っていますか？乳房のシミュレーターを用いて、乳がんを疑う腫瘍の見つけ方や乳がんの診断法を解説していただきました。この講座は2回シリーズで、後編は、乳がんの治療の実際についてです。特に、外科的な技術よりも化学療法や放射線療法など集学的な治療が主流になりつつある領域で、現場ではどのように考えて治療しているのかを詳しく解説して頂きます。



EBM と言えば兵庫県立尼崎総合医療センター片岡裕貴先生の「EBM の検索法を極める」セミナー @西和医療センター

EBM 教育で有名な兵庫県立尼崎総合医療センターの片岡裕貴先生に來ていただき、EBM の基本から活用法、さらに検索の極意を伝授していただきました。院内 LAN でいつでも閲覧可能な UpToDate のうまい使い方もたくさん教えていただきました。

間質性肺炎と肺結核の勉強会 @ 西和医療センター (滋賀医科大学呼吸器内科講師 長尾大志先生)

研修医のためだけに「間質性肺炎の診かた・考え方」を解説していただきました。総論から始まり、画像の特徴など詳細に教えていただきました。その後、研修医を含む医師とメディカルスタッフ全体に「結核のはなし」というテーマで結核診療の考え方を解説していただきました。研修医にとって呼吸器内科診療の醍醐味が理解できた勉強会であったと思います。



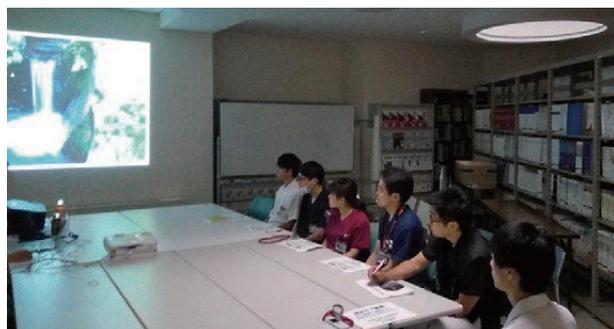
上田剛士先生 (洛和会丸太町病院 救急・総合診療科) @西和医療センター

NHK ドクター G でおなじみの上田剛士先生による総合診療カンファレンス。

今回は、身体診察のなかでも高齢者で特に気を付けたいポイントに関して、研修医とカンファレンスをしていただきました。2時間にわたるカンファレンスで、身体所見の正しい取り方、考え方を研修医に叩き込んでいただきました。その後「バイタルサインの重要性」というテーマで、ご講演をいただきました。研修医にとっては、いつもテレビで見っていた先生からの直接のカンファレンスが新鮮だったと思います。

四宮敏章先生 (奈良県立医科大学附属病院緩和ケアセンター) による緩和ケア講習会 @ 西和医療センター

「がん治療・緩和ケアにおけるこころのケアとは？」というテーマで四宮敏章先生にお話しいただきました。西和医療センターの研修プログラムではホスピス研修も選択可能ですが、選択しない研修医にとっても、緩和ケアは重要な研修項目です。研修医は外部の緩和ケア講習に出席（義務）していますが、今回は四宮先生から直接、緩和ケアにおけるこころのケアの実際を教えていただきました。



坂本 壮先生（順天堂大学医学部附属練馬病院 救急・集中治療科）のカンファレンス
@ 西和医療センター

坂本 壮先生は、救急の最前線で活躍されている先生です。今回は、意識障害のアプローチというテーマで、研修医に対してトレーニングしていただきました。意識障害と言っても様々な背景があり、論理的にアプローチすることで、真の病態が浮かび上がってきます。研修医にとっては、有意義な2時間のカンファレンスでした。そしてカンファレンス後に「急変時にどう対応する？」というテーマでご講演をいただきました。



忽那賢志先生（国立国際医療研究センター国際感染症センター）のカンファレンス
@ 西和医療センター

病歴と身体所見を重視した初診時の臨床推論のカンファレンス。密度のあるカンファレンスでした。感染症患者の身体所見の数々は、研修中に見ることがまれでも、重要なものが含まれています。専攻医たちも勉強になったカンファレンスでした。そして、その後に抗菌薬の使い方について、プロの目からみたエッセンスを教えていただきました。



塚田訓久先生（国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター医療情報室長）
@ 西和医療センター

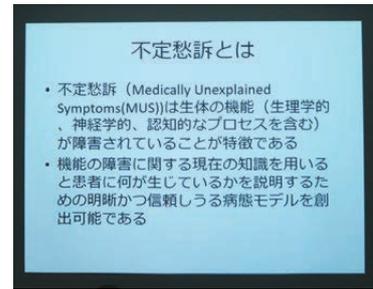
奈良県は東京都よりはるかに HIV 感染症患者さんとの接触は少ない環境にありますが、それでも知っておかなければならない HIV に関する研修医のためのカンファレンスです。

【症例】研修医。2週間前から徐々に増強する息切れと倦怠感を自覚していた。本日直直中に息苦しさが増強し、職場の救急外来を受診した。胸部X線で両側に非常に淡いすりガラス陰影…… という症例から始まり、HIV 感染の可能性をどのように想起すべきかについて教えていただきました。その後、今回は「非専門家のための HIV 感染症との関わり方」というテーマで現在の HIV 感染症がほぼコントロールできる疾患になっていること、専門施設ではどのように治療しているのか、そして世間にはどれだけひどい偏見があるのか、それに対してどのように患者さんのケアをしているのかなど、日本国民全員に聞かせてほしい貴重なお話をしていただきました。このような最前線の仕事の内容を聞かせていただくことができ、ただ、勉強になったというより、将来感染症領域のプロを目指す研修医がでけるのではないかと胸が熱くなりました。



片岡仁美先生（岡山大学病院総合内科）@西和医療センター

片岡仁美先生は、NHKのドクターGでおなじみの先生です。番組がきっかけで、西和医療センターの研修医教育にも協力いただいています。不定愁訴と思っても、見逃してはならない疾患が隠れていることがあるということを、教えていただきました。



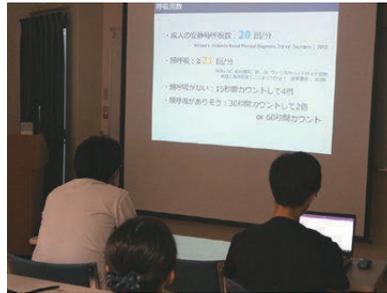
西村正大先生（奈良市立都祁診療所管理者・市立奈良病院臨床研修センター副センター長）
勉強会『全ての医療者のための ACP（Advance Care Planing）と臨床倫理について』
@西和医療センター

人生の最終段階における医療に関して、患者さんと医療者がこの先どのような医療を受けたいか、どのように残された時間を過ごしたいかを、時間をとってしっかり話し合っあらかじめ決めておくことを ACP といいます。西村先生はプライマリケア医としてその第 1 線での経験と考え方を、西和の研修医のために教えてくれました。



伊東直哉先生（静岡がんセンター感染症内科）による身体診察勉強会@西和医療センター

プライマリケアにおいて、病歴のとり方と身体所見のとり方は、最も重要です。今回は静岡がんセンターの伊東先生に身体診察の極意を教えてくださいました。



川島篤志先生（市立福知山市民病院総合内科）研修医・専攻医勉強会「身体診察小テスト」@西和医療センター

総合内科の教育に情熱を熱く持っていらっしゃる川島先生による身体診察の極意。



孫 大輔先生（東京大学大学院医学系研究科医学教育国際研究センター）@西和医療センター
 研修医・専攻医勉強会「地域を見る「眼」を持とう！：地域診断からCBPRまで」
 全体勉強会「医療における対話（ダイアログ）の可能性」

対話（ダイアログ）を医療現場で活用するためにはどうすれば良いか、ワークショップ形式で、皆で経験しました。



萩野 昇先生（帝京大学ちば総合医療センター第三内科（血液・リウマチ）講師）@西和医療センター
 研修医・専攻医勉強会「ロジックを進めるリウマチ・膠原病診療」

研修医のための本を出版されていることでも有名な萩野先生による、リウマチ膠原病の診断についての解説。関節を触ることの大切さを教えていただきました。内科と整形外科の間で解決できない患者さんの苦痛にアプローチできるヒントを沢山いただきました。



松本 敬先生（中頭病院集中治療科）@西和医療センター
 研修医勉強会「周挿管期の心構え」 医師・看護師勉強会「挿管後のトラブルシューティング」

東京大学卒業後、米軍の病院や福井県立中央病院、亀田総合病院で救急・集中治療を経験され、現在は沖縄県立中部病院と双壁をなす沖縄県中頭病院集中治療部で活躍されている松本先生。毎年西和の研修医のためにテーマを変えて教えていただいています。

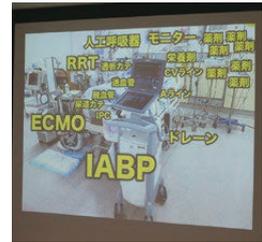


山本俊悟先生（京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター 臨床研究・研修部 特定助教）
 @西和医療センター
 研修医・専攻医勉強会「不明熱を不明にしないための講義」
 全体勉強会「インフルエンザの診断と治療」（感染防止研修会公開講座）



笹野幹雄先生（中頭病院集中治療科）@西和医療センター「楽しく学ぶ集中治療ワークショップ」

笹野先生も亀田総合病院で集中治療を研鑽され、沖縄県で県立中部病院と双壁をなす中頭病院の集中治療部を立ち上げ、年間700例におよぶ集中治療管理のトップをされている集中治療のオピニオンリーダーです。ワークショップでは、なぜそのように人工呼吸器をさわるの？という疑問に答える症例ベースのワークショップでした。集中治療をわかりやすく、しかも深いところまで理解できる内容で、研修医にとってはとても勉強になるワークショップでした。



笠井正志先生（兵庫県立こども病院感染症科部長）@西和医療センター
 研修医・専攻医勉強会「こども苦手を克服！こどものみかたの基本原則」
 全体勉強会「小児科外来における経口抗菌薬適正使用～未来のこどもたちに抗菌薬を残す～」
 （感染防止研修会公開講座）

小児の診かたを丁寧に教えていただきました。救急では小児もたくさん診療する機会があります。ここで教えていただいたことを明日からの救急外来での診療に役立てるように勉強しました。



大場雄一郎先生（大阪急性期・総合医療センター総合内科）@西和医療センター
 研修医・専攻医勉強会 ①「STDのプライマリケア」②「発熱・皮疹／紫斑」

一般にSTDについて勉強する機会は少ないものです。でも、救急外来では、常に念頭に置かねばならないもの。発熱・皮疹・紫斑などのありふれた症候の鑑別診断のなかでSTDをどのように位置づけ、考えているか？とても勉強になる研修でした。



百武 威先生（高清会高井病院呼吸器内科）@西和医療センター
 研修医・専攻医勉強会「胸腔ドレーンハンズオンと四方山話」

胸腔ドレーンの入れ方は、研修医のシミュレーショントレーニング夏合宿でも行いますが、今回は、ハンズオンで学習することができました。正しい挿入と管理を知らないと、大きな事故につながります。正統な挿入法を勉強しました。

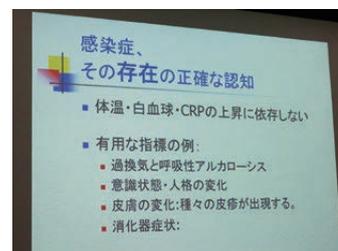
平島 修先生（名瀬徳洲会病院）@西和医療センター
 研修医・専攻医勉強会「フィジカルの実技とベッドサイド回診」
 職員全体勉強会「地域医療が楽しくてたまらない！」

身体所見の取り方、とても大切な技術です。プライマリケアに携わるなかで、フィジカル的重要性を学びました。



青木 眞先生（感染症コンサルタント）@西和医療センター
職員全体勉強会「感染症診療の原則」（感染防止研修会公開講座）

言わずと知れた、超有名な感染症の大御所、青木眞先生が西和医療センターに！
感染症診療の基本的な考え方を、青木先生の人生すべてから学びました。留学したときの英語力に関する貴重なアドバイスもいただきました。次回は第2弾でもう一度お話を伺いたいと思います。



須藤 博先生（大船中央病院院長）@西和医療センター

研修医・専攻医勉強会「輸液について～輸液の基本的な理解の仕方と実際の症例の考え方～」

職員全体勉強会「SpPin な身体所見」



徳田安春先生（群星沖縄臨床研修センター長）@西和医療センター

研修医・専攻医勉強会「ベッドサイド回診」「フィジカル診断ケースシリーズ」

職員全体勉強会「バイタルサインでここまでわかる」



矢吹 拓先生（栃木医療センター）@西和医療センター
 研修医・専攻医勉強会「診断エラー」
 職員全体勉強会「ポリファーマシー」



太田龍一先生（雲南市立病院地域ケア科部長）@西和医療センター
 研修医・専攻医勉強会「多職種連携って必要」
 職員全体勉強会「雲南市での経験とエビデンスを通して考える多職種連携」



Bolstad 先生による Clinical English Program (毎週水曜日)

Bolstad 教授による臨床英語レッスンでは、英語での病歴聴取、身体所見をとる時に患者さんとのように会話しながら適切な所見をとるのか、そして、英語での症例プレゼンテーションなど、臨床の多彩な現場で英語をどう使うのかを学びます。

毎週水曜日は必ず英語の世界に入り込むことで、将来の外国語での診察や海外での学会発表にも自信を持って臨めるように成長してほしいと、このレッスンを研修のど真ん中にいれています。



令和3年度テーマ

	日時	内容
第1回	令和3年4月7日(水)	Intoroduction and casual conversation
第2回	令和3年4月14日(水)	Deep question
第3回	令和3年4月21日(水)	Practice of presenting bio
第4回	令和3年4月28日(水)	Intoroduce your friend
第5回	令和3年5月12日(水)	What is the doctor's job?
第6回	令和3年5月19日(水)	Interesting game for differential diagnosis
第7回	令和3年6月2日(水)	20 questions
第8回	令和3年6月9日(水)	ABC SOCRATES
第9回	令和3年6月16日(水)	How to use "SOCRATES" in clinical situation
第10回	令和3年6月23日(水)	痛みの鑑別
第11回	令和3年6月30日(水)	緩和ケアについて
第12回	令和3年7月7日(水)	SOCRATES に基づいた問診
第13回	令和3年7月14日(水)	Informed consent
第14回	令和3年7月21日(水)	ローテート中の診療科での研修内容について
第15回	令和3年8月4日(水)	Informed consent
第16回	令和3年8月11日(水)	Informed consent
第17回	令和3年8月18日(水)	Informed consent
第18回	令和3年8月25日(水)	Informed consent
第19回	令和3年9月1日(水)	How to make win-win relationship between patients and Drs
第20回	令和3年9月8日(水)	Informed consent
第21回	令和3年9月15日(水)	win win solution 「I message」
第22回	令和3年9月22日(水)	Is there anything you do for your health?
第23回		
第24回		



Clinical English Program

Become part of the world medical community with English.

In a world which is internationalising at an unprecedented pace, English is more than just a skill. It is a door to a whole world of skills and experiences. Whether you want to treat foreign patients, understand the latest advances in medical science, present your research at international conferences or just enjoy traveling the world and making new friends, you will need English to make your dreams into realities.

Seiwa Medical Center offers interns the opportunity to improve their English in a relaxed and supportive environment. Classes are scheduled to fit your busy schedule, homework is kept to a minimum and what homework is assigned is based on your own life experiences and interests. In this way the English program is designed to support your work life balance by allowing you to develop the skills you need to be a successful doctor while discussing the topics that truly matter to you as a person.

However, our Clinical English program is more than just English conversation. At Seiwa Medical Center we recognise that you chose to study medicine for a reason and that for doctors English is not just a hobby but a practical skill which will support your ongoing development as a medical professional. To help you master this skill close attention is given to core medical topics through which you will be able to develop medical communication skills and become confident speaking English in both your professional and personal life.

Sample of medical topics used in class:	Sample of Medical Communication Skills Practiced:
Evidence Based Medicine	Taking Patient Histories
Observation Bias	Referral Procedures
The Doctor Patient Relationship	Establishing Rapport in English
Addiction and Dependency	Presentation Skills
Medical Ethics	Win-Win Conflict Resolution
Super Bugs and the Rise of Antibiotic Resistant Bacteria	Giving Patients Bad News



Program Leader and Tutor:

Francesco Bolstad is professor of Clinical English and head of department at Nara Medical University. An experienced teacher, he has taught for a total of more than 20 years in ESOL, biology and communications skills classrooms in New Zealand and Japan. Most recently developing and implementing English for Specific Purposes (medical science and engineering) at Nara Medical University and Kyoto University.

シミュレーショントレーニング

臨床研修医メディカルトレーニングルーム

研修医が身につけるべき基本的技術をシミュレートするためのトレーニングルームを整備しました。安全で繊細な臨床手技の技量を身につけることは臨床医にとって重要事項です。卓越したプロの手技をたくさん見て覚えることも重要なのですが、自分が手技の術者になる前にシミュレータで何度も繰り返してトレーニングを積んでください。

- 1 心肺蘇生 (BLS) 用シミュレータ
- 2 腹腔鏡手術トレーニングシミュレータ
- 3 末梢静脈からの中心静脈カテーテル留置シミュレータ
- 4 内頸静脈・鎖骨下静脈からのエコーガイド下穿刺シミュレータ
- 5 腰椎穿刺用シミュレータ
- 6 動脈穿刺用シミュレータ
- 7 末梢静脈採血および点滴シミュレータ
- 8 気管挿管用シミュレータ
- 9 尿道バルーンカテーテル挿入用シミュレータ



シミュレーション学習のための夏合宿 神奈川県のカリニカルシミュレーションセンター

毎年7月に、1年次および2年次の研修医全員と若手ナースを対象にしたシミュレーショントレーニング合宿（2泊3日）を開催しています。神奈川県小田原市にほど近い温泉町に、シミュレーション教育施設があります。ICUや一般病室、ナースステーション、手術室やカテ室を備えた巨大な模擬病院で、様々な臨床の場面を想定した、シナリオシミュレーショントレーニングや、高度なことまで可能なシミュレータを用いた手技のトレーニング、そして外科的気道確保などの特殊な手技に関しては、動物を用いての実習が可能です。ひとつひとつの課題に対して、ブリーフィング（学習の目的と学習環境の説明）⇒シナリオシミュレーション（手技実習を含む）⇒デブリーフィング（振り返り）の3つの時間帯があり、特にデブリーフィングでは学習した重要なことをディスカッションしてより深い理解につなげます。2021年度はバブル方式で開催、研修医にとって非常に有意義なトレーニングなのでこれからも毎年開催します。（2020年度のみCOVID-19のため中止）



シナリオシミュレーション



腰椎穿刺



シナリオシミュレーション



超音波ガイド下穿刺



内頸静脈穿刺



シナリオシミュレーション

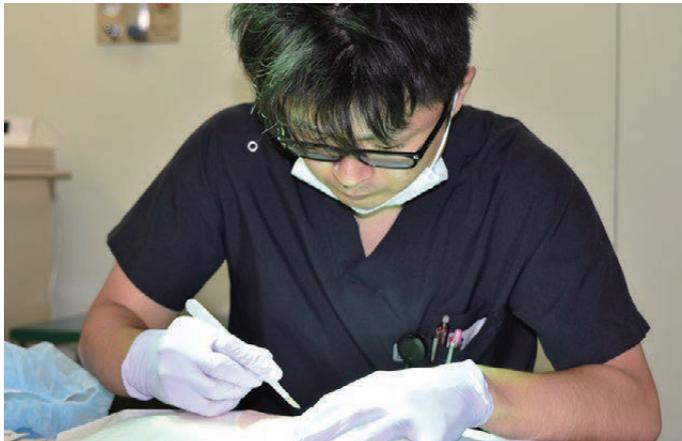


気管挿管



切れないっす（…お前、メス反対やんけ！）

シミュレーション学習のための夏合宿 2017



切開トレーニング



エコーガイド下 CV カテーテル挿入



シナリオシミュレーション



シナリオの振り返り (デブリーフィング)



シナリオシミュレーション後の振り返りと解説



気管挿管



CVカテーテル挿入



医師・看護師チームによる気管挿管トレーニング



輪状甲状間膜切開

シミュレーション学習のための夏合宿 2018



輪状甲状間膜切開法



腰椎穿刺



シナリオの振り返り



シナリオシミュレーション中



腰椎 穿刺



シナリオの振り返り



胸腔ドレーン挿入



縫合トレーニング



エコーガイド下 CV カテーテル挿入



外科的気道確保



シナリオシミュレーション中



気管挿管



シナリオシミュレーション中

シミュレーション学習のための夏合宿 2019



縫合トレーニング



縫合トレーニング



縫合トレーニング



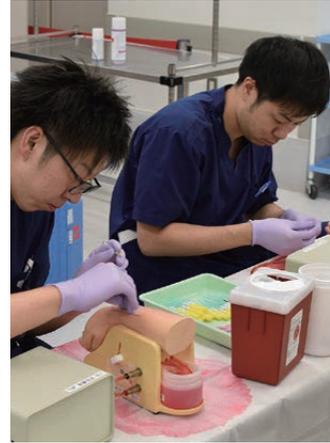
気管挿管



気管挿管



腰椎穿刺



Aライン挿入



シナリオシミュレーション



シナリオの振り返り



Aライン挿入



外科的気道確保



外科的気道確保



温泉宿で懇親会♪(楽し〜♪)

シミュレーション学習のための夏合宿 2020

COVID-19 のため中止

シミュレーション学習のための夏合宿 2021

バブル方式での再開

西和医療センター臨床研修の目玉合宿も COVID-19 には勝てず、2020 年は涙をのんで中止にしました。そのためこの年の 1 年目は ICLS の実技や様々な手技トレーニングの機会を失い、秋になっても急変などの実臨床の現場で（どうしていいかわからず）体が動かないことがありました。臨床研修管理委員会や臨床研修カリキュラム委員会の委員の先生方が議論し、（密は避けなければならない時期でしたが）急遽、院内での ICLS トレーニングを行うことで補いました。しかし、このことで、この夏合宿の効果が絶大であることと再認識したのです。2021 年は、研修医・指導医・指導者レベルの看護師の合宿チーム全員がワクチン接種を済ませ、バブル方式（行き帰りはバスをチャーター、宿舎とトレーニング会場以外に外出禁止、アルコール禁止）での合宿を再開しました。2021 年 7 月 9 日から 11 日の 3 日間、トレーニング会場に缶詰で、様々な手技のトレーニングとシナリオシミュレーショントレーニングを行いました。この合宿に参加した 1 年目研修医は「日本救急医学会認定 ICLS 受講証明書」、2 年目の研修医は ICLS の指導をしますので「ICLS アシスタントインストラクター参加証明書」を受けることができます。COVID-19 パンデミックから脱出し、再び、宿舎での楽しすぎる懇親会ができるようになれば、みんな本当に打ち解けて西和の仲間だという実感がわく機会になることでしょう。それで今年は、懇親会やアルコールなしで、一体感を醸成できたと思っています。以上、西和医療センターの目玉企画の夏合宿報告でした。



意外と難しいマスク換気



「離れてください！」ACLS の特訓



カテ室をバックにドヤ顔の齋藤氏



ピース！（気管挿管にて）



「痛い！」（本当は刺してないよ）模型での動脈穿刺



模型で気管挿管の練習

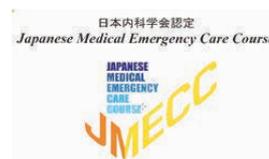


ピース!!!（笑顔の市居君）



日本内科学会認証 救急・ICLS 講習会 (JMECC) @奈良県西和医療センター

心肺停止の蘇生術と同様、心肺停止になる寸前の重症の内科救急患者に対する適切な対応を実践的に学ぶコースです。様々な救急患者のシナリオシミュレーションを用いて、適切な患者の評価と迅速な対応をするためのスキルアップを目的にしています。内科専門医を目指す医師だけでなく、すべての研修医にとって重要なコースです。



奈良県内のJMECC開催の中心を担っているJMECCディレクター岡山悟志部長(リハビリテーション科)が中心になって当院でのコースを開催しています。内科専門医を目指す研修医が全員JMECCをすでに受講しており、インストラクターの資格取得を目指すスタッフが複数在籍しているため、今後も継続的に奈良県西和医療センターでJMECCを開催します。当院の研修医は、救急外来での救急疾患対応の経験が豊富ですが、初期対応の基礎を学ぶため、JMECCを受講する方針にしています。



JMECC
2016年12月4日(日)
2017年10月22日(日)
2018年12月9日(日)
2019年12月15日(日)
2021年3月21日(日)
2021年11月21日(日)

ICLS講習会
2019年11月17日(日)
2020年10月18日(日)

新興感染症発生時のための訓練（研修医が First Touch したという設定）

今回の新型コロナウイルス感染症の出現前からの訓練

2019年からのCOVID-19パンデミックのずっと以前から新興感染症発生時のための感染防護訓練を臨床研修のプログラムに取り入れていました。下の写真は2017年の訓練の様子です。この時代はまだ、SARS相談室しかなかったのですが、必要な訓練であるという認識で、取り組んでくれています。現在は、大型の発熱外来クリニックやCOVID-19専用病棟、いつでも新規の訓練が可能です。そして臨床での実践も研修医がしています。



中心静脈カテーテル挿入シミュレーショントレーニング

メディカルトレーニングルームでシミュレータを用いたエコーガイド下中心静脈カテーテル挿入の訓練をしていますが、今回は血流がある特別なシミュレータを用いて、ペースメーカ等のデバイス植込み手術時に行うX線透視下での鎖骨下静脈穿刺を学習しました。



院外研修

がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会

がん診療において、緩和医療は非常に重要な領域です。癌性疼痛の正しい評価法と治療のノウハウを事例検討で学習したり、ロールプレイによって実際に近い経験としてオピオイドの使用法を学びます。また、呼吸器症状・消化器症状の評価の仕方や対処法、精神症状の評価と対処法など、がん患者さんに主治医として寄り添えるための基本を学習する機会です。毎年11月に開催されるこの研修会に研修医は全員参加しています。



新人ナースと研修医合同のシナリオシミュレーション学習

院内取り組みについて

災害医療

奈良県には赤十字病院が存在しないため、これまでも災害時や感染症のアウトブレイク時には県立病院がその代わりとなって活動してきました。皆さんの記憶に新しい東日本大震災時にも奈良日赤隊として、津波災害の当日に召集、翌朝に奈良を出発し、岩手県の野田村（右の写真）で西和医療センターのチームが活動しました。2016年の熊本地震においても、奈良 DMAT 西和医療センターの部隊を派遣しています。DMAT 隊員以外にも広く災害医療を理解してもらうために現地での活動の様子を報告する研修会には研修医全員が参加します。さらに、毎年11月には、病院職員全員参加型の災害訓練が開催され、研修医もトリアージに始まる災害時救急医療の考え方と具体的な実践法を学びます。



東日本大震災救護班西和医療センターチーム
(岩手県野田村)



2016年熊本地震に派遣されたDMAT隊（西和医療センターチーム）

災害訓練

毎年11月の土曜日は、救急外来以外の業務をストップして、病院のスタッフ全員参加の災害訓練を実施しています。訓練には医師、看護師を始め、中央放射線部、中央検査部、中央手術部、薬剤部、臨床工学技術部などすべての院内スタッフが役割を分担し、奈良県広域消防組合の協力を得て、救急車も本番さながらに走ります。近隣で大規模災害が起こったという想定で、次々に運び込まれる救急患者さんを病院玄関ホールでトリアージし、救急外来では、赤、黄、緑のチームに分かれて、それぞれの領域で救急患者の治療にあたります。研修医は、この訓練の中心であり、トリアージや各チームでの治療に携わります。事前の机上訓練で、トリアージの行い方や、災害時の本部（院内設置）との連絡、手術部や病棟との連絡をどのように行い、どのように外部医療機関と連絡をしているか等を学んだうえで、当日すべてのスタッフが各々の役割を果たすシミュレーションに自ら参加することで、災害時の行動力が養われます。



COVID-19 診療（研修医の関わり）

2019年に始まったCOVID-19パンデミックですが、2020年1月にダイヤモンドプリンセス号が横浜港に寄港する少し前に、実は奈良県で日本人の2次感染者がはじめて出ました。この症例は奈良県立医科大学附属病院に収容されましたが、2月5日には当院でも帰国者接触者外来を開始し、4月にはCOVID-19疑似症患者の収容、5月にはCOVID-19疑い患者専用外来棟（発熱外来クリニック）の稼働、COVID-19専用病棟の稼働が始まりました。

感染拡大の第1波（2020年3-5月）、第2波（2020年7-8月）では、研修医を感染症の最前線には立たせませんでした。しかし、全国的な感染拡大は止らず、特に第3波（2020年11月-2021年1月）においては、県内でも重症病床が逼迫し、当院は大規模な発熱外来を運営しながら、中等症入院の酸素や薬剤での治療に加えて、人工呼吸管理を要する重症患者の入院診療も請け負うことになり、研修医の力なしでは立ちゆかなくなりました。指導医の先生がたと研修医のみんなとも話し合い、COVID-19の入院診療の現場に入ってもらい、実際の診療をしてもらいました。もちろん現場に入るまでに感染防止の訓練を繰り返し、自信を持って現場（レッドゾーン）に入ってもらいました。第4波（2021年3月-5月）は関西では第3波を大きく上回るもので、当院ではECMOをはじめ人工呼吸管理などの重症管理が中心になりました。研修医もこの中に入ってCOVID-19の診療を学んでくれたと思っています。第5波（2021年7月-9月）では研修医もしっかりとした戦力となり、上級医・指導医とともに県内のCOVID-19診療の最前線で頑張ってくれました。第6波は最大の感染拡大になりましたが、研修医全員がチームの中でよく仕事をしてくれました。この経験は、彼ら彼女らにとって生涯の宝になると思っています。いつか必ずやって来る次のパンデミックのときに彼ら彼女らが指導者となり、日本を救ってくれると信じています。



COVID-19 ワクチン接種会場への研修医派遣

2021年3月-4月に研修医自身へのワクチン接種は済ませましたが、その後、住民接種が始まりました。奈良県は高齢者接種が遅れ気味であったこともあり、県から奈良県臨床研修協議会に研修医派遣の依頼があり、県全体の研修医がワクチン接種に協力することになり（全国でも奈良県ではじめての試みとなりました）、西和医療センターの研修医も6月-7月、計16回にわたり（研修医1名あたり5回程度）近隣の市町村会場にワクチン接種のための問診業務に出勤しました。1年目の研修医にとっては、これもまた、今後につながるワクチン接種の経験になりました。このワクチン接種業務は奈良県と厚生労働省との間で必修研修としてカウントされることとなり、臨床研修プログラムの一環としての派遣でした。

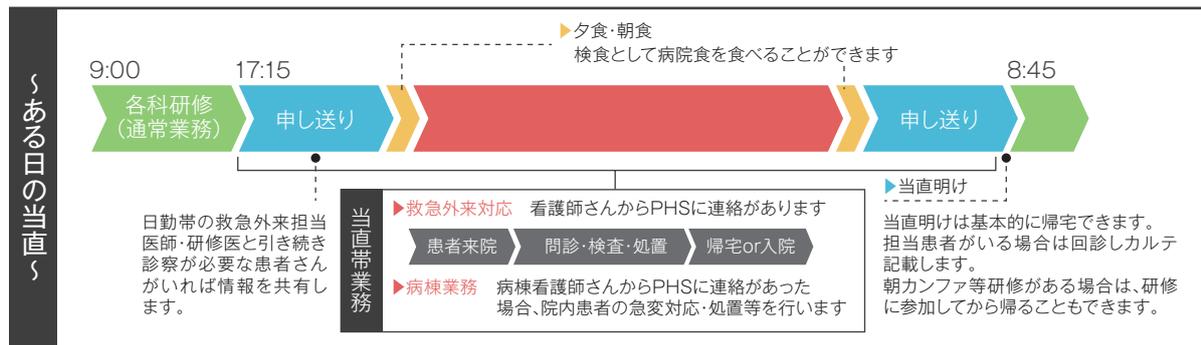


研修医の日常

当直業務（研修医はすべての診療科の業務に係わります）

研修医にとって当直業務は気になる場所だと思います。奈良県西和医療センターでは、内科当直、外科当直、小児科当直、ICU当直、CCU当直に上級医や指導医の先生が入っていますが、研修医も2名の当直体制を組んでいます。研修医の当直業務は、病棟の入院患者さんの診療だけでなく、救急外来の診療も担当します。内科、外科に関わらずすべての診療科の救急患者さんの初期診療（指導医・上級医がそばにいます）を行います。年間の救急車の搬送件数は2,000～3,000件に上りますので、忙しい当直業務ですが、みんな頑張っています。当直明けの翌朝に勤務から外れますので、原則的に帰宅できます。毎年実績では、研修医一人あたりの救急患者診療件数は年間500件平均です。ウォークインの患者さんから重症の救急搬送患者さんまで広範囲の診療に数多く当たりますので、あらゆる領域の救急対応において貴重な経験を積むことができます。このように一人当たりの経験数が非常に多いことが良いところでもありますが、その一方で忙しい毎日になることを覚えておいてください。

当直日誌



奈良県立病院機構忘年会

12月に開催される奈良県立病院機構（奈良県西和医療センター、奈良県総合医療センター、奈良県総合リハビリテーションセンター、奈良県立病院機構看護専門学校）の忘年会です。400人近いスタッフが集まって開催されます。スタッフオブザイヤーなどの表彰や互いの施設の情報交換もでき、楽しい忘年会です。



臨床研修修了祝賀会

毎年3月の第2金曜日の夜、大阪天王寺のマリオット都ホテルで、臨床研修修了祝賀会を開催しています。この日は、病院の医師全員が集まり、研修医の卒業をお祝いしています。研修医も2年間に指導を受けたたくさんの先生方に感謝のこぼれを送っています。後輩の研修医が卒業してゆく研修医の2年間をスライドやビデオにまとめ、みんなで笑ったり泣いたり、締めくくりの祝賀会です。

2019年度はCOVID-19のため中止にしましたが、2020年度は各自の家でビールジョッキを持ってWebで乾杯しました。

2020年度祝賀会 Web（オンライン）開催

2019年度祝賀会 Web（オンライン）開催

2018年度祝賀会



2017年度祝賀会



2016年度祝賀会



医師臨床研修修了証授与式



臨床研修医同窓会

毎年開催の臨床研修修了祝賀会ですが、4年に一度(夏季オリンピックが開催される年)には同窓会を兼ねることにしており、2016年に、第1回同窓会を開催しました。これまで巣立っていった研修医も今では、様々な施設で指導医として仕事をしています。現役研修医にとっても刺激になる同窓会です。2020年の同窓会はCOVID-19の影響で中止になりましたが、2024年(パリオリンピックの年)には開催したいと思っています。



研修医の集い in 奈良

毎年、晩秋から初冬にかけて開催される研修医の集い in 奈良では、奈良県下で研修をしている研修医が大集合して、いろいろなテーマでディスカッションします。2017年は奈良県西和医療センターと奈良県総合医療センターの研修医が開催当番にあたり、日本医療教授システム学会代表理事の池上敬一先生によるワークショップを行いました。後半は県内の研修医から集めたさまざまなアンケートの集計を発表し、三谷研修医のすばらしいトークでとても盛り上がりました。池上先生からは「さすが関西！」とのお褒め?の言葉をいただきました。



直近5年間の研修修了後の進路 (選択した診療科)

2017年度修了者(4名)		2018年度修了者(8名)		2019年度修了者(9名)		2020年度修了者(8名)		2021年度修了者(7名)	
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1名	泌尿器科	1名	消化器内科	2名	行政(名古屋市)	1名	皮膚科	2名
麻酔科	1名	消化器外科	1名	呼吸器内科	1名	小児科	1名	耳鼻咽喉科	1名
循環器内科	1名	心臓血管外科	1名	腎臓内科	2名	産婦人科	1名	消化器内科	1名
形成外科	1名	眼科	1名	形成外科	1名	消化器外科	1名	糖尿病・内分泌内科	1名
		小児科	1名	小児科	1名	脳神経外科	1名	総合診療科	1名
		消化器内科	2名	放射線科	1名	救急科	1名	美容外科	1名
		腎臓内科	1名	医療行政等	1名	病理診断科	1名		
						精神科	1名		

先輩の声

奈良県立医科大学附属病院形成外科専攻医（2016年度研修医） 益田泰光（奈良県立医科大学卒）

こんにちは。私は2016年より西和医療センターで2年間初期研修をさせて頂き、2018年より奈良県立医科大学形成外科に入局し形成外科医として働いています。

現在は奈良から遠く離れた岩手医科大学でステップアップの為に研修させて頂いております。今になって思うのは初期研修での2年間はその後の人生において、すごく影響があるなということです。西和での2年間はとても濃いもので楽しいこと、しんどいこと、たくさんありましたが大きく成長できた期間であったと思います。お世話になった先生方、コメディカルの方々は今でも定期的に集まり当時の思い出を話したりします。初期研修は医学生にとって初めて社会人になる場所でありそれだけにどこで研修するか、とても悩むと思います。病院選びの第一歩である病院見学で西和医療センターを見学し、社会人そして医師としてのスタートをぜひこの病院で始めてみませんか。



益田泰光

奈良県立医科大学附属病院腎臓内科専攻医（2017年度研修医） 羽根彩華（奈良県立医科大学卒）

奈良県西和医療センターは良かったと実感しています。病院全体が研修医教育に熱心であり、指導医・上級医の先生方だけでなく、スタッフの方もとても親切で、日々指導していただいています。当直時や救急外来研修では、先生の手厚い指導の下で研修医が主体的に考え、行動する機会が十分に与えられています。1年目の4月に初めて救急外来に対応した際は何もわからず不安だらけでしたが、数多く対応していくことで、今ではある程度自分で考えて行動することもできるようになってきました。もちろん、ただ数をこなすだけではなく、一つひとつの症例から学ぶことができるように先生から指導していただいたり、疑問に思ったことを研修医同士で考える機会も設けられています。研修医の人数は15人前後という多すぎず少なすぎずという人数で、切磋琢磨し助け合いながら日々楽しく過ごしています。私たち研修医は、少しでも多くの学生さんが当院を初期研修先として選んでくれることを願っています。



羽根彩華



奈良県立医科大学附属病院小児科専攻医（2017年度研修医） 大西将央（奈良県立医科大学卒）

初めまして、小児科後期研修の大西将央です。私は西和医療センターで2年間の初期研修プログラムを終え、3年目は小児科後期研修医として引き続き当院にて研修を行いました。

西和医療センターでの研修は良くも悪くも研修先病院では比較的小規模な地域中核病院であることだと思います。良い点としては、小規模であるため研修医の数も少なめで、各科の先生達の垣根も低く、研修科以外の先生にも様々なことを教えていただけること、圧倒的な Common disease の症例数であると思います。また、コメディカルの方も数が限られてくるので仲良くなれ、医師からは教われない多方面からのアドバイスなどもいただけます。悪い点としては、大学などと比べると重症例や専門的な治療が必要である症例、カンファレンスの数などアカデミックな点に置いては正直劣っている部分であると感じます。ただ、それを補う方法として、研修2年目で約6ヶ月まで奈良医大等の他病院での研修を選択することができます。私は、西和医療センターに無い科（精神科や3次救急）や3年目から専攻予定であった小児科を大学で研修しました。西和医療センターでありふれた症例をしっかり学び、2年目で将来専攻する予定の科について大学病院などでさらに専門的な知識をつけることが可能です。

また、神奈川県の三浦市にある三浦市民病院での研修を選択することができ、訪問診療などを経験することもできます。日々忙しい中、違う環境で研修ができリフレッシュもできました。さらに、県職員対抗のソフトボール大会やみんなで斑鳩町のマラソン大会に出場するなど飲み会以外にもイベントが多く楽しく研修生活を過ごすことができました。

このパンフレットを見てくれている方は、西和医療センターでの研修を考えてくれていると思います。この紙面上では説明しきれないこともたくさんありますので、是非一度病院見学に来てくださればと思います。お待ちしております。



大西将央

奈良県医科大学附属病院泌尿器科専攻医（2017年度研修医） 小田侑希（奈良県立医科大学卒）

（現 西和医療センター泌尿器科勤務）

私は2017年4月から2019年3月まで奈良県西和医療センターで初期研修を行い、2019年4月より奈良県立医科大学泌尿器科で後期研修医としておりました。そして、2020年の4月より西和医療センターの泌尿器科の医員として働くことになりました。この度当院での初期研修について紹介する機会をいただきましたので簡単ですが紹介させていただきます。

当院での初期研修では、初期研修医に必要な知識や技術を2年間で十分学ぶことができます。また、研修のプログラムとして当院以外に奈良県立医科大学や奈良県総合医療センターへの研修も可能であり、2年間でいろいろな施設に研修できるため研修の自由度が高いと思います。私は、救急科を奈良県総合医療センターで、泌尿器科を奈良県立医科大学で研修し、複数の異なる環境を体験でき大変勉強になりました。

地域医療研修では神奈川県の三浦市立病院に1ヵ月研修し、奈良県とは違う地域医療を体験できることも魅力の一つです。

当院の院内セミナーは年々充実し、現在では適度は数で良質な講義を受けるようになっております。研修医主体で開く勉強会なども多く、医師として必要な発表する能力などが自然と養われます。日々の診療で自学自習が難しくてもセミナーや勉強会に出ることでカバーできる体制が整っております。

当院での初期研修で培ったことはその後の医師人生のバックボーンとなっていると実感しております。ぜひ当院での研修を検討してみてください。



小田侑希

奈良県医科大学附属病院消化器・総合外科専攻医（2017年度研修医） 曾我真弘（奈良県立医科大学卒）

初めまして、2017年度採用の外科の曾我と申します。

初期研修2年間は奈良県西和医療センターで研修し、その後奈良医大に入局しました。病院の特色として医師・看護師など病院にかかわる人が親しみやすく、アットホームで、すぐに溶け込むことができました。また外科と内科の垣根も高くなく、気軽に相談しあえる関係で仕事もスムーズに進みます。当院での初期研修2年間はとても充実したものであったためこれから当院で研修する先生方は今後の医者人生においてとても有意義であると思われまます。教育熱心な各科の先生方に加えて外部講師を招いて行われるレクチャー、エコーなどの手技の実習も豊富です。必ず研修医の先生方の力になると思います。まず当院に見学に来てみて雰囲気を感じてください。当院で研修したくなること間違いなしです！



曾我真弘

2018年度研修医 田畑成美（関西医科大学卒）

初期研修の2年間は忙しくも楽しい、非常に充実した時間でした。私が感じた当院の魅力についてご紹介したいと思います。

まず何よりお伝えしたい当院の特徴は、アットホームな雰囲気です。各診療科の垣根が低く、コメディカルのスタッフの方々は大変親切です。一緒に働くスタッフの方々から日々多くのことを学ばせて頂きました。

さらに当院のプログラムの特徴として、他院でも研修できることが挙げられます。大学病院と比較すると市中病院は診療科数が少なく、研修できる診療科も限られてしまいます。しかし、当院では希望すれば研修2年次に他院で研修を行うことが可能です。複数の病院で研修できる市中病院は多くはありません。実際に私は当院にはない神経内科や精神科を他院で選択しました。普段とは異なる環境で働くことができたことも大変良い経験になりました。医師としての最初の時間をぜひ当院で過ごしてみませんか。まずは一度見学に来て、当院の雰囲気を肌で感じて頂ければと思います。



田畑成美



奈良県立医科大学附属病院小児科専攻医（2018年度研修医） 田丸遙菜（奈良県立医科大学卒）

2018年度採用の田丸です。私が当院での初期研修を選んだ理由としては、同期が多すぎずまとまりが良さそうなことや研修医の教育に情熱を持って病院全体で行っていること、研修医2年目になるとそれぞれに合わせた研修プログラムを組めることでした。教育に力を入れたプログラムで、救急患者さんの対応や入院患者さんの管理はもちろん行いますが、心電図やエコー、感染症、画像の読影などについてレクチャーがあり、一人で学ぶよりも見て聞いて実践することでより多くの事を吸収することが出来ました。特にエコーは一人で学ぶには限界があるので、上級医の指導のもと研修医同士でエコーの練習をすることで手技が身に付けることができました。普段の業務の中でも疑問があるときは上級医の先生方が理解できるまで丁寧に教えてくださるので、日々多くのことを吸収することができました。毎日学ぶことが豊富にあり充実した研修医生活を送ることができ、医師としてスタートを切る病院として西和医療センターを選んで良かったなと思っています。興味を持たれた方はぜひ一度見学をして雰囲気確かめてください。



田丸遙菜

奈良県立医科大学附属病院腎臓内科専攻医（2018年度研修医） 北村俊介（奈良県立医科大学卒）

（現西和医療センター腎臓内科勤務）

初めまして。2018年度採用の北村俊介です。

西和医療センターの2年間の初期研修を終えて、自分が感じたことを述べさせていただきます。市中病院であり、common disease や手技の機会が豊富で、自分が研修していない他科の上級医とも話しやすく、なんでも学ぶことが出来る環境は整っていると思います。

同期の数も10人程度で、とても仲良くなりやすい人数ではないでしょうか。

医師としてのスキルが上げる機会が多いのはもちろんですが、中規模の病院であり、すべてのスタッフとの距離が近く、研修医も入ってチーム医療を行うことが出来、今後の自分自身の医師としての振る舞い方を考える事ができる、充実した2年間の研修を送れると断言できます。

学生での病院実習と医師として働きだしてからは、自分自身の医療に対する意識や責任が全く違い、戸惑うことも多いかと思えます。

当院であれば、そんな不安も全くなく、2年間充実した研修が送れます。

是非一緒に働きましょう。



北村俊介



奈良県立医科大学附属病院腎臓内科専攻医（2018年度研修医） 芝田洋輔（関西医科大学卒）

（現西和医療センター腎臓内科勤務）

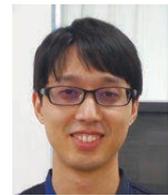
初めまして、内科専攻医の芝田です。私はたすき掛けプログラムのため、研修1年目を大学病院（奈良県立医科大学付属病院）で行い、2年目から西和医療センターで研修を行いました。今回は研修を通じて感じた大学病院と市中病院の違いについて紹介させていただきます。

まず病棟業務についてです。大学病院の入院患者は専門性が高く、専門的な知識を学ぶことができる反面、研修医が自分で考えて検査や処方ができる機会は多くありませんでした。西和医療センターはもちろん専門性の高い患者もいますが、common disease の患者も多いため、報連相をしっかりすれば大学病院よりも臨床に関われる幅が広いと思います。

次に当直業務についてです。大学病院の当直は診療科ごとの当直が多く、研修医1年目であったこともあり、ファーストタッチは上級医が行うことが多かったです。研修医は上級医の指示に従い、採血などのサポートを行っていました。西和医療センターの当直は研修医1年目から内科救急当直を行います。基本的にファーストタッチは上級医の指導のもとで研修医が行い、自分で考えて検査や治療ができる機会が多いです。もちろん、分からないことがあれば上級医が快く相談に乗って下さり、事前の情報で研修医のみでの対応が難しいと予想される場合は上級医も初療に加わって下さります。現在内科専攻医として当直業務を行うにあたり、研修医時代の経験が生きていることを実感しています。

また、大学病院は研修医の人数が多く、診療科ごとの講義はありますが全体に向けた講義はほとんどありませんでした。西和医療センターは研修医の人数が限られている分、講義が充実しています。専門の先生が分かりやすく教えて下さるため、心電図やエコーなどについて自学自習よりも深く理解できたと実感しております。

見学に来て頂ければ、より違いを実感することができると思いますので、ぜひ1度当院にお越し下さい。



芝田洋輔

2019年度研修医 宇野春日（奈良県立医科大学卒）

2019年度採用の宇野と申します。私が研修医として勤務していた際、一番気に入っていたのは立地環境です。生活の質の向上には、施設設備や研修プログラム以上に病院や家の環境が重要です。奈良県西和医療センターのある王寺は街の住みこちランキングで全国1位に輝いた魅力あふれる街です。さらに西和の研修医用借上げ住居は他病院の研修医から羨ましがられるほどでした。私生活でしっかりと休養できる分、仕事にも身が入り充実した研修医生活となりました。残念ながら詳細をご説明するには文字数が足りませんので、ぜひ見学時に質問してみてください。

私は3年目以降の進路として公衆衛生医師を選び、今は名古屋市保健所中保健センターで勤務しています。入職後すぐ新型コロナウイルス感染症の「第4波」が到来し、最前線で感染症対策にあたりました。行政医でありながら臨床に従事する場面が多々ありましたが、西和で感染症関連業務や郡山保健所研修など経験していたおかげで円滑に業務にあたることができました。西和ほど研修プログラムを進路に沿うよう柔軟に調整いただける臨床研修病院は貴重だと思います。またどんな進路を選んでも応援し支えてくださる懐の深さに救われていました。改めてご指導いただいた先生方や職員の方々ならびにご尽力いただいた事務の皆様にご挨拶申し上げます。



宇野春日



奈良県立医科大学附属病院小児科専攻医（2019年度研修医） 久保昂司（奈良県立医科大学卒）
（現西和医療センター小児科勤務）

こんにちは。

当院で2年間の初期研修を修了し、3年目も小児科医として引き続き当院に配属されていました久保と申します。

2年間の研修に飽き足らず、3年目を迎えた私がまず言っておきたいことは初期研修の病院として西和医療センターを選んでよかったと思っているということです。これは研修終了時に同期が口を揃えて言っていたので、お気に入りポイントは人により違えど、まあそういうことなんだろうなと思います。

数ある中のお気に入りポイントをいくつか紹介します。

1つ目は、研修医のために数多くのレクチャーや講義が組まれている点です。これらの講義では上級医の先生方が事前にポイントを絞って準備をしてくださり、わかりやすく、またフランクな形で進めてくれるため、前向きに参加しながら様々な知識や手技を身につけることが出来ます。病院に用意してもらわなくても研修医向けの勉強会そのものはたくさん開催されていますが、自分で参加するものは興味のある分野だけに偏ってしまいがちです。興味を限定せず勉強する機会を得ることができるという点で良かったと思っています。さらにもう一つの利点として、自分が回った、回っている科以外の先生ともコミュニケーションを取る機会が常にあり、研修医にとって相談しやすい環境が自然と出来ていたことも良かった点です。

2つ目は、先生方はもちろんコメディカルの方々も含めて研修医を育てようという雰囲気、体制がある点です。これは当院で研修するにあたっての最大の魅力であると思います。上級医はもちろん、コミュニケーションをとる機会の多い看護師さんや技師さんなど病院で働く全員が温かく接してくださるので1年目の右も左もわからない状態の時から安心感の中で研修を行うことができます。また、私の研修2年目はCOVID-19という新たな脅威に対して研修医も含めて病院全体で奮闘するという予想外の出来事が起こった年でした。そんな時でも研修医の外病院での研修や勉強会の参加の仕方など、できるだけ研修不良にならないようにと常に研修担当の先生方が困りごとはないかヒアリングしてくださり対応してもらったことで研修を無事終えることができたと思っています。臨床面においても、内科救急当直ではファーストタッチを任せられ、問診、身体所見、鑑別、検査、治療を多岐にわたって考え、上級医の先生の指導の下でフィードバックもすぐにしてもらえるため、常に様々な疾患や考え方に触れることができ、日々成長を実感しながら勉強することができます。年間500件程度の救急のファーストタッチを行います、数以上の知識、学びを引き出してもらえます。

まだまだありますが、少々長文となっているのでこのあたりで…。

少しでも気になりパンフレットを手にとってこのページを、この長い文章をここまで読んでくれた皆さん、これも何かのご縁かもしれません。まずは是非、西和医療センターの見学に来てみてください。私の稚拙な文章では伝わらない当院の魅力をはっきりと感じ取ってもらえると思います。さらにご縁があれば、一緒に働きましょう。



久保昂司



2019 年度研修医 坂元優太（奈良県立医科大学卒）

奈良県西和医療センターで初期研修を修了し、現在は奈良県立医科大学付属病院で勤めております、坂元優太と申します。奈良県西和医療センターの研修生活について微力ながらお伝え出来ればと思います。

初期研修医の二年間は医師として、社会人として少しでも一人前になれるように日々の研修生活を送ることが重要ですが、同時に自分自身の今後の進路についても考えていかなくてはなりません。学生時代から自分の志望科が明確な方もいますが、大部分の方は初期研修医中に志望科を選択しています。奈良県西和医療センターは研修内容の自由度が高く、自分の進路が明確になりつつある初期研修医一年目の冬に初期研修医二年目のプログラムを決定することが出来ます。志望科として悩んでいる科を幅広く回ることも出来ますし、自分の志望科が明確な人は自分の科に関与しうる科を中心に研修することが出来るため初期研修医にとっては非常にメリットが大きいです。また病院全体として研修医を熱心に指導しようとする風潮があり、日々の病棟業務、当直業務、勉強会等の研修生活を送っていく中で少しずつ成長を実感することも出来ます。また他府県への交通の便が良いことも魅力の一つです。少しでも当院に興味を持たれた方は是非一度見学にいらしてください、お待ちしております。



坂元優太

2019 年度研修医 助川正泰（東北大学卒）

2019 年度採用の助川です。私は元々出身が関東で東北の大学を卒業しており、奈良県はおろか関西地方で生活したこともありませんでした。縁あって奈良県西和医療センターで研修することになりましたが、研修前は正直不安な気持ちが強かったと言えは嘘になります。しかし実際に研修医として働き始めて今感じることは、この病院で研修することができて本当に良かったという事です。病院全体がアットホームな雰囲気の中で研修医を教育する意識が浸透しており、分からないことがあっても指導医の先生方やコメディカルの方々がとても親切に教えてくださいます。また、心電図やエコー、放射線読影などの日々の様々なレクチャーも充実しており、研修医は優先的に出席することができるというのも研修医の学ぶ環境として非常に優れた当院の特徴の一つであると思います。

この限られた文字数では全てを語ることは出来ませんが、当院でなら楽しくも充実した研修を送ることができることは保証します。奈良県にゆかりのある方はもちろん、ゆかりがなくても興味を持って頂いた方は是非一度病院見学に来て当院の雰囲気を感じてください。我々が文字や言葉で語るより多くの魅力を感じることができると思います。お待ちしております。



助川正泰

2019 年度研修医 三好智浩（奈良県立医科大学卒）

こんにちは。2019 年度採用の三好です。新しい環境に身を置くと、自分 1 人では解決できないことが必ずでてきます。そのときに頼れるのは先輩医師や、看護師をはじめとしたコメディカルスタッフ、そして同期です。西和医療センターには、疑問が適切に解決され日々の成長に確実につなげられる環境があります。そしてその成長は私自身も日々感じ取りながら仕事できており、充実しております。

また同期は約 10 人と適度な人数なので、一人当たりの症例数が過不足なく、一つ一つの症例が消化不良にならずに、どうすれば次に活かせるかをしっかり吟味することができるのも良い点と言えます。

日々の勉強会も充実しているのですが、学生のころと異なり、対話形式の講義が多く、記憶に残りやすいため、一



三好智浩



人で学ぶよりも効率的であると思います。

立地に関しても、王寺駅が最寄りなので大阪の市街地に比較的アクセスしやすく、仕事終わりや休日のリフレッシュもとりやすい環境です。

当センターの魅力は写真や文章だけでは伝えきれません。ぜひ一度お越しいただき、当センターのあたたかい雰囲気や教育への想いを感じ取っていただければ幸いです。

2019年度研修医 中川龍太郎（奈良県立医科大学卒）

2019年度採用の中川です。西和医療センターの魅力をいくつかご紹介したいと思います。

ひとつは研修医の人数です。当院の初期臨床研修医は、1年目2年目ともに8名という人数ですが、これが多すぎず少なすぎず、絶妙な人数だと感じております。症例の取り合いなどは起こらず、全員に均等に機会がやりますし、かといって負担になりすぎることありません。日々数多くの症例や手技を丁寧に指導いただけて、すぐに実践するチャンスがやってくるのは非常に大きいポイントだと思います。

つぎに挙げたいのは、柔軟な臨床研修プログラムです。2年目からは各々自由に回る科を選択することができますし、病院も奈良県立医科大学附属病院や、奈良県総合医療センターなどで研修させていただくことも可能です。自らの関心のある診療科や当院では研修できない科を、他の病院で研修させていただけるのは、非常に優れたプログラムと考えます。

最後に挙げるのは、豊富な勉強会です。優しく教育熱心な先生方による勉強会は、明日からの臨床現場で生かされるものばかりで、毎回多くのことを吸収できます。

少しでも興味をもっていただけたら、ぜひ西和医療センターへ見学に来てください。研修医一同お待ちしております。



中川龍太郎

2019年度研修医 伴理紗子（東北大学卒）

2019年度採用の伴理紗子です。この度は奈良県西和医療センターに興味を持っていただきありがとうございます。当院での研修は毎日が充実しております。研修医としての日々の業務に加えて、多くの勉強会が開催されており、毎回たくさんの方のアドバイスをいただいております。

当院の良いところの1つとして、病院全体がアットホームな雰囲気であることです。上級医の先生はもちろんのこと、看護師やコメディカルの方々、皆さんが親切で分からないことがあっても丁寧に教えてくださいます。また1年目の研修医数が8人と少数であることから、一人一人覚えてもらえて、何かと気にかけてくださいます。

約300床と中規模な病院ではあるものの救急外来では多くの疾患を経験することが出来ます。研修医は上級医の指導の下に初期対応を任せられる機会が多く、自分で考えて行動しなければならない場面が多々あります。初めの頃は検査一つにしても悩むことばかりでしたが、上級医がフィードバックしてくださるので、成長の出来る良い機会です。興味のある方は一度気軽に見学いらしてください。

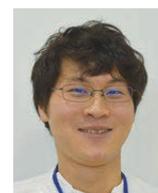


伴理紗子



2019年度研修医 前防克也（関西医科大学卒）

初めまして、前防克也と申します。私は2021年3月まで奈良県西和医療センターで初期研修をしていました。西和医療センターでは研修医のための様々な勉強会があり、実践的な知識を学ぶことができます。2020年は中止になりましたが、医療器具メーカーの施設を借り、泊まりがけで心肺蘇生や様々な手技のトレーニングをするイベントも毎年開催されていました。宿泊施設では温泉を楽しみ、宴会も行われ、良い思い出になりました。研修医自身が様々なテーマ（頭痛、腹痛、発熱など）についてまとめて発表する勉強会や、大和川メディカルアカデミーという院内学会もあり、指導医の先生方のアドバイスを受けながら、人前で発表する経験も積むことができました。研修科については、最初に内科で基礎的な知識を学ぶことになっており、当直などにもある程度対応できるようしっかりと指導していただきます。基本的にどの科でも担当症例数を調節し、各症例に関して考察する時間を多く設けていただきます。そのため一つ一つの症例について深く理解することができ、考える力を養えます。手技についても経験する機会が多くあり、習得しやすい環境が整っています。2年目はかなり自由に科を選択でき、奈良県立医科大学附属病院など他院で研修することも可能です。西和医療センターでは指導医の先生方ももちろん、スタッフの方々全員が研修医に対して丁寧に接していただけます。コミュニケーションの取りやすい雰囲気、病院全体で研修医を受け入れ、育てようとしてくださっているのだと感じます。私は研修に関する悩みで指導医の先生に相談させていただいたことがありますが、真剣に話を聞いてくださり、とても気持ちが楽になりました。今でも感謝しています。



前防克也

2020年度研修医 衣川博貴（奈良県立医科大学卒）

こんにちは。2020年度採用の衣川です。この度は当院に興味を持っていただきありがとうございます。西和医療センターでの研修は、私が思っていた以上に充実していて、非常に手厚い研修を受けさせていただいていると感じています。研修医として働いてみると分かるのですが、一年目の研修医なんて学生とほぼ変わらず（特に私の場合がそうなのかもしれませんが）、上級医やコメディカルの方々に迷惑をかけることばかりです。しかし、そんな私でも当院のすばらしい指導医の先生方、またスタッフの方々のご協力のおかげで、少しずつ医師としての一歩を踏み出していけていると感じております。当院での研修の魅力の一つを挙げるなら、やはり救急外来での内科救急のファーストタッチを行えることがあるでしょう。当院は西和地域の二次救急までを請け負っていますが、内科的救急疾患の初期診察、必要な検査オーダーなどは研修医が行うことになっています。症候、身体所見に応じた鑑別を挙げ、必要な検査、治療を考える作業はその全てが難しくも非常に実になるもので、学ぶことが尽きません。もちろん、指導医の先生のもとで行うのでいつでも相談することができますし、フィードバックもしていただけます。研修サポートという側面での魅力の一つを挙げるなら、当直の翌日は基本的にお休みを頂けることができるでしょう。研修させて頂いている身ですがしっかりと休養を取らせていただけ（先生方も基本的に快く休養を勧めてくださいます）、次の日からまた全力で研修に励むことができます。そのほかにも、研修医室にはパソコンが一人一台用意されていてカルテも開けること、多くのレクチャーがあること、立地がとても良いことなど、当院の魅力は挙げればキリがありません。ぜひ一度当院に足を運んでみてください。皆さんの見学を心よりお待ちしております。



衣川博貴



2020年度研修医 中川穂香（奈良県立医科大学卒）

初めまして。2020年度採用の中川です。

奈良県西和医療センターでの研修内容に興味を持っていただきありがとうございます。

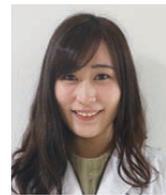
研修を終えて改めて感じた西和医療センターの魅力について少しでもお伝えできたらと思います。

当院での研修の一番の魅力は、教育熱心な先生方と親切に接して下さる医療従事者の方々だと思います。

私は最初に内科を4ヵ月ローテートしたのですが、指導医の先生方が業務の合間を見つけて、研修医に手技を指導する時間をとってくださったり、症例の文献を検索し教授して下さったり、忙しい外来の合間にも外来患者さんを一人一人説明し指導して下さったりと、熱心に指導して下さり充実した日々を過ごすことができました。

また、研修を始めた当初はわからないことばかりで落ちこんでしまうことも多かったです。共に働く看護師さんが「いずれはできるようになるから」と励まして下さったり、指導医の先生が「疲れてない？頑張ってるね」と声をかけて下さったり、温かい環境に励まされていました。

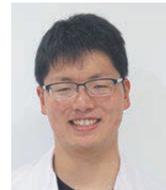
もちろん他にも様々なレクチャー、外部の先生との勉強会、気楽に過ごすことができる研修医ルームなど、語りつくせない魅力がたくさんあります。少しでも興味を持っていただけたら、一度当院に足を運んでいただけたらと思います。



中川穂香

2020年度研修医 畠健悟（奈良県立医科大学卒）

初めまして、2020年度採用の畠健悟です。当院の研修は1年目は内科系など必修科を中心に回ります。そこで、カルテの書き方、処方仕方など基本的なことから診断・治療に必要な知識など医師としての基本を学びます。研修医の数が少なく、症例・手技を取り合うことなく多くを経験させていただいております。最初は学ぶことが多く、簡単なことでも時間がかかり苦労も多かったですが、どの科でも例外なく、指導医の先生方は熱心で忙しくも充実し成長を実感できる日々を過ごしています。看護師さんや薬剤師さんなど他の医療関係者との距離も近く、様々なことを気軽に相談させていただいたりして、多職種間での連携の重要性を学ぶこともできました。当直業務では救急患者さんの初期対応を上級医の指導のもと、研修医が自ら考えて鑑別を挙げ・検査をオーダーし、アセスメントして治療を行うことで、多様な疾患について学ぶことができています。研修医は学生時代とは違い、自分の判断や行動が患者に反映され不安なことも多いですが、それを乗り越えた先に成長があり、その成長を最大限引き出してくれるのがこの病院だと思います。少しでもこの病院に興味を持っていただければ、ぜひ見学に来てください。文章だけでは伝えきれない当院の魅力を知っていただき来年から一緒に研修することができれば嬉しく思います。



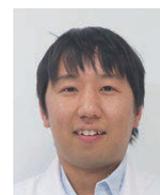
畠健悟



2019年度、シミュレーショントレーニング合宿での懇親会

2020年度研修医 松本直也（奈良県立医科大学卒）

2020年度採用の松本です。西和医療センターの臨床研修は少人数制の研修であるため、症例を取り合うことがありません。研修医の人数が少ない分、指導医の先生方にも名前を覚えていただき丁寧な指導を受けることができます。また、当院では研修医のためのレクチャーが多く、日々様々な知識を身につけることができます。レクチャーには優先して出席できることもあり、研修医の学ぶ環境が整っています。もし当院での研修に少しでも興味がおありでしたら、ぜひ一度見学にいらしてください。研修医一同お待ちしております。



松本直也

2020年度研修医 山下真稔（奈良県立医科大学卒）

2020年度採用の山下と申します。西和医療センターでの研修生活について紹介いたします。当院では病院全体が研修医の教育に熱心で、我々が多くの知識や経験を習得するのに恵まれた環境が整えられています。様々な研修医向けのレクチャーやカンファレンスがあり、非常に勉強になります。先生方も時間をかけて熱心に指導して下さるので多くのことを学ぶことができます。さらに、上級医の先生方やコメディカルの方々がとても親切で、我々は毎日のように助けてもらいながら温かい雰囲気の中で安心して研修生活を送っています。また、救急外来において多くの症例を経験することができることも魅力的であると思います。当院では、研修医が上級医の指導下で初期対応として問診や身体診察、検査を行います。そして、自分自身で考えた後に、上級医と相談して治療を行います。救急外来対応時も丁寧に指導いただけるので大変勉強になります。以上のように西和医療センターにはたくさんの魅力があり、私自身も充実した日々を過ごしています。当院での研修に少しでも興味を持たれた方は是非見学にいらしてください。お待ちしております。



山下真稔



2020 年度研修医 横山友亮（奈良県立医科大学卒）

こんにちは。2020 年度採用の横山友亮です。当院に興味を持っていただきありがとうございます。研修プログラムの魅力をいくつかお伝えしたいと思います。

当院では研修医のために様々なレクチャーや手技実習が行われていて、心電図、エコー、画像診断などを学ぶ機会が多く得られます。また研修医のためのモーニングカンファレンスでは、研修医同士で発表し合い、勉強した内容を共有することができます。日々の業務では上級医の先生方のみならず、コメディカルの皆さんもとても親切で仕事のことを何でも教えていただけます。救急当直では上級医の指導の下でファーストタッチを行うことができ、診察終了後にはフィードバックを受けることができるため症例を担当するごとに成長に繋がります。研修医の人数も適度であるため指導がしっかり全員に行き届き、症例の取り合いになることはありません。当直明けは業務を免除していただけたり、iPad を支給していただけたりと仕事の環境も良いので集中して研修に取り組むことができます。日常生活においては、利便性のよい JR 王寺駅の近くにある広くてきれいな医師住宅を格安で利用することができます。出張や買い物の際などとても便利で奈良県とは思えないほど暮らしやすいです。

見学に来ていただければより詳細に当院の雰囲気を知ることができると思いますので、ぜひ一度お越しください。



横山友亮

2020 年度研修医 渡邊正士（奈良県立医科大学卒）

初めまして、2020 年度採用の渡邊正士と申します。奈良県西和医療センターの臨床研修の良いところは、人数が多すぎず、少なすぎず丁度良く、また指導医の先生をはじめいろんなスタッフの方々と接することができて丁寧に指導して下さい、医師として人間としても成長できる環境と教育体制が整っているところにあります。また、当直や救急外来では、患者さんに対してファーストタッチで対応させていただくことが多く、自らで考えて行動し、その後指導医の先生方が丁寧に指導して下さいます。自分で考えて行動したことに対して教えていただけるので自分で机に向かって勉強する以上の成果を得られていると実感しています。このように自主的に学べる機会が多い点もおすすめできるところです。また、レクチャーやエコーの実習、臨床英語の講義なども定期的に行われ充実しており、自分で勉強するのが苦手な人にもペースメーカーとして勉強する機会を与えてくれます。病院全体で研修医を育てようという雰囲気がにじみ出ています。

現在研修医は 20 人程で研修医ルームが与えられており、1 年目、2 年目ともに距離が近く非常に仲が良く、毎日和気あいあいとしながら楽しくかつ切磋琢磨しながら臨床研修を行っています。

最後に西和医療センターのおすすめポイントとして、自分で本を読んでガツガツ勉強するというタイプよりは指導医の先生や先輩に教えてもらいながら研修していきたい人、忙しすぎず適度に自分の時間を大切にしながら研修生活を送りたい人、この二つのどちらかに当てはまる人は是非西和医療センターに来ていただければ充実した研修生活を送れることを約束します。是非一度西和医療センターに見学に来ていただければ、さらに当院の魅力を伝えることができると思います。研修医一同お待ちしております。



渡邊正士



2020年度研修医 山田光陽（奈良県立医科大学卒）

こんにちは。2020年度採用の山田です。みなさんはどんなことを重視して研修病院を選ぼうと考えていますか？教育体制、ローテートの選択の自由度、病院の規模、雰囲気、救急受け入れの件数、研修医の人数、待遇、立地、設備の新しさ、3年目以降の専攻医プログラムなどなど、様々な視点で研修病院を探していることと思います。すでに志望の診断科が固まっており、それに合わせて研修病院を探している人もいることでしょう。

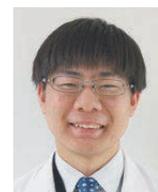
さて、ここでは2年間の研修全体の話をするよりも、「どのように研修を始めるか」を考えてみてほしいと思います。研修初日を想像してみてください。カルテの書き方、処方出し方、物品の配置、診察、手技などなど、少し考えるだけでわからないこと、できないことの多さに不安を覚えてくるのではないのでしょうか。この不安な気持ちはみんな一緒です。私も不安でいっぱいでした。そんな不安な気持ちを思い出しながら、西和医療センターのことをお伝えしたいと思います。

西和医療センターの研修は必ず内科から始まります。私は腎臓内科から研修をスタートしました。腎臓内科では4人の先生が研修医を指導して下さいます。研修初日から、入職したばかりでなにもできない自分に、小さなことから自分のレベルに合わせて課題を示してもらいました。できそうなことは任せてもらえ、難しそうなことは一緒にやり方を教えてもらえることで、充実した研修を送ることができています。課題をもらって終わりではなく、常に研修医のことを気にかけてもらえます。「なんでこの薬が入ってるかわかる？」「どうしてこのアセスメントになるかわかる？」など、先生の方からもこまめに声をかけてもらえ、小さなことでも気軽に質問ができる環境が整えられています。

腎臓内科で研修をしているからといって腎臓疾患や透析患者さんだけを診るわけでは決してありません。最初の1週間だけでも誤嚥性肺炎、脳梗塞、関節リウマチなど、診療科にとらわれず様々な症例を経験させていただきました。研修で回る診療科にとらわれず、幅広く common diseases を経験することができるのも当院の大きな魅力です。

現在は1年目、2年目とも10人で研修しています。多すぎるほどでもなく、指導医の先生や看護師さんに顔を覚えてもらえ、かといって少なすぎて寂しくなることもなく、お互い助け合える、ちょうどいい人数です。1年目と2年目が必ずペアで当直に入ることができるというメリットもあります。広々とした研修医室もあり、電子カルテは一人一台配布され、かなり過ごしやすい環境が整っています。

他にも、日々の勉強会のことや救急外来のことなど、お伝えしたい魅力はまだまだまだたくさんあります。ぜひ見学にお越しください。お待ちしております！



山田光陽



2021 年度研修医 市居大季（奈良県立医科大学卒）

初めまして、2021 年度採用の市居です。西和医療センターの魅力についていくつか話したいと思います。

1 つは研修医の人数です。当院の研修医は、1 学年で 10 人、2 学年合わせても 20 人と、多すぎず少なすぎず、ちょうどいい絶妙な人数だと思います。症例の取り扱いなどは起こらず、全員に均等に機会が回ってくるので、経験を積むことができます。1 つ 1 つの症例や手技について丁寧に指導していただき、しっかりと学ぶ機会、手技を実践する機会を得ることができます。

当直では、救急外来にきた患者さんにファーストタッチで対応させていただけます。自分で問診をし、検査をオーダーし、自分で考えて患者さんを診ることができます。また、実際に行ったことについて、指導医の先生からフィードバックして指導をしていただけます。自分で考えて、自分で行動し、また、そのことについて教えていただけるので、机で勉強する以上の成果が得られることができると思います。

また、レクチャーが多いのも魅力の 1 つです。様々なレクチャーがあり、その 1 つ 1 つが、実践的な内容で、研修をするうえで非常にためになります。特に、毎週金曜日にある中村孝人先生のレクチャーでは、実際に経験した症例をもとに振り返りを行い、疾患だけでなく、診察についても学ぶことができます。

もし、奈良県西和医療センターに興味がおありでしたら、ぜひ見学にいらしてください。研修医一同お待ちしております。



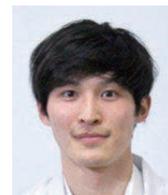
市居大季

2021 年度研修医 川島遼太郎（奈良県立医科大学卒）

初めまして、2021 年度採用の川島です。

私は最初に内科 4 か月をローテートさせていただきましたが、どの診療科の先生方も熱心に指導していただき、雰囲気の良い中で研修することができました。また、コメディカルの方も丁寧に教えてくださる方ばかりで、分からないことがあっても誰にでも聞きやすい環境になっています。研修医は 1、2 年目合わせて 18 人と多すぎず少なすぎずのちょうど良い人数です。様々な志望科を持った色々な考え方をを持った研修医が周りにいることで、毎日いい刺激をもらっています。何より当院は救急当直の初期対応は基本的に研修医のみで行っていて、2 年目の先輩方には救急対応や患者の病態について教えていただき、1 年目の同期とは支え合いながら様々な救急症例を経験することができます。ローテートで特に印象に残っているのは呼吸器内科で、基本的な検査や内科処置の手技を自分の技量に合わせて段階的に教授して下さったうえ、深く病棟管理に携わらせていただき初期対応から終末期のお看取りまで患者さんと向き合える時間を多く持つことで自信と責任を持って患者さんと接するようになったと思います。

この病院で勤務して感じるのは、上級医や先輩の研修医の方々、コメディカルの皆さんが 1 年目の研修医をしっかり見てくださっているということです。できていないことや間違っていることがあれば見逃さず指導して下さいますし、成長した部分に関してはしっかり評価していただき先の段階を見据えてより進んだ教育をして下さいます。この点が当院で研修する上で最も魅力的であると考えています。是非一緒に研修医生活を送ってみませんか。お待ちしております。



川島遼太郎

2021 年度研修医 河村健矢（奈良県立医科大学卒）

初めまして、2021 年度採用の河村健矢です。

僕が研修を終えて、実感した西和医療センターでの研修の良さについてお話しさせていただきます。

当院は病院全体としてとても教育に熱心です。

様々なレクチャーやカンファレンスがあり、非常に勉強になります。さらには当直以外でも内科ローテ中に、救急対応の機会があり、多くの救急症例を経験することが出来ます。

救急対応やカンファレンスの準備、病棟業務などどれも大変なことばかりですが、その分日々学びがあります。

そして上級医、コメディカルの方々、皆さんとても親切に指導していただき日々楽しく研修生活を過ごさせていただいています。

少しでも西和医療センターでの研修に興味を持たれたらぜひ見学にいらしてください。お待ちしております。



河村健矢

2021 年度研修医 高橋広太（神戸大学卒）

2021 年度採用の高橋です。これから西和医療センターと奈良県の魅力を伝えさせていただきたいと思います。僕はもともと兵庫出身で奈良にゆかりは全くありませんでした。兵庫での就職を大体決めていたので、単なる興味で近隣地域の病院を探していました。その中で西和は倍率も程々で立地と教育も悪くないと思い興味を持ちました。早速 Zoom での説明会に参加してみました。参加してみたら驚くことに学生 2 人に対して先生方が何十人も参加しておられました。そのときの熱意に感動し、実際にこの目で見てみたいと心から思いました。見学に行き、西和の人の優しさ、奈良の自然と古来の文化の心地よさに触れ、魅力に取り憑かれてしまいました。気づいたら第 5 志望探しから見つけた病院を第 1 志望に上げていました。

研修医は最初知らないことだらけでストレスいっぱいですが、病院に関わる多くの人に支えてもらっているからこそ健全に研修生活が送れているのだと感じます。特に優しい先輩、面白い同期には感謝しかありません。

奈良県に来たのも正解で日々落ち着いた雰囲気癒されています。まだまだ奈良県に関しては素人なのでこれからどう堪能していこうか画策しております。



高橋広太

2021 年度研修医 棚瀬万葉（大分大学卒）

初めまして、2021 年度採用の棚瀬万葉と申します。この度は奈良県西和医療センターのパンフレットを手にとって頂きありがとうございます。当院の魅力を少しでも皆様にお伝えできれば幸いです。

当院の魅力は大きく 3 つあると思います。

1 つ目の魅力は、上級医の先生方や全ての医療従事者が親身になって研修医を指導して下さることです。入院患者さんや救急受診した患者さんが診察・治療を受けて自宅や施設に帰るまで様々な職種の方と連携をとりながら医療を施します。上級医の先生から診察方法や鑑別疾患の考え方等を学ぶだけでなく、薬剤師さんから薬の副作用や容量、薬物動態などを学んだり、理学療法士さんと退院に向けてのリハビリ調整をしたり、社会福祉士さんに施設へ帰る段取りをして頂いたり和多職種の方と多方面に関わり医療の仕組みを学ぶことができます。

2 つ目はレクチャーが豊富なことです。1 つの診療科を 1 か月ないし 2 か月ごとにローテートしますが、私は当直や救急外来で患者さんを診察する際に自分が今研修している診療科の思考に偏ってしまいます。放射線読影講義やエコーの練習、心電図の読み方など様々な分野のレクチャーがあるおかげで思考が偏ることなく広い視野で患者さんを診察することができると思います。

最後は何と言っても、優しく教えて下さる先輩方・互いに高めあえる同期の研修医の存在です。どの病院でも体力的・精神的にしんどいことはあると思います。その時に助け合い一緒に成長できる仲間がいることは一生の財産になります。私も幾度となく助けられてきました。

一度西和医療センターへ見学に来て、病院の雰囲気を肌で感じていただけたら嬉しく思います。心よりお待ちしております。



棚瀬万葉

2021 年度研修医 辻絢斗（佐賀大学卒）

こんにちは。2021 年度採用の辻絢斗です。当院に興味を持っていただきありがとうございます。当院の魅力を少しでもお伝えできればと思います。

当院の一番の魅力としては、指導医の先生方との距離感が良く、何でも質問しやすい環境であることが挙げられます。当直で様々な先生方と接する機会があるのですが、どの先生方も熱心に指導して下さり、とても勉強になります。

また、エコーや心電図、放射線読影など様々な勉強会が企画されており、幅広い知識を身につける事ができます。そして、救急外来では患者さんに研修医がファーストタッチで対応させていただく場合が多いので、勉強会で学んだ知識を実践する機会も多く、知識の定着も早いと感じています。

当院の研修医は私を含め他大出身者も多く、多様性に富んでおりとても楽しいです。奈良医大出身の先生方との壁もないので、他大の方でも気後れせずに来ていただければ嬉しいです。先輩の先生方との仲も良く、困った際はすぐに助けてくださり非常に心強いです。

当院の雰囲気の良さは実際に見学に来ていただければすぐに伝わるとお思いますので、ぜひ病院見学にお越しください。



辻絢斗

い。お待ちしております。

2021年度研修医 辻本虹歩（香川大学卒）

この度は、西和医療センターでの初期研修に興味を持って来てくださりありがとうございます。今この文章を読んでいるあなたがもしもまだ見学に来たことがないのなら、今すぐに見学の申し込みをすることをおすすめします。というのも、パンフレットやホームページではその病院の雰囲気などを本当に意味で知ることは難しいからです。私は西和医療センターがどんな病院なのかあまり知らずに見学に来たのですが、ここで働く医師やコメディカルの方々の雰囲気に魅力を感じ、その日のうちにこの病院が第一志望になりました。実際に働き始めて、同期や先輩の研修医の先生だけでなく指導医の先生方やコメディカルの方々に毎日のように助けられて過ごしています。この環境でなければここまで一生懸命研修に取り組むことはできていないと思います。初期研修の2年間は精神的にも体力的にも辛い場面がたくさんあると思います。この病院だったら2年間を自分らしくしっかりと頑張ることができそう、と思える病院をぜひ見つけてください。あなたにとってその病院が西和医療センターであることを願っています。



辻本虹歩

2021年度研修医 中西祥子（徳島大学卒）

こんにちは。2021年度採用の中西です。

研修を通して実感した西和医療センターの良さを少しでもお伝え出来ればと思います。

西和医療センターにはスキルアップのための豊富な勉強会、研修医が自分で設定できる柔軟な研修プログラム、病院と駅の両方に近い利便性の高い下宿先、医局と独立した研修医ルームなどたくさんの魅力があります。そして何よりも医師間、多職種間の仲の良さが1番だと思っています。

初めての当直で不安な中、看護師の方が「大丈夫だった？」と声をかけて下さり、翌朝上級医や先輩研修医が「分からなかったところがないか見直そうか」と一緒に復習して下さい、心強いサポートで乗り切ることが出来ました。今も病棟や救急の現場で熱心で親切な指導医や先輩研修医、頼れる看護師の方々に支えられ励まされて学ぶ日々です。

ぜひ一度見学に来てください。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。



中西祥子

2021年度研修医 西崎友哉（奈良県立医科大学卒）

初めまして、2021年度採用の西崎です。

奈良県西和医療センターでの研修に興味を持っていただきありがとうございます。

当院での研修は、まず内科系を2ヶ月ローテートしカルテの書き方や処方の仕方など基本的な業務を学ぶことから始まります。最初は簡単な事でも時間がかかり苦労もありますが、少しずつ着実に力をつけていくことができます。私の場合は呼吸器内科を選択したのですが、薬剤師さんや理学療法士さんなどコメディカルの方々との連携や在宅酸素療法の導入など、内科病棟業務の基本を学ぶことが出来ました。また、動脈採血など基本的な手技の習得はもちろんのこと、5月には胸腔穿刺も経験することができ、技術面においても大きく成長することが出来ました。

そして、その後1年目は必修科目を中心にローテートし、診断や治療に必要な基本的知識・技術を身につけていきます。この文章を書いている今は麻酔科をローテートしていますが、かなりの数の気管挿管を経験することができ、Aライン確保や腰椎穿刺などについても十分な数をこなすことが出来ます。教育熱心な先生方と親切に接して下さるコメディカルスタッフの方々に支えられ、日々成長を実感しながら充実した研修生活を送ることができます。

その他にも、豊富なレクチャーやテルモ合宿など、楽しく勉強できる環境が整っています。当院での研修に少しでも興味を持たれた方は、ぜひ1度見学にいらしてください。研修医一同お待ちしております。



西崎友哉

2021 年度研修医 齊藤正一郎（奈良県立医科大学卒）

こんにちは、2021 年度タスキの齊藤と申します。

西和医療センターでの初期研修の最大の特徴はなんと言ってもそのフレキシブルさにあります。

病床数は 300 床と大病院とは言えませんが、その分先生同士の距離が近く、やる気さえ示せばなんでもやらせてもらえ、経験することができます。

太平洋戦争時の折、連合艦隊司令長官であった山本五十六の有名な言葉に「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」というものがあります。西和の先生方やコメディカルの方々は皆さん大変優しく、この言葉通りの教育を僕は西和の研修で日頃から感じることができています。

2 年目になると奈良県立医科大学などの関連病院での研修も行うことができ、血液内科や脳神経内科など西和医療センターにはない診療科の研鑽の補填はしっかりされることになります。

このように小規模病院の良さを生かしつつ、デメリットも埋めるシステムが整っているのが西和医療センターという病院ですが、逆に言うと自分で研修システムを良い方向に変えていこうというマインドが全くない人や、そもそもあまりやる気がない人には向いていないかもしれません。フレキシブルさや先生方の優しさが仇となりいわゆるハイポ病院での研修に近いものになってしまう。

西和医療センターは日々の研修に対して改善点を見つけていけるようなマインドのある研修医、「それ、やらせてください」と言える研修医を求めていますし、僕もそのような後輩と研修を一緒にできたらいいなと思っています（まあこれを読んでくださる後輩の先生方が西和で働き始める時僕はもういませんけど笑）



齊藤正一郎

2021 年度研修医 藤中加奈（奈良県立医科大学卒）

初めまして、2021 年度採用の藤中と申します。奈良県立医科大学附属病院 B（通称たすき）プログラムで初期研修の 2 年のうちの 1 年目の研修を西和医療センターで行いました。当院での研修が決定してから研修がスタートするまで病院や職員の皆様に馴染むことができるだろうかと不安もありましたが、杞憂でした。春からの研修生活で実感している当院の魅力は指導医だけでなく病院全体のスタッフの方々の心遣いの細やかさです。当院の初期研修医は救急外来でのファーストタッチ、病棟業務、種々の手技などを最前線で行います。そのような恵まれた日々は病院全体が私たちの主体性を重んじ、かつ近くから指導・サポートして下さる環境により成り立っています。2 年目研修医の先生も 1 年目研修医にその時々様々なアドバイスをしてくださり、とても良好な関係を築けています。またレクチャーなどの多さも当院初期研修プログラムの魅力ではありますが、多様な業務を行いながら勉強会に出席することは容易いことではありません。それでも業務外での学びの機会を享受できるのはこれらの活動に対する参加を病院全体があと押ししてくださっている背景があるからだと感じています。この雰囲気は初期研修医一人一人のやる気へ繋がっており、私個人としてはとても感謝しております。

総じて、私たち研修医の声によく耳を傾けてくれる病院です。より良い研修の形を求めて指導医の先生のみならず、研修医も一丸となって取り組んでおります。ぜひ、当院の初期研修プログラムにご興味を持たれました方は、見学・Web 見学にいらしてください。初期研修医をはじめ病院全体で皆様をお待ちしております。



藤中加奈

2022年度研修医 上野慎治（山口大学卒）

初めまして、2022年度採用の上野慎治です。

私は最初に呼吸器内科を2ヶ月ローテートさせていただきましたが、その2ヶ月間で非常に充実した研修生活を送らせていただきました。自分で患者さんに直接会いに行き患者さんの状態を把握し、検査をオーダーしてその結果から患者さんに最善の治療を考えるといった本当に将来の役に立つ研修をさせてもらっています。自分一人で考えるのではなく、自分で考えたことを指導医の先生に相談して適切なアドバイスをさせていただくという手厚い指導のもと研修しています。呼吸器内科にローテート中であっても他の科の先生に相談すれば親身に相談に乗っていただけます。西和医療センターは研修医にとって非常に有意義な2年間を送れる環境になっていると思います。

また、臨床業務以外に勉強会も非常に充実しています。例えば、中村先生の総合内科カンファレンスは身体診察の重要性や、救急外来に運ばれてきた患者さんの初期対応の基礎など研修医にとって非常にためになる勉強会となっています。

西和医療センターでの研修を通して、当センターは指導医の先生方はもちろん、先輩方やコメディカルの皆さんが研修医をしっかり見てくださる非常にアットホームな病院だと感じています。是非一度、病院見学に来て西和医療センターの雰囲気をぜひ感じ取ってください。

2022年度研修医 大久一樹（奈良県立医科大学卒）

初めまして、2022年度採用の大久です。

私が臨床研修を通して実感した当院の最大の魅力は、研修医教育への熱意がとて強いということです。上級医の先生方だけでなく、看護師さんや他のコメディカルの方々が、私たち研修医に対してとても親身になって指導して下さります。また、総合診療カンファレンスや放射線読影講義、超音波セミナーなど様々な勉強会が企画されており、研修医に必要な様々な知識・技術を身に付ける事ができます。そして何よりも、病院全体で臨床研修をより良くしていこうという雰囲気があることが私が当院での研修を選んで良かったと一番感じるところです。

当院は大学病院のような大きな病院ではないですが、その分、研修医が救急外来のファーストタッチの対応をさせて頂けたり、スタッフ同士の距離が近かったり、病院一丸となって患者さんの診療や私たち研修医への教育に取り組もうという雰囲気があったり、当院ならではの魅力がたくさんあります。

ぜひ一度、西和医療センターの見学に来ていただき、その魅力を存分に感じて下さい。お待ちしております。

2022年度研修医 河本瑛仁（奈良県立医科大学卒）

初めまして、2022年度採用の河本です。

西和医療センターでの研修に興味を持っていただきありがとうございます。

私が当院を選んだ理由は、熱心な教育が受けられることや、救急患者のFirst-touchの機会が豊富なこと、研修医の人数、雰囲気、などなど枚挙に暇がありません。実際に研修してみて、当院の魅力をあらためて実感しています。

研修内容等に関する生の声は他の研修医の紹介文を参考にさせていただくとして、私がお伝えしたいアピールポイントは、病院スタッフの方々と距離感が近いことです。研修は自分次第とは言いますが、教育熱心な先生方は勿論、親切的なコメディカルスタッフの方々、とても頼りになる先輩方、心技体を互いに切磋琢磨し合える同期の存在は医師として最初の2年間の成長における大きなアドバンテージになるはずです。

是非一度、見学にいらして下さい。当院の雰囲気を直接感じていただければと思います。西和医療センター職員一同、心よりお待ちしております。



上野慎治



大久一樹



河本瑛仁

2022 年度研修医 中若菜 (福岡大学卒)

初めまして、2022 年度採用の中です。

西和医療センターは上級医の先生方だけでなく多職種の方々ともとても距離が近い病院です。研修医が困っているとみなさん助けてくださったり、指導もたくさんして下さります。日常の業務の中でだけでなく、心電図・エコー・画像読影など豊富なレクチャーでも知識を深めることができます。病院全体が研修医を育てようとしてくださっていることを強く実感し、1 年目の最初で何もわからない状態であっても、毎日親切なスタッフの皆さんに助けていただいています。

また私は他県の大学出身で初めは緊張していましたが、奈良医大出身の先生方や同期とも壁を感じることなく楽しく働いています。ですから、もしも他県出身ということを気にされている方がいらっしゃったならそれは心配されなくて良いと思います。研修医は関西だけでなく各地方の大学から集まっています。人数も1 学年 10 人前後とちょうどいい人数で、互いに教えあったり助け合ったりと楽しく研修生活を送れています。

興味を持たれた方はぜひ1 度病院見学に来てください。この病院の魅力をもっとお伝えできればと思います。



中若菜

2022 年度研修医 中川こころ (奈良県立医科大学卒)

はじめまして、2022 年度採用の中川こころです。

当院の研修環境の魅力についていくつか述べたいと思います。

1 つ目は上級医の先生方だけでなく、コメディカルの方々も我々研修医をととても丁寧に指導して下さることです。先生方はお忙しい診療の合間を縫ってレクチャーやレポート添削をしていただいたり、看護師の皆様からも手技のコツを教えていただいたり、日々温かくご指導していただいています。

2 つ目は豊富な勉強会があることです。臨床研修と合わせて総合診療カンファ、読影セミナー、腹部エコーセミナーなど、非常に為になる勉強会を多数経験しています。仕事ですぐに役立つ内容が多く、日々の診療の中で勉強会の復習が出来ていると感じています。

3 つ目は研修医へのサポートがとても手厚いことです。例えば、2022 年度から研修医に対して電子カルテ端末が1 人1 台支給されました。これによりカルテチェック、退院サマリやレポートの作成などが格段に便利になりました。他にも細かい点を挙げればキリがないほど良い研修環境だと感じています。是非一度見学にいらっしゃってください。



中川こころ

2022 年度研修医 堀木翔太 (愛媛大学卒)

初めまして、2022 年度採用の堀木です。臨床研修を通して感じた西和医療センターの魅力をお伝えしたいと思います。

1 つ目の魅力は、上級医の先生方との距離が近いことにあります。研修を始めたばかりの頃は、やる事なすこと全てが初めてで、わからないことが多くあります。しかし、その都度上級医の先生方に丁寧に、親身になって教えて頂けます。日々の問診、診察、処方、些細な事であってもしっかりと聞ける環境というものはとてもありがたく、安心できる部分でもありますし、また成長できる機会でもあります。

2 つ目は豊富なレクチャーです。定期的にレクチャーがあることで、自分がその時ローテーションしている科以外の知識や考え方を知る事ができますので、特に幅広い知識が必要となる救急対応に役立つことを多く学べます。

3 つ目は研修医の数です。1 学年 10 人程度と少なすぎず多すぎず、症例を取り合うようなこともありません。なので、色んな経験を積ませていただけますし、また研修医同士の横のつながりも深く、お互いに高めあう事ができます。西和の魅力は私がこの場で書かせていただいた事が全てではありません。是非、病院見学に来ていただき、より多くの魅力を知ってもらいたいと思います。



堀木翔太

2022年度研修医 三好真緒（奈良県立医科大学卒）

こんにちは、2022年度採用の三好真緒です。

私は病院見学で西和医療センターを訪れた際、先生方はもちろん、コメディカルのみなさんのあたたかい雰囲気、人柄の良さ、そして医療に対する真摯な姿勢を目の当たりにし、見学その日に当院が第一希望の病院になりました。そして豊富な勉強会に柔軟な研修プログラムの用意されているこの病院なら、初期研修の2年間、心身ともに成長できると直感的に感じました。そしてその直感は今、限りなく確信に近づいています。

臨床研修が始まり、指導医の先生方、そして研修医の先輩方から熱心にご指導頂き、看護師さんはもちろんコメディカルの皆様方に大いに助けて頂きながら、日々成長を感じつつ楽しく充実した研修生活を送っています。これを書きながら振り返ってみれば、今は、そしてこれからも、当院で初期研修がでることに心から感謝しています。

是非一度、西和医療センターの雰囲気を肌で感じにいらして下さい。もし、あなたの直感にも響くものがあつたのなら、ポンと背中を押して差し上げたいと思います。一緒に成長できることを楽しみにしています。



三好真緒

2022年度研修医 元木碧人（奈良県立医科大学卒）

はじめまして、2022年度採用の元木です。西和医療センターで臨床研修をおこない、その中で感じた西和医療センターの魅力についてお話させていただきたいと思います。

僕は当初、働き出すことに対して不安がたくさんありました。皆さんもそうだと思います。しかし、西和医療センターには病院全体で研修医を育てようとしてくださる教育体制が整っており、丁寧に一から教えてもらうことができるため、研修医としてスタートするのに最適な環境だと思います。先生方はもちろん、コメディカルの方々がとても親切で、様々な職種の方と関わることで多角的な目線で教わることが出来ます。

ローテーションをととも自由に決められることができる点も魅力だと思います。柔軟にローテーションを組め、西和医療センターにない科は奈良県総合医療センターや奈良県立医科大学などに行くこともできます。また地域実習では神奈川県三浦に行くことができるのも良い点ではないでしょうか。

レクチャーの件数も適切であり、必要なレクチャーを受けることができます。多すぎて消化しきれないということもなく、また自身の回っている科の業務の支障をきたすこともありません。また、研修医の人数も1年目2年目合わせて、約20人であり、少人数でレクチャーを受けることができます。

ダラダラと話してしまいましたが、もし西和医療センターに興味を持っていたければ幸いです。少しでも興味を持っていただいたら一度見学に来てみてください。1日だけでも西和医療センターの魅力を感じられると思います。お会い出来る日を楽しみにしています。



元木碧人

2022年度研修医 安田由利子（奈良県立医科大学卒）

こんにちは、2022年度採用の安田と申します。この度は西和医療センターに興味をもってくださいありがとうございます。私が初期研修病院を探すにあたり重視していたのは、勉強会などの座学的な学びと実践的な学びがどちらも充実していることでしたが、この点において西和は理想的な病院だと思います。

勉強会といっても実践的なものが多く、放射線読影講義やエコーのレクチャー、心電図の読み方など明日から使える知識を学ぶことができます。救急外来でのファーストタッチ、病棟業務、様々な手技を行う機会があればどんどんやらせていただけるため、勉強会で得た学びをすぐに生かすことができます。指導熱心な指導医の先生方や2年目の先生方、心強い看護師の方々がこまめに指導・サポートして下さるので、学びという点において申し分ない環境です。

また、西和で働く方々の人柄は大きな魅力だと思います。惜しみなく時間を割いてレクチャーして下さったり、業務に慣れない身でつらくなっているか気にかけて下さったり、たくさんの方々に支えられながら日々の研修生活を送っています。こういった優しさは勿論個人のものですが、病院全体の雰囲気としてもあるように感じます。紙面だけでは西和の魅力は全く伝えきれませんので、ぜひ一度見学にいらして下さい。皆さんとお会いできるのを心待ちにしています。



安田由利子

2022 年度研修医 横山仁美（奈良県立医科大学卒）

初めまして、2022 年度採用の横山仁美です。この度は西和医療センターでの初期研修に興味を持っていただきありがとうございます。

当院の魅力は、勉強会が豊富な点、研修プログラムがフレキシブルな点、救急の初期対応をさせていただける点など多岐に渡りますが、なによりも医師やコメディカルの方々の雰囲気の良いところが最大の魅力だと思います。先輩の研修医や上級医の先生方だけでなく、看護師や薬剤師など様々な職種の方々が丁寧に指導して下さいます。

私はローテートの最初に総合内科を選択したのですが、「まずは慣れることが大事」と、カルテの書き方など基本的なことから優しく教えていただきました。そして先生方およびコメディカルの方々のサポートの元、手技や診察、病棟管理について多くのことを学びました。患者さんの診察を行い、鑑別を挙げ、必要な検査や治療を考え、上級医にフィードバックをいただくことで、着実に実力をつけることができます。「分からないことがあればいつでも何でも質問してくれると嬉しい」と仰っていただき、心理的安全性が非常に高い環境であると感じました。

少しでも当院での研修に興味を持たれたら、ぜひ一度見学にいらしてください。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。



横山仁美

2022 年度研修医 川西修平（奈良県立医科大学卒）

初めまして、2022 年度採用の川西修平と申します。奈良県立医科大学附属病院B（通称：たすき）プログラムで初期研修の1年目を西和医療センターで行っています。

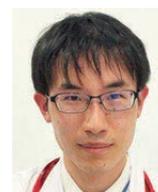
当院の魅力は、研修医の指導が手厚いことが挙げられます。指導医のみならず、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、他にも様々な職種の方が研修医に教えて下さります。

研修医が一つ医療手技を行うにしても、まず指導医が手技の経験を研修医に勧めて下さります。そして、実際指導医に横で見てもらいながら研修医が手技を行います。その後、行った手技の評価や補足情報を教えて下さります。手技がうまく出来なかった場合でも、優しく改善点を指摘していただけます。

仕事上での指導以外にも、研修医主体で行うモーニングセミナーや、放射線科による画像診断講座、超音波エコーセミナーなど、実臨床で必要となる手技を学ぶ事が出来ます。

自分自身の成長を実感できる環境が当院にはあると感じています。私は、この病院に就職できて良かったと実感しており、とても感謝しております。

当院での研修に少しでも興味を持った方は是非1度見学にいらして下さい。心よりお待ちしております。



川西修平

2022 年度研修医 北風真子（奈良県立医科大学卒）

こんにちは。2022 年度採用の北風です。短い紹介文ではありますが、少しでも当院の雰囲気や魅力をお伝えできればと思います。

西和医療センターは病院全体が研修医の教育に対して高い意識を持っていると感じています。様々な勉強会、エコーや画像読影のセミナー、カンファレンスなどが企画されており、外部から講師が来てくださることも多く幅広い学びを得ることができます。働き始める前は勉強会が多いと負担にならないか心配でしたが、いまのところ負担には感じていません。むしろ働いていると自分の知識不足、経験不足を痛感する毎日なので、勉強する機会があることはとてもありがたく思っています。また、スタッフの皆さんも研修にとっても協力的で、不慣れな手技でもたついたりした時もあたたかく見守りアドバイスをくださる方ばかりです。

研修医全体の雰囲気もとてもよく、研修医ルームではみんなで採血の練習をしたり、分からないことを一緒に調べたり教え合ったりと楽しく過ごしています。先輩研修医の先生方も親切に色々教えてくださりとても心強いです。周りの真面目さ優秀さに感化され、不出来な私も何とか頑張っています。一緒に頑張る仲間、尊敬できる先輩がいなければもっと怠けていたと思います…。

ここまで色々書いてきましたが、百聞は一見にしかず！実際に病院に見学に来て、雰囲気を感じ取っていただくのが1番だと思います。ぜひ見学にいらしてください。皆さんとお話できるのを楽しみにお待ちしております。



北風真子

2022 年度研修医 水野雄貴（奈良県立医科大学卒）

初めまして、2022 年度採用の水野雄貴と申します。この度は西和医療センターに興味を持っていただきありがとうございます。西和医療センターでは非常に充実した研修生活を送っております。西和医療センターの魅力に、指導医の先生方を始め、スタッフの方々が非常に教育熱心なところがあります。正直なところ研修当初は分からないことばかりで、小さいこと一つするにも苦労していました。しかし、当院のスタッフの方々はいつでも親切にそして丁寧に教えてくださるので、日々少しずつ成長を感じることができます。特に救急当直では上級医の先生の下で、問診、身体診察、鑑別、検査、治療方針などを自分で考え、すぐにフィードバックしていただけるので、一つ一つの症例から多くのことを学ぶことができます。他にも豊富な勉強会を設けていただいたり、一人一台電子カルテのパソコンが用意されており、いつでもカルテを確認できるようにしていただいたりなど、よりよい研修ができるように先生方が研修医の意見を聞いてくださいます。

このように西和医療センターの魅力をいくつか紹介しましたが、他にもたくさんあります。見学に来ていただければより多くの魅力を伝えることができると思います。研修医一同お待ちしております。



水野雄貴

病院説明会

奈良県西和医療センターは、関西地域での病院説明会に参加しています。

詳細については、QR コードをご確認ください。



また、当センターは独自で Web 説明会を開催しております。P.99 に案内を掲載しておりますのでご覧ください。

研修設備

研修医室

研修医一人一人に机、専用パソコン、専用 iPad

研修医専用当直室およびシャワー室

女性医師専用当直室および女性医師専用シャワー室

トレーニングルーム（各種トレーニング機材）

Up to Date, Medical Online の利用は院内のどこからでも iPad を用いて可能です。

もちろん研修医室に設置されている個人用パソコンからのアクセスも可能です。

待遇

- ・ 給 与 (1年目) 月額 259,500 円
(2年目) 月額 274,500 円
別途諸手当有り (宿日直手当、通勤手当、超過勤務手当)
- ・ 実質月収例 (1年目) 476,000 円 (2年目) 525,000 円
(令和2年度実績)
- ・ 勤務時間 8:30 ~ 17:15
- ・ 休 日 土曜日、日曜日、祝日 (当直明け制度あり)
年休 10 日 (1年目)・11 日 (2年目)
年末年始 (12/29 ~ 1/3)、夏期休暇 (3 日)
- ・ 保 険 地方職員共済組合 (保険、年金)、雇用保険、公務災害補償
- ・ 医師賠償責任保険 病院において加入
(個人加入については任意)
- ・ 借上宿舍 自己負担額 (単身者用) 20,000 円 / 月程度
- ・ 健康管理 定期健康診断 (年 2 回) 有り
- ・ 福利厚生施設 コンビニ等



募集要項

臨床研修プログラム応募資格

応募資格第 117 回（2023 年）医師国家試験を受験する者

臨床研修プログラム募集定員

プログラムの名称	プログラムの特徴	募集定員
奈良県西和医療センター臨床研修プログラム	奈良県西和医療センターでの基本研修を主体とする研修プログラム	10 名

選考の方法

応募期間

令和 4 年 6 月頃からを予定。具体的な日程はホームページで公開します。

試験内容

- ・面接
 - ・小論文（テーマは試験当日に配布します）
- ※希望者には Web 試験を実施致します。

試験日時

令和 4 年 7 月～9 月で予定しています。
具体的な日程はホームページで公開します。

試験会場

奈良県西和医療センター 事務棟 大会議室、トレーニングルーム
（生駒郡三郷町三室 1-14-16 JR 王寺駅又は近鉄王寺駅、新王寺駅下車徒歩 15 分）

募集定員

10 名

採用決定方式

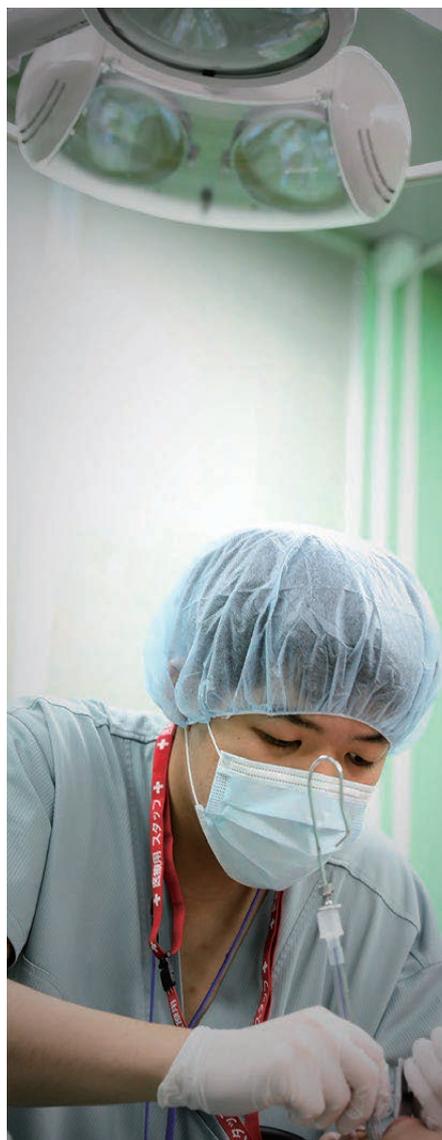
マッチング方式

応募必要書類

- ・臨床研修医選考試験願書および採用申請書
- ・卒業見込証明書
- ・5 年次までの成績証明書
- ・健康診断書（大学健康診断時のもので可）
- ・受験用返信封筒（出願者本人の住所・氏名を記載した受験票返信用封筒）

応募連絡先

奈良県西和医療センター 総務課研修係
電話（代表）0745-32-0505（内線 2212）
（直通）0745-43-5246
メールアドレス seiwa@nara-pho.jp



病院見学のご案内

目的

医学生を対象とし、当院で実施している急性期医療、救急医療など高度な医療を含めて実際の臨床現場で見学し、人としての医療人のことと急性期病院での医療に対する認識を深めていただきます。

要項

期間

随時受付（土日祝日および年末年始（12/29 - 1/3）を除く）
希望に応じて夜間の見学も可能ですのでお申し出ください。

担当

臨床研修医支援室の医師と希望診療科の指導医が担当します。

施設

更衣室
院内にコンビニ・自販機有 ※昼食は用意いたします。

病院見学申込み方法

当院ホームページ www.seiwa-mc.jp/ の「医師臨床研修ページ」または次頁の【学生見学申込書】に必要事項を記入し、下記受付窓口までメールまたは FAX にてご提出ください。
当方からの返信が届かない場合は下記窓口までご一報ください。
見学当日は、学生証、白衣、名札をご持参ください。

Web 説明会のご案内

目的

遠方にて見学が難しい等で院内見学が困難な医学生を対象に、当院の初期臨床研修についての魅力を感じていただきたいと思います。
1人でもグループでの受付もできます。

要項

期間

月曜日～金曜日（※土日祝応相談） ・17時～20時の間で30分～1時間程度実施

担当

臨床研修医支援室の医師と希望診療科の指導医が担当します。

環境状況

Zoomの利用環境を自身で整備できる者に限る。また、通信料等について自身の負担とする。
同時間に複数申込があれば、合同説明会形式とする。

Web 説明会申込み方法

当院ホームページ www.seiwa-mc.jp/ の「医師臨床研修ページ」の【学生 Web 説明会申込書】に必要事項を記入し、下記受付窓口までメールまたは FAX にてご提出ください。
グループでのお申込の場合も、個人での申込書を提出してください。

受付窓口（下記メールアドレスへご連絡ください。）

奈良西和医療センター 総務課研修係
電話（代表） 0745-32-0505 FAX 0745-32-0547
（直通） 0745-43-5246
メールアドレス seiwa-soumu-kensyu@nara-pho.jp

学生見学申込書

(メール (FAX) 添付用)

ふりがな		
氏名		
住所		
生年月日		
性別		
電話番号(携帯電話番号)		
メールアドレス		
大学・学年		
見学希望日・見学希望診療科	見学希望日	見学希望診療科
第1希望		
第2希望		
第3希望		
過去に見学に来られたことがある方、臨床研修医合同説明会にこられた方は、その旨も記載ください。		

※メールアドレスは、連絡のつきやすいアドレスを入力してください。

※下記メールアドレス (FAX番号) に学生見学申込書を添付のうえ、送信してください。

※メール送信後3日以内に当センターから連絡がない場合は、下記問い合わせ先にご連絡ください。

お問い合わせ

奈良県西和医療センター 総務課研修係

電話 (代表)0745-32-0505(内2212)

(直通)0745-43-5246

FAX 0745-32-0547

URL <http://seiwa-mc.jp>

メールアドレス seiwa-soumu-kensyu@nara-pho.jp



2016 年度研修医



2017 年度研修医



2018 年度研修医



2019 年度研修医



2020 年度研修医



2021 年度研修医



2022 年度研修医

- ■ 卒後臨床研修評価機構
- ■ 認定病院

Japan Council for Evaluation of Postgraduate
Clinical Training

JCEP



地方独立行政法人 奈良県立病院機構

奈良県西和医療センター